60
742

始

エト27-9
60-742

京都帝國大學
理學部講師 理學士 山本宣治著

性教育

內外出版株式會社發兌

大正
12 8 6
內交

最愛の五兒

山本英治
山本浩治
濱田繁治
山本治子
山本美代

に捧ぐ

裝釘　陸　口　孝　三　氏

目　次

自說大要及び補遺　一—四六

＊　＊　＊

第一篇　性教育汎論　四七—一二〇

第一章　性的啓蒙主義の存在理由　四七

第二章　大正文化と啓蒙運動　七一

第三章　性教育の存在理由　七三

第四章　性學界の現狀　七七

第五章　各方面に對する要求　九〇

第六章　既に存する諸種の性教育　九八

第七章　純科學的性教育の基調　一〇九

第二篇　對青年の性教育實驗報告　一二一—一三四

第一章　人生生物學の存在理由　一二一
第二章　理想的講義に近づかんとする努力　一二八
第三章　講義の內容と其基調　一三七
第四章　講義の反應と青年心理　一四六
第五章　性學講義無用論に對して　一五四
第六章　大規模啓蒙の必要な理由　一六五
第七章　教材の急進的配列　一七一
第八章　聽講の結果起り得べき危險　一九一
第九章　講義の嚴肅味と公平　二〇一
第十章　教訓無用論　二一五

第三篇　現代各方面の性教育對策　二二五—二四〇

第一章　對策序說　二二六
第二章　諸種の對策　二四八
第三章　女に對する性教育　二八九

＊　附錄　＊

參考論文　本能と性の問題　三四一
參考資料　人生生物學資料蒐集に就て　三五二
同　松江高等女學校の月經記錄　三八五
同　性學文獻解題　四〇九

自說大要及び補遺

斯樣なものを始めに書く理由。通常生物學の論文では、其の結末に論者の創見の梗概を簡明に記す事を例さして居る。卽種々の論據を詳く明示した後に歸納し得た所を一括する仕方であるが、實際我々が多くの文獻を涉獵する際に十々丁寧に熟讀する根氣がよしあつても暇が無いから、簡便法としてまづ或論文に接したならば先づ第一に說の終りの梗概を見、次に挿圖を一瞥して、それで大抵のものは卒業するか、なほ其が重要のものと思ふたら第一頁に戻つて始めから熟讀する樣な習慣が多い。

生物學者ならず共、今の忙しい世の中には扉と裝釘と本文の始め終りとさへ睨めば、立所に良書か惡書かを直覺し得る圖書館買入係を始め、書肆店頭で一讀其要に通じやうと試みる能率增進家に至る迄、皆腦力と時間と財の節約を圖らぬ者は無い。卽斯く「要領よく」埒を明けやうとする人々の便宜を圖つたわけで、無根據の獨斷說を最初から高飛車に押賣りしやうとする樣な不屈きな根性は毛頭もない事を御承知願ひたい。

尙一つ斯樣なものゝ存在を必要とする理由は、印刷物に關する予一個の主義を趣味との表現である予獨特の文體と、其に對する讀者側の要求に關係がある。本來印刷された論文は、或制限された時間內に耳を通じて聽者に受入れらるべき講演とは其形式を異にするは當然である。卽講演にあつては平明流暢な旨として、時に反復を厭はずして耳より入る音調は滑かに、且又講演者聽者間に成立すべき一種の調和を生

ぜしむる爲に、社交的美辭敬語をも惜む事は出來ぬ。併し乍ら其は講演に限る特殊要件であつて、反復熟讀の可能なる論文に斯かる要求を輸入すれば、文體の冗漫と容積の膨脹と之に伴ふ活版・文撰・植字工のエネルギー浪費と又購讀者の負擔增大とに其弊が明かに現はれて來る。併し乍ら現代のジヤーナリズム的印刷物に於ては、無意味なる模倣による著述發行者側の惰勢と又讀書人が徒らに群集暗示に左右されて新聞廣告の大きさと書籍其物の大きさと、値段の「手頃さ」とのみと以て、事を律する結果、上述の弊害がいづこにも遺憾無く現れて居る。

予の信念に據れば、斯樣な傾向に應じて「である」ですむ所を「であるのであります」と引延ばして元を取らうとするのは、苟くもペンを手にして活字と化すべき原稿を記す者の自己に對して冒瀆、社會文化に對しては罪惡である。一冊で纏め得られる內容を幾册にも引延ばすのは、著者書肆馴れあひの詐欺取財であり、一冊丈の內容を唯表題のみかへる事によつて幾度と無く書肆の店頭を賑はすは、寧ろ詐欺取財を超越して楠公藥人形の故智を襲ふた時代錯誤の滑稽である。しかも世の讀書人は此悲しむべくも亦憤るべき藥人形と詐欺取財とに對して無頓著であるのは、予の眼から見て不可思議千萬であるが、價値批判の標準が斯く迄顚倒したのか。多くの人がさうして居る又其に馴れて居るといふ事は、其の正しい證據にはならぬ。如何となれば、官吏の收賄瀆職が多く起るから、其で正しいと斷定出來ないのと同一の理由による。

其故予は、ふとかした自己獨特の文體に飽く迄固執して、世の多數著述家の前に降伏迫從する事を欲しかくする事を必要とせつゝの環境に大に感謝して居る。世間は廣いから、

斯樣な變人の存在位は許して貰へさうに思ふが、矢張『慣習』に對するつきあひもせよと、親切な一先輩は

『君の文體の短所は、蜻蛉の眼に四方八方の寫る如く、多方面が一時に見えて面白けれど、焦點朦朧として、讀者をして五里夢中の狸に彷徨させたまま又勝手に他の飛んでも無い所へ跡は野となれ……だ』

と忠言を賜はつた。併し甚だ頑固ではあるが、上述の理由に基づき態度は改めぬ事とする。但し途中で色色の脫線を試みたる爲、主要な說を取出すのが困難といふ非難は至極當然と思ふから、此困難を少からしめたい、又誤解を避けたいといふ理由があつて、此部分を後に追加した次第である。併し、時代が時代だから、何所迄が逆說、どの點は本音、どこは皮肉と、態々一々お斷りする事は出來ないが、其點は不惡賢明な讀者の御諒承を願ふておく。

全部の通覽

一、此三篇の論文は、論者自身三十四年間の體驗を經となし、又最近數年間試みた一般生物學を基礎とした性學研究と同志社大學豫科で試みた性敎育の實驗とを緯とした一種科學的創作である。論者自身が今日に到る迄の成人期に於て遭遇した諸種の性現象に對して、現代性學の下した解釋は一々論據を據げて述べてお

るから、此點に於ては純客觀的妥當性を有する科學論文であると自信して居る。何其外に現代日本の文化に於て見る諸種の性現象に就て下した批判は、予自身は純客觀的に正しいと自信して居ても、立脚地や價値批判の標準の相異がある事ゆへ、其部分は普遍的妥當性を具へて居るとは自惚れず、唯こういふ風にも見れば見られると他人の參考に迄述べてある。此部分には別に誰にも煩はされて居ないから、純然たる創作論文であり、餘程主觀的の色彩がある。

此二樣の要素が交じつては居るが「である」と「と思ふ」とは嚴密に區別して用ひてある積りだから、注意して讀めば、著者獨特の意見と現實の普遍的事實とは明かに區別出來やうと思ふ。

二、此三篇は時を異にして順々に記されたが、之に記された論旨及び事實は、最初一九二一年四月同志社の學生と父兄と他の教師とに性教育に就ての理解を得る爲に書いた四六判五十頁の小論文「性教育私見」にほゞ盡されて居る。此「私見」を江湖の識者に送つて批評回答を乞ふた所が、奬勵援助される方が多く、其に力を得且此事の重大な意義が更に明確にわかつた爲、其を書き擴げて前後四回大觀及び女性改造に公表したものを一括し、更に新事實新發見を追加したものが之である

三、大體に於て、此三論文に現はるゝ對策は「定理」のみ述べて、其他の「系」又は「格段な場合の應用問題の解法」迄述べてない。

斯樣な事は不可能であり、又聰明な讀者にとつて無用であるから、

第一篇

一、此篇はまづ現代に於ける性的啓蒙主義の使命と其意義を述べ、其主義實現の手段としてまづ第一に純科學的性教育が必要な理由を列擧し、此主張に關係ある現代日本の文化の一部の批判を試みてある。

二、此論文は前に書いた「性教育私見」を讀んだ故大隈重信侯のすゝめにより

當時同侯主宰の雜誌「大觀」一九二一年八月號に寄稿したもので、著者少年時代の恩人としての侯卽「永久の青年たる我等のおやぢ」に献じた。其後引例論證等を增補して多少書き擴げてある。

三、あらゆる生物に於げる例に漏れず、人類も亦、人類全體として或は民族一體として絕滅を望まぬ限り、正常な體質を具へ順當な發育をした男女ならば、早晩異性を求める時が來る。そして斯く相牽引した男女の性的交渉の必然の結果として、兒がうまれ種族保存の實があげられる。

二、青春期に於ける男女の身體的及び心的焦燥煩悶は、其元を訊せば、皆前述の生殖產兒の原働力たる性的衝動卽性慾から來て居る。

三、性慾の發動或は放任或は抑壓によつて起る諸種の性現象に關する智識は消極的には其の皆無又は缺乏によつて起る危險を避ける爲、積極的には性本能の諸種の發現の由來と眞相とを辨へ以て此間に處し理性自律の可能なる範圍內に於

て之等本能の統馭調節を爲し得る爲に、是非共必要である。

四、此必要な性智識を授くる事卽性敎育をば、積極的隱蔽主義者は有害と考へ事勿れ主義者、體驗至上主義者、修養鍛練の力說者等は無用と見做し、孰れも之に携はらうとしない。一方性敎育を必要とする側卽性的啓蒙主義者の中には、醫師の如き特殊專門家を通ずる特殊啓蒙（性的資本主義）と民衆一般の自知自覺を喚起せんとする普遍啓蒙（性的分別至上主義）の二傾向がある。

五、隱蔽主義は從來の因襲道德趣味等の惰勢の爲、斯く必要なる性智識をも、士君子の携はつてはならぬ醜惡のものと解し、他人に對して性現象と性智識もろ共に極力秘密裡に葬らんと試みつゝある。

六、事勿れ主義は性智識を必要なものと知り乍ら、之を授くるは自己の上品さを減じ併せて他の非難輕蔑を招く事を恐れ、ひたすら局外中立の態度を保たんと試みる。

七、必要なる性智識も、或特殊の狀況に於ては、體驗を以て青年男女各自が銘銘獲得し得て大過無かつたといふ過去少數の例外を基礎として、體驗至上主義を唱へる人もある。

八、積極的隱蔽と消極的隱蔽（事勿れ）の共に要求する秘密嚴守は、智識慾盛んなる青年にとつて逆に挑發的に作用し、却つて不健全な好奇心の發生を促し、此一般的狀況の缺陷に乘じた智的惡貨の市場に於ける跋扈跳梁を招く。

九、鍛練修養によつて豪健の氣風を養ひ高き人格を得るに至らば、性智識無く共健全冷靜なる生活を努力を以て造り得られるといふ修養至上主義は、如何なる點迄可能であるか。生理學上血肉を完備した男女の經驗を無視した架空論らしく殊に古來喧傳される聖賢の貞潔なども其或者のは特殊先天體質より來る性慾缺乏症であつたらしく、斯樣な病的異常の例外を以て常人を律する事はできぬ。

十、成人後久しく未婚の男子では、正しき性智識無くして世上の迷信や時代おくれの醫學的智識に迷はされるならば、結婚前に甚しき心的不安を生ずるを常とする遺精及び自慰の如き性現象が起る。

十一、充分の自然科學的基礎無くして、ひたすら先驗的に與へられて居た性的、戒律、禁斷、（自慰及ひ姙娠期中の性交等に關する）は徒らに恐怖と威嚇を加ふる許りで、一向に實行されて居ない。

十二、純潔なる生活を送る青年男子に起る遺精は、日本人に於ても亦、青春期の普遍的生理現象である。

十三、未婚男子の間の自慰は、日本の青年學生の間に於ても一般に行はれて居り、一時的小害はあるが、結婚と共に止むを常とし、特に過度の續行久しきに亙つたのでなければ大害は無い。續行中に屢々起る神經衰弱は自責悔恨の念及び威嚇的强迫觀念の恐怖に基づくもので、世に傳ふる如く近視眼や、精神病や其他の永久的異常狀態を此行爲の結果と見做すは、如上の普遍性に徵するも不合理であ

り、何等蓋然的又は必然的因果關係も其間に無く、兩者は青春期に偶然時を同じうして又は近うして起つた二現象たるに過ぎぬ。

十四、姙娠期に於ける性交は、同樣に從來種々の威嚇、强迫を以て嚴禁されて居たが、近來實地の觀察報告を元として、其事が適當の注意と當事者の双方の希望によつて行はれるならば、無害である事がわかつた。但し或著者は更に進んで胎兒の發育促進の爲に母體内に精液の吸收される事が必要であり、母は其供給を本能的に要求するのだと迄主張して居るが、此主張には未だ實驗上の證據が不充分である。

十五、現代の未婚の男女の『性の悶え』と既婚者の性的不安とは、正當な性智識を得さへすれば、之の幾部分を除く事が可能である。して又科學上無根據な威嚇强迫の爲の虛僞臆說を取除く事は、彼等の純眞な性的進化の爲に是非共必要である。

十六、あらゆる倫理と衞生とは、其根底に眞かなければならぬ。たとひ方便として僞が一時有用な事があつたとて、其うそが永久に善と美との根底を築く材料となつてはならぬ。今の過渡時代に於ける性倫理と性衞生に於ても亦、從來無知の仁人達が好意的に擁護して居た方便のうそ、しかも事實頗る有害な虛僞を追出し之に代ふるに人性の科學的研究による事實を以てし、此堅固な基礎の上に將來の性倫理と性衞生を築かねばならぬ。

十七、現代の醫學其ものが特に性的方面に於て病的異常例のみを取扱ふに馴れて、正常の性現象の科學的研究を等閑に附し易い。故に特に常態の性生活の研究に主力を盡し且又生物學を基礎とし他の文化科學をも參酌した綜合的性學の建設が必要であり、歐洲では獨伊に斯學の端緒が現れ初めた。

十八、現代日本の醫師は概して、基礎となる性智識の缺乏と日常事務の多忙との爲に、性的啓蒙運動に專門に參與する事は不可能である。して又世人は醫師に

對して過當の信頼と期待を有して居る。

十九、現代日本の性研究刊行物の多くは、皆其表現の形式に明かに不純な動機がある事を示し、門外漢でも矢張其内容が香んばしからぬ事を直覺させる。併し其以外の良書があつても一般人は知らずに、不滿乍ら一部の教育者の如きも其等を虎の卷とする事がある。およそ世の學者たる者は徒らに退嬰保守の態度に固守せず、まづ消極的には其等の智識的惡貨の現實曝露をなして其横行跋扈を防ぎ、更に進んで一般民衆の間に正しき性智識の普及を圖る事が必要である。

二十、一部婦人の間には、法律の威力と制裁を以て男子の心的及び肉體的純潔を求めやうと試みる者があるが、男の本性を知らず唯徒らに法律萬能の夢にあこがれるは女心の淺墓さである。尚又賣笑制の撤廢も斯樣な不徹底なる矯風救濟事業では到底其理想の實現は不可能である。

二十一、斯樣なる現狀に面して切實なる必要を感ずる性教育は、世に最も多く

居る凡人の生活を標準として、他の法律・衛生・社會制度と同樣に、起り得べきあらゆる場合に適切なる對策を、危險突發の以前にまづ授けておかねばならぬ。故に特殊階級特殊家庭特殊人物等の趣味傾向經驗等を、他に强制する如き愚舉は絶對に不可である。

二十二、予の主唱する一般的性教育は、第一に眞實の追究を試み、各人に性現象を廣く諸方面から觀察せしめ、特に之迄閑却されて居た人間的方面を示し、以て彼と彼の最愛の者の身邊に襲ひ掛らんとする不測の危險を未然に防ぐに充分な生物學的智識を授くるを旨とする。

二十三、前項の目的がほゞ達せられた時、次に行ふべき性教育は、盲目的本能を制馭すべき理性自律の可能なる範圍を示し、以て自知自敬自制の力を養て、更に性現象の内特に人生の花とも見るべき高潮の美を味ふ基礎となし、凡人としては自ら顧みて僞り無く生を樂み、進んでは世界同胞に奉仕し得るの餘力を養はんと

するを旨とする。

二十四、斯く眞理闡明に始まり、善と美との『導出』Educationを以て完成さるべき一般的性教育とは、彼の來世の人間改善を目的とする優生學Eugenicsの前提とすべき現世改善學Euthenicsの一部を構成し、應用生物學の一分科である。

第二篇

一、此篇には、性的啓蒙運動の第一著に純科學的性教育の必要を説いた前篇の後を受けた各論の一部として、一九二〇年九月から今もなほ著者、續行して居る自然科學概論（京都同志社大學豫科二年各級に於て）講義の順序と期待等を始めに述べ、次に之等聽講者から諸種の反應の綜合概括分析を試み、將來同樣の試みをやらうと思ふ人の爲に必要な具體的報告が書いてある。

二、此論文の大體は、『人生生物學の使命』及び『性教育の實驗に現れた青年の心理』と題した二論文（雜誌大觀一九二一年十一月及一九二二年一月號所載）を元としてあるが、其後の所見を加へて可成多量の追加補遺がある。

三、大學令の要求する自然科學概論の後半に當る授業にあつて、予は人間の性現象から始めて遺傳優生學に及ぶ『人生生物學』講演を以てした。

四、從來の記載的分類學のみを主とした死物（骸骨アルコール漬搾葉等）の學問や、わざと人間の生活現象に觸れる事を避けた博物學等を聯想し、又は其等と混同される事の無い樣に、予は『人生生物學』といふ新語を作つた。

五、講義の目的は、專門家以外の人に生命の科學を説いて、宇宙と地球上に於ける我等人類の立脚地を明らかにし、以て人生のヨリ徹底した理解に資したいのであるから、漫然斷片的智識を詰込まうとしたのではない。

六、自然科學の智識は純客觀的觀察から公平に歸納し得た其結果ではあるが、

其無限なる智識の內から講師が聽講者に特に緊要と認むるものを撰み出す際に於て、講師自身の思想的背景が其撰擇に影響を及ぼして、其所に幾分價値判斷と共に主觀が混入するから、斯樣に入込んで來た主觀の惡影響を出來うべくんば絕無にする爲に、講師聽講者共に充分注意せねばならぬ。

七、予の解釋によれば、小乘的に考ふる時に於て、智識は一の商品であり、敎師は卽其商品のブローカーであり、仲介者は需要者たる學生が最少の努力を以て最大の效果を擧げる樣、暴利を貪らず分配者の職を全うすべきものである。

八、人生生物學講義は、必要に迫まられた人々の爲に緊急問題の鍵を短時間內に取不敢與へたいとの希望から、人類の生活現象を說くに主力を費し、一般生物學の現象を說くのは上の主題の研究に必要なもの丈にしておき、專門家相手の時の如くだゞ廣い話から追つて悠長な歸納を試みる事などは避ける。

九、一學年六十時間の講義は、青年好奇心の焦點にある我々人類の性現象の內まづ性交から始め受胎姙娠分娩と人の一生の順に生物學上の說明を加へ、其折々に細胞學上の分裂成熟受精發生の機構を述べ、併せて遺傳學より優生學に及び、分娩成長老齡死と一生の話を終るに及んで生死の生物學的意義を論じ、且つ生物進化の跡を迪り、終りに吾人々類の時間及ひ空間に對する關係を考へやうと試みる。

十、此講義に出る双方の便宜を圖り、人生生物學講義大要を、少し宛印刷に附し學生に配付したが、講義全部に就ては未完成である。

十一、充分話を聞かせて後、聽講者の中で特に進んで書いてやらうといふ人に限つて、無記名の所感を徵し、其に基づいて予は聽講者の心理を推測した。

十二、性學に關する良書があつたら、其をよむ丈で宜し。學校敎室內で多勢相手に性學講義は無益否有害であらう……といふ憂慮は、予の聽講者の異口同音に否定する所である。

十三、青年聽講者の經驗によれば、文書による啓蒙は獨學者自身に其書の眞價値を判斷する明無く、迷信誤謬と時代錯誤の威嚇を其まゝ受入れ易き其上に、獨居性學書耽讀は自慰を促す解放刺戟となり、有益どころか却つて有害だといふ事である。

十四、予の見る所では、多數の學生が一堂に會して個人的背景を沒却した普遍的叙述に接する時、たとひそれが若い心をときめかす性交の事でも、他の級友の前に下劣と思ふ自己を曝露させまいとの自重心があり。心的動搖は群衆心理の抑制作用の爲に何等憂ふべき副作用を起す事なしに終る樣であるから、文書啓蒙より此方がいゝ。

十五、斯樣な集團的啓蒙は、聽講者間に於て種々の後果が起るが、予の經驗によれば啓蒙が遊蕩活動を唆る樣な群集心理を挑發した事は今迄無い。但し今迄相互に冠つて居た假面が剝げて、多數の青年の眞の現狀が誰にもわかるから、太抵

の人は解放された樣に思ふて氣樂になる。道學者は此事を風紀頽廢志操墮落と云ふかも知れぬが、予は之が眞の精進向上の出發點たるべき現實曝露で望ましい事だと解釋する。

十六、性學講演をなす事は、性學者にとつては經歷境遇年齡等をはゞ同じうする多數の被研究者の一團の理解を求め、それから出來る丈眞に近い觀察報告を得る爲に、理想に近い材料蒐集の一手段である。斯くして得た材料は、病院に來る性病及び精神病患者からの聞取書や、或は性學書讀破の賢明な讀者が著者に與へた長い告白等よりも、正常なる性現象の研究には更に價多きものであらう。

十七、予の所見では、家庭内で長上が子弟に性教育を施す事は、現代日本の如く父母兄姉の大多數が性的無識者たる場合に於て、全然實行不可能である。更に又有資格者たる長上があつても、却つて相互に理解同情尊敬があり過ぎる爲に、超個人的普遍性を具へた科學智識を授ける事が困難になる。

十八、よしや小異はあつても大同の環境要件を有する人々の群に對する集團的啓蒙は、常に其大多數者の要求に背かぬ樣注意を加へさへすれば、却つて超個人的普遍性ある性學講演によつて、豫想に反して好影響の多い大規模徹底の效果を擧げる事が可能だ、そして現代社會に於ける性智識の飢饉と其によつて生ずる犧牲者とを救ふには、之より外に策は無いと思ふ。

○ 十九、從來の如く、顯花植物の受精や蛙雞の發生等から暗に人類のそれに說き及ぼさうとする間接諷諭の性敎育は、小學兒童にとつて適當である。併し乍ら、既に思春期に入つた青年中特に男學生は、直截明瞭徹底を望んで、斯樣なる態度に激しい不滿を感ずる結果、彼等の當然なる智識慾は邪路に導かれ、彼等の好奇心は不當に挑發されるといふ樣な、まるで期待に反した惡結果が生じる。

○ 二十、植物から下等動物を經て人類の生殖に說及ばさうとした求心的叙述は、動物の行動で直に人間の生活を律しやうとする思索上の惰性を生じ易く、かく一知半解の生物學的智識から出發して獸本主義的人生觀を抱くに至らしめ、又往年所謂自然主義文藝の一部渇仰者の陷つた如き一種の厭人的厭生的氣分を釀し易い。

二十一、人間の性現象を中心として話すにも、同じ敎材を用ひても聽講者間に起る動搖興奮を慮つて、弱刺戟性のものを始めに與へ漸次强きに及ぼうとする漸進的態度と、聽講者が之迄聞きたいと思ふて居て望みを達しなかつた中心問題に短刀直入を試み、卽刺戟最强のものをやにわに突つけて度膽を拔く如き急進的態度との二通りがある。

二十二、青年男學生は漸進的態度を快よしとしないから、予は斷然急進的態度をとつて、まづ最初に人間の性的器官の解剖學から其生理學へと話を進めた。

○ 二十三、學生側からの無記名報告から綜合し得た結果に據れば、どうしても刺戟性の具はつて居る性智識の或一定量を授くる最初に於て、好奇心滿々たる彼等には刺戟の程度强弱を問はず、常に最大限度の興奮が起るにきまつて居る、其故

どうせ興奮動搖が起るものなら、辛辣味多いものを先づ解決した方がさつぱりしていゝ、卽同一量の材料を受けるにしても動搖興奮の繼續時間は急進法に據る方が却つて少いといふ予の期待が、全然是認立證されて居る。

二十四、斯樣な急進叙述法は青年男學生に對する特殊解決法であつて、無論性の如何を問はず年齡の如何を問はず普遍的に行へるといふのではない。但し成年男子に對しては敎養の有無を問はず一般に此法をとつていゝと予は思ふ。（下段二六一頁以下參照）

二十五、現實の人生に處する必要な具體的性智識を青年が得るに、所詮動搖は免れられないから、從來の無爲無策から來る禍を脫したいなら、是非共いつか少年の幻想から青年の現實に移る爲に飛躍を試みなければならぬ。それにつけても或特定の異性と其人の環境を聯想せしめ易い小說によつては、諸種の好ましくない副作用も多い上に、正確な普遍的概括は到底得られないから、矢張人といふ背景を超越した科學の抽象に據る外はない。

二十六、青年男學生でも、殊に大學豫科在學位の年配では、最も浪漫的な憧憬にみち〳〵ており、其純潔な理想と熱烈な向上心とは向ふ見ずな直接行動を阻むに充分であり、又其大多數者は未だ性交を經驗して居ないから、其啓蒙による準備も決しておそまきでない。此時を外づしてはおそらく六菖十菊の嘆もあらう、

二十七、或局外者と極めて稀に聽講者の中に、性智識を得た爲に却つて現實の性生活に突入したいとの誘惑が起ると云ふ人もあるが。之は私見に據れば、何でも知つた事はいつか實行したくなるものだといふ一種無根據の强迫觀念にとりつかれて居るか、それ共知つても知らないでも突貫を試みる程の勇士が好意で警戒を與へた案內者に殉死を强ひる樣なものであらう。何にせよ大局から見て斯樣な人を無視しなければならぬ事は、やむを得ないが又頗る遺憾である。

二十八、性現象の現實を餘り知らなかつた純潔な青年は皆、聽講の最初に於て

必ず一種の性的興奮を起し、予の聽講者の中では勃起に至つた人はあるが、不隨意射精に迄及んだ人は無い。此興奮は聽講初期だけに起り、後には科學的平靜を誰もが得る樣になつた。

二十九、其の同じ講演でも、既に性生活に多少立入つた體驗（必ずしも性交と許り云はぬが）を有して居る人にとつては、一般に日常茶飯事であり、何等性的興奮を生じなかつた。

三十、教室内に於て起る個人の性的興奮は、講壇から觀察する事が出來ない。斯く時として起る性的興奮も、他の級友に對する自重の念がある爲、普通の一時的なる異種群集に於ける如き惡性傳染累加等の發作は無く、却つて相互的抑制作用が行はれて、教室外に迄有害なる後果を殘す事は、予の例に於ては、無かつた

三十一、予の聽講者に對する態度は、殊更に威重を裝ふ教育者振の嚴肅さも無く、唯座談風に話を進めて行くから、聞く人も笑ひたい時に勝手に笑へる樣である。聽講者の内にも、始めはこわさうに話す事を要求する人もあるが、其は「師範」式教授法に拘泥した結果で、やがては予の講義の内容の嚴肅味を解するに至るのである。一般に性學講義にしても、教師たる者は殊更にとつてつけた樣な眞面目さを裝はぬ樣に注意が必要であらう。

三十二、性學講義一般を聞いて、血肉を具へた男女兩性の相違と相互間の關係の眞相の幾分を知り得た際、それが何等兩性鬪爭意識を交へない積りの予の講義でも、異性たる女を愛したい人と又「汚らはしい女」を厭ふ人との正反對の反應が、夫々八對二の割で現れた。

○三十三、大多數の青年男學生は、兩性の先天的相違の點を學んで、女性心理や又特有の性的危機の存在やを知り得た後に、始めて女性の幾分を解して彼女の弱點をいたわり彼女の長所を敬ひ、一般に異性を理解を以て尊重し且親しむやうになつたと、報告して居る。

三十四、一方少數の人は、今迄純潔無垢にしてさながら詩歌に現れる天女の樣であつた女性が、矢張男と同じ一般生理現象を演じて、時來れば妻とならうと思ひ、又やがては母となる可能性を示された爲に、俄に幻滅の悲哀を感じて、現實の女を嫌ひ又一般に人生をも厭ひ呪はうと試みるが、之は空想に耽つた感傷家固有の反動氣分で、今迄唯浪漫的氣分で無視しやうと試みた人生の一部分が、否應無しに眼前に展開した爲、其一部卽全部と其時狼狽の餘り早合點した丈であるから、早晩に其も後戻りする筈である。

三十五、兩性觀の基礎とすべき智識に就ても、性學講義では事實の眞僞は飽く迄爭はねばならぬが、其說く材料を前にして下した先人今人の解釋は必竟個人の意見なのだから、唯代表的のものを厭女親女共に等量紹介しておけば、敎師の責は足りる。之以上の意見主張又は主義鼓吹は敎室に於てなすべき事でない。

三十六、人は顏の異るが如く、遺傳された體質や傾向それから後天的に環境を異にして居るから、性行動に關しても微細な點に入つては誰にも共通に安全でしかも實行可能な戒律や衞生法は無い。其故多數者相手の講演で個人の特殊問題を詳細に解決せんと試みるは恐且つ危險だと思ひ、一般人に出來ぬ相談の杓子定規の說法をば予は全然見合はせた。但し個人應問では其人の實狀を詳しく聞いた上適當と思ふ策を授ける。

三十七、予の主唱する純科學的性敎育では、人の生理現象のよつて來る仕掛けと順序と其結果とを述べるのが第一であり、其さへわかれば其後の事は各人で目分で可能な丈適宜に取計らへばよいのだから、殊更に態とがましい敎訓は無用且つ暇潰しであり予も斯樣な說法は大嫌ひだから全然試みなかつた。

三十八、世人の要求する『學識豐富人格高潔』の人に性敎育を施して貰はうと思ふても、其樣な人は中々求めて得られるものでないから、今現在居る人間でもやり得る方法を案出するのが目前の急務である。

○三十九、現在可能なる法とは、人格淘治とか思想善導とか申す慾張りは暫時やめておき、教訓抜きに唯純科學的性智識を充分に授ける事であるが、日本教育界の因襲を脱しさへすれば此策の實行は至極容易なのだが、教育者と父兄自身のあたまが唯今の様だと之も中々實行困難である。

第三篇

一、此篇では、第二篇に述べた實驗を基礎として、現代日本の社會の各方面に對して緊急の必要ある性教育の實施策を提供せんと試みたが、篇中諸所に說き及ぼされた教育者心理の考察は、京都、松江、鳥取、高知等に於て予が試みた性教育宣傳の講演聽講者から得た無記名回答を材料として居る。

二、地方文化、個人夫々の年齢や、階級意識、教育、世界觀等の大差あるに對し、予は杓子定規の弊に陷るを避けんが爲に、諸種の對策は夫々大綱を擧ぐるにとゞめ、大體の方向を示せば他の細目は夫々の場合に適應させて工風を凝らして貰ひたいと希望して居る。

三、本篇の中で、第三章は女性改造、一九二三年六月號に「女性性教育」と題して掲げられたものに大體同じく、其の餘の章は本書に始めて發表されたものである。

四、師範學校出身者の大多數は、詳細なる教授法の傳授と或偏狹なる世界觀の押賣りと森羅萬衆悉くわからぬものは無いといふた過去の大家の法螺に馴れて居るかして、其様な型にはまらぬ予の講演に對しては大抵當惑するを常とし、又或人は熱烈なる反對抗議を其地方の新聞に發表する事もある。但し斯様な表面上の反對者でも中には、私書を以て予の立脚點に對し贊意を表し或は予の行ふた啓蒙に謝意を表した人も多い。而して斯様な面從腹背でない『公拒私贊』の二重の立

場に就て、彼等を責むべきでなくして、寧ろ彼等をして餘儀無く斯くせしむる不自然な社會狀態を呪ふべきものだ。

五、威迫忽從を原則とした之迄の教育方針に馴れた人々は、教師でも學生でも、皆、予が別に六ケしさうな顏もせず『莊重な』態度をも裝はずに話するのに對して、最初は大なる不滿を抱くのを常とする

六、まづ第一に現實に關する正確な智識を授くるのが、性教育の先決問題だ、といふ予の所信が據つて來る理由をも知らずに、其等の聽講者の多くは予を唯物論者と解し、感激を生ずべき高潔な精神的教訓を缺如する不都合を責める。

七、一般に科學智識は、之を獲得した個人各々の傾向のまに〳〵利用される事もあれば、惡用される事も起り得る。性智識も亦然りで、啓蒙は何人に對してもあらゆる場合に於て絶對に理想的好結果を擧げると極言するのは、無論不可能である。

八、科學其ものは眞實の追究であり、人間の功利を超越して居て、特に人間の福利を直接に豫約して居ない。そして自然現象に於て地震噴火の如きものゝ理法が遺憾無く闡明されたとしても、其現象の突發を豫防し得ない樣に、たとひ將來性學進歩の結果性慾の由來を殘り無く解決しても、順當な人生に必要な性慾其ものゝ發生を防止消滅させ得る樣な奇蹟は望んで得られやう筈は無い。

九、斯樣な科學智識の本性と吾人々生の眞相に通せない一部の虫のよい連中は性教育さへ受ければ自分は努力精進せず共懷手したまゝで有德の君子になれるかの樣に、慾張つた揚句、科學的性教育の中にも何等『超自然的秘法』の無い事を發見して失望し、科學に對して呪咀の叫をあげる事もある。

十、所謂智識階級の餘所行き面や一時の西洋かぶれは度外視して、今廣く現代日本の各方面を見渡せば、日本人は古來の神話に現れた通り現世的快樂を求めて諸種の性現象を述べるにも極めて腹藏無い淡白さを以てする。そしてアングロ・

サクソン一流の御上品さや、儒教的士君子振りは一時の附燒刄に過ぎない。

○十一、歐洲ならぼ寧ろ南國ラテン民族にも比すべく、輕快淡白を愛する日本人に對して、英米直輸入の性教育は、頗る見當違ひであり又實行して見て可成精力の浪費があらう。予は偏狹な國粹主義者ではないが、日本人固有の文化的背景を顧みて吾人日本人に對する特殊對策を工風する必要が特に多いと思ふ。

十二、大學豫科又は專門學校又は其以上の有識青年に對しての策は、前篇に詳述した通りであるが、一般に變態性慾や性的犯罪の如き異常現象に說及ぼす事を避けるのは、無用有害なる强迫觀念を青年の心中に生せしめぬやう、必要な用心である。

十三、中等學校に於ては、一般に生徒の男女性別を問はず、博物及び生理衞生の科で、適當なる機會には其都度每に充分な性智識を徹底的に口授するのが、唯一の法である。

十四、特に性教育と一科を設けないのは、父兄側の無用の誤解と又學生側の無益にして危險な興奮を避けんが爲である。

十五、性智識は中學生に對して徹底的に口述すべく、教科書に術語等を記した簡單な記載をも避けよといふ私見は、客氣に逸り盲進力に富んで自制の分別乏しい少年が奔放豐富な想像力を驅使した結果生ずべき弊害を未然に避けやうとするからである。

十六、發達なほ日も淺い性學でも其範圍は廣く、又輓近の進步は迅速であるから、性教育を行はんとする者は、高等學校及び中等學校の博物科教師でも又醫師でも、尙一應仕上げに綜合的性學を學ばねならぬ。

○十七、前項の述べた理由により、現代日本に於ける焦眉の急に應ずる爲に、文部省が又は大學で性學講習會（其課程は二五六頁參照）を開かぬばならぬと、予は考へて居る。

十八、智識階級以外の一般民衆に對する啓蒙は、上述の性學講習を受けた中で優秀な敎師又は受ける必要の無い一流の大家に囑して、義務敎育を終へた後の青春男女に對する敎育機關（青年團や處女會の如き）に巡回講演をさせるがいい、但し此際從來傳染病豫防の通俗講演の如く、第二流第三流又は臨時雇の講師が一世紀おくれの智識を鹿爪らしく恩に著せて受賣する如きは、絶對に避けたい。

十九、一般民衆に對する性學講演の形式はよし『通俗』でも、內容は『通俗』に下落させる必要は無い。たゞ智識階級には簡明な術語ですむ所が、餘儀無く長い說明が必要な丈の修正で宜し。

二十、學生に對しては、敎師が『智識階級の一員たるにふさわしい自重と矜持（プライド）と趣味』とを鼓吹するのも構ひ無からうが、一般的啓蒙に對して斯樣な事は絶對に無益、又啓蒙の目的から見て有害である。如何となれば、生活趣味を異にする民衆に對するプルヂョア趣味の押賣りは講師の迂遠さを曝露して聽衆の物笑ひを買ふに止まり、又自惚タップリの先覺者氣取りや氣障な指導者振りが鼻の先にぶらさがると、よし其人の說が正しく共、却つて聽衆の反感を唆るからである。

二十一、一般的啓蒙に於て、例へば性病豫防の如きは、民衆の眼から直ちに感情に訴へんとする活動映畫の使用は、脚本と撮影とに愼重な考慮を拂ひ純眞な趣味によつてなされた時に限り、最少の時間に最大の效果を擧げる事が出來る。但し此法は、上述の要件を缺如し唯描寫のみが如實に過ぎたならば、見る者の聯想を促し却つて遊蕩活動を促る樣な逆作用が起らぬ共限らぬ。

二十二、小學敎育では、將來兒童成人の後受くべき狹義の性敎育の基礎として理科の課程中に特に博物科の智識を授け觀察力を養成させればいゝ。青春期に於ける性的活動に關して全然觸れる必要が無い。卽狹義の性敎育は全く無用である但し兒童が生命の驚異に對する追究と共に起る自己の由來の疑問は、決して抑壓する事無く兒童にふさわしい象徵的回答を與へるに躊躇してはならぬ。

二十三、小學兒童の中には早熟な自慰常習者が間々現れるから、教師はそれとなく監視して其行爲を企つる機會を減ずる樣、父兄と共力せねばならぬ。但し威嚇脅喝は絶對に不可である。

二十四、異常な環境の下に育つた性的早熟な兒童に對しては、教師は彼の見聞を科學的に整理する爲に個人として助けるがいゝ。此際此兒童が特例である事を心得て、愼重な個人的注意が望ましい。

二十五、小學の上級女生では、間々月經初潮が起るから、月經に就ての一般智識を校長の口から豫め説明される事が必要である。

二十六、目下の小學教育に於て特に必要な事は、教師自身がまづ性教育を受けて、兒童の性生活に充分な理解を有するに至つた上で、あらゆる場合に對する策も心得て、慈母の如き綿密な配慮を以て彼等の自由な發達を邪道に走せぬ樣守る事である。好奇心から出た實驗や又は老婆心よりの干渉は無用、尙又自己の功名を遂げんが爲に兒童をだしに使ふ如き花々しい新施設は絶對に不可である。

二十七、特に日本人は、男女兩性が相接近すればすぐに何か性的交渉が生じたものときめて、すぐ色眼鏡の觀測をワイ〳〵廣告して騷ぎたがるが、近頃特に異性の教師相互間又は師弟間に於て『咄々怪事』の續出が、新聞紙上を賑して居る

二十八、犯罪學の研究に據れば、世界各國何所でも少女凌辱の訴の大多數は、種々複雜な動機から出た跡形も無いうそである。

二十九、日本人も人間たる事に於て他國人と變りがないから、前項の如き心理學的普遍現象が起るに相違無いが、父兄も新聞記者も警官も教育關係の上司も皆此事を篤と心得ておいて、『咄々怪事』の續出を割引しないと、種々不都合な出來事が突發する恐れがある。

三十、『咄々怪事』の數ある中でも、未婚教師相互間の戀愛問題は、教師が矢張血肉を具へ物のあわれもわきまへる事の證據で、何も事荒立てゝわい〳〵第三

者が携はる必要が無い。

三十一、時として文學青年の小學敎師が、過去の乾燥無味な敎育に惱まされた鬱憤を晴らす爲に、彼等の所謂性敎育の必要なる所以を主張する事もあるが、敎師自身が現在味はふて痛切と感じ又習ふて必要な事が、必ずしも現在の兒童に對して痛切必要であるとは限らないから、無反省な受賣は父兄の方から御免蒙りたい。但し年長けて後純眞な戀愛を味ひ得る準備として、情操や趣味の正しい敎育は現今に於て必要だと思ふ。

三十二、小學敎育に關する予の所說は、其事の重大なるに從ふて、眞劍な批判が必要であるといふ所信から、或は當事者の反感を唆る程に無遠慮に缺陷と思ふ所を摘發した。之は徒らに罵倒して快を叫ばうとするのでない事を承知してほしい。

三十三、第三章は、性敎育の中で特に對女性の方策の大體方針を發見せんと試みて、併せて現代流行の婦人雜誌の性敎育上の價値及び其影響を考へたもので、雜誌女性改造（一九二三、六月號）にのせられた事がある。

三十四、予自身が最近數年間從ふた文献上の性學研究と外に男學生に對して行ふた性敎育に於ける觀察經驗とが此論文の基礎根據となつて居る丈で、常態女性に對する敎育上の經驗が皆無だから、女子敎育專門家から見れば、之は純然たる机上の空論である。併し乍ら机上の空論必ずしも實行して空論だとは限らないから、論據の一部始終を錄して識者の叱正を乞ふて見る。

三十五、之で論ずる女性とは、女學校の門を一度は潜り或は又婦人雜誌の少く共一部をば購讀した經驗を有する婦人、卽少く共自任自稱して智識階級の一員だとする女のみを意味し、其以外「無識無產」の女賃金勞働者及び宴席、枕席勞働者等は包括されて居ない。だから名實兼備のブルジョア及び氣分丈ブル臭いプチブルジョア婦人のみを對象とする。

三十六、「良家の子女」は清純な家庭に育ち地位學識ある良人に嫁する故、不測萬一の性的自衞策を此純潔な處女に授くるは有害無益であるといふブルジョア論理は、一部晩婚を强ひられる有識男子側の結婚前期の性的活動の可能と、性病病原體の階級無差別的普及の事實と相俟つて、「耳を蓋ふて鈴を盜まんとする」こけの骨頂に歸する。

三十七、性現象の現實曝露に際して起る婦人側の本能的退却はブルジョア式タブーの觀念と結合して、一種激烈な羞恥と憤怒とを惹起し、特に基督敎の「高潔な人生觀」にかぶれた人に於て其が甚しい。併し乍ら一方女學生が他面に於て潛に性智識を求めて居る事實から見れば、斯樣な啓蒙初期に於て起り易い抗議拒否は因襲の情勢による或は女性生得の佯假癖による『女性の否』から來る皮層的假象と斷じて、其拒否は餘り眞劍には受取らずに唯淡白に啓蒙の試みを續行するのが、社會人道の爲になるやうに思はれる。

三十八、性敎育は現代日本に於ては純乎たる一の啓蒙運動、卽ごぶさらへ藪掃除の類の男性的事業であり、天性守成防禦に長けた女敎師が其を試みる事が可能であるか。第一に既婚にして子もありそして充分な性學智識を具へた適任者を早速に得る事が困難な上に、適任者があつても、師弟間に緻密婉曲な理解がありすぎる爲却つて同性反撥の現象が起り易からうといふのが、予の取越苦勞である。

三十九、「女の事は女がする」といふ女性自決主義は、此男女によりて形成されて居る人間社會に於て或特殊の場合の外は大抵實行不可能である。女子敎育に於ても、敎育といふ啓蒙事業の性質上、矢張男敎師の參加共力をあらゆる學科敎授に必要とする樣になつた。將來行はねばならぬ性敎育でも、唯今の所「常識的」に女性自決を要求されて居るけれ共、之は予の所見によれば、一種の机上の空論か疊の上の水練であらう。

四十、女性性敎育に於て特に女敎師を不可と、予が斷定を下すに至つた積極的

理由は、現代日本の世相から見て男性の肉迫突貫に對して兎角無知無防禦な處女達に對して、結婚前に起り易い不測の（處女から見て不測ではあるが人性の全部から見て極めて當然な）危險を防ぎ、併せて結婚後の幻滅の惡影響を精々少からしめる爲に、前以て男の生理及び心理の科學的智識を授けるのが先決問題であり、其當事者にはモルモット代りに男教師を以てすれば、男性特質の實物教授にもなるから、至極てっとり早くて案外危險少く又實行も割合に容易であらう、といふ予の所信に據つて居る。

四十一、未婚青年學生が女性心理に關して抱いて居る智識慾は、予の見聞の實際に徵して、頗る熾烈である。無論之は本能的智識慾に始まるが、第二次的には自分達男丈充分敵情に通じて、一種活殺自在の色魔的怪腕を揮はんとする野心が幾分加はつて居ると、予が觀察したのも、あながち自己本位の邪推許りでないらしい。彼等の此智識慾は主として現在に於ては（一）性慾描寫小說の耽讀と（二）告白專門の婦人雜誌の研究とによつて、充たされて居る。

四十二、現代流行の婦人雜誌を三大別して（甲）告白雜誌（乙）寫眞畫報雜誌（丙）高級雜誌とする。執筆者と讀者とに關して男女の比（Sex ratio）を考へるならば、甲乙丈が純粹の婦人雜誌であり、丙は寧ろ男の讀物であると同時に或女共の「見世物」に利用されて居る。

四十三、告白雜誌は、女性特有の恥痴の安全瓣として、世の夫の感謝すべきもの、くどくて齒切れのせぬ低級さが其特徵であり、未婚青年も亦此雜誌の分析的研究によつて女性心理の幾分に觸れる事が出來るから、性學研究資料として可成貴重なものである。但し之の威嚇的描寫による暗澹たる人生は一種性教育上の警戒として未經驗者の爲に有益と思はれるが、欺かれたる女が一向に減じない所から見ると、豫想外其方面の教育的效果は乏しいらしい。

四十四、寫眞畫報は「愚人の樂園」Fool's paradise の紀行記兼ゞデカーとし

て絶好のものであるが、貧乏な學者が見れば、あれ丈金掛けてアート・ペーパーと網目版を用ひたら我々の世界的研究も自由に發表が出來るがと惜く思ひ、赤い連中から見れば、奴等いゝ氣になつて噴火山上の舞踏をしてやがら今に見ろ……と思ひ、世間見ずの少女が見れば、私もあの通りに結婚したり家庭をもちたいと思ふ。最後の點に於て、此種の雜誌は女學生性教育の上に於て輕燥浮薄淫靡華奢なる惡傾向を生じ易い有害無益の物と斷定するも、あながち予の偏見獨斷許りでなからう。

四十五、高級婦人雜誌は、本來ロマンチックな青年秀才が抽象的假想的女性の啓發を圖る爲に試みた一種英雄的計畫に其端緒を發し、世の多くの同感者たる男の贊助後援によつて其存在を續けるが、經營編輯者の豫定の退却又は女性化墮落によつて營利主義の惡影響を受け、又は群衆暗示作用によつて美人畫を其表紙に掲ぐるに至り、或は容積尨大な小說創作の貢献によつてふやけ切つて、終に當初の存在理由を失ふたものが過去に多かつたのは殘念である。

四十六、女學生の性教育に於て、兩性の接近——性交——姙娠——分娩——育兒といふ蓋然的自然過程の智識を與へ、且又子供に於ける父母遺傳質の同格な事を知らせたらば、配遇者選擇・結婚・產兒から母性の重大な自覺は、何等道學者的教訓を待たず共、自ら湧いて出て來る。

四十七、異性の師弟關係が更に深入りして特殊の性的接近を招くであらうといふ常識的心配は、實は女性特有の敏感と一種の嫉妬心から來る嚴重な相互監視の存在を知らぬ空論で、實際さう〳〵物騷な極端な例は新聞でおどかされる程普遍的に起るものではあるまい。

四十八、女學校で異性心理を學ぶ必要があるのは、唯に女生許りでなく、一般男教師も充分科學的に女性心理の男のそれに違ふ點を心得、又起り得べき色々の場合に備へておかぬと、處女の純潔無害なる同性戀愛を抑壓して罰を加へたり又

自殺させたりする樣な大事を惹起す例もある。

四十九、既婚婦人の有する性智識が、頗る危險な速斷と言語同斷の迷信に充ちて居るのは一般的事實であり、しかも其爲に彼女達の性的生活は可成惱みが多いにも係らず、今時間經濟腦力經濟の直接啓蒙をやらうとすると、女性特有の矜持が煩ひをなして內心旺盛な智識慾と衝突して、一種異常の發作が起り易い。卽斯樣の特殊狀況がある爲に、科學的啓蒙は既婚者に於ても豫想外の困難に遭遇する事を覺悟しておかねばならぬ。

五十、此章の說は門外者が見て强ひて奇を街ふ僻見でしかも危險極まる空論と見えやうが、實際家に見せれば却つて穩健著實で實行可能性の多いものと思ふかも知れぬ。

第一篇　性教育汎論

第一章　性的啓蒙主義の存在理由
青春の危機—性的隱蔽主義と其可能性—體驗至上主義の缺陷—剛健派の禁慾主義—時代後れの超人衞生の害—威嚇的性衞生の由來—威嚇的性衞生の効果—人間的性衞生と暗中摸索—未來の性倫理の基礎
第二章　大正文化と啓蒙運動
『性研究』の現實曝露
第三章　性教育の存在理由
性智識の必要なる理由—高等教育と性常識
第四章　性學界の現狀
性智識獲得の困難—專門醫家の學殖—性學追究の現況
第五章　各方面に對する要求
まづ第一に常態の智識—醫學者に對する要求—爲政者に對する要求—教育當事者の上司に對して
第六章　既に存する諸種の性教育
從來の所謂性教育—性的無知の實例—各種の婦人運動—徹底的廓淸運動

第七章　純科學的性教育の基調

凡人の惱み―予の提唱する性教育の目的―生物學講義を以てする性教育―教育といふ語の解釋―何よりも先にまづ人間

第一章　性的啓蒙主義の存在理由

青春の危機

あらゆる生物は皆生殖を行ふて其種族を保存する。人類に於ても亦、種全體として或は一民族として絶滅に陷るに甘んじない限り、正常の者ならいつかは此重大な機能を營む時がくる。此生殖の原働力たる性慾の發達につれて青春期の種々な焦燥煩悶が生じる。其際或は此性慾の禁壓を試み、又は其の緩和轉回を企て、扨は又斷然此本能を解放し理性の埒外に奔走せしめやうとする等、人により種々其發現に陽性陰性の差はあるが、要するに此時の靈肉不安は皆性中心の趨向反應に基づかぬものは無い。

『青春期には羞恥心と體面感が發達し多情多感となり、空想に耽り理想に憧がれる。企業慾冒險心が發達し大言壯語する。感受性鋭敏となると同時に倦疲性加はり、心に滿つるはあらゆる暗黑と混亂と朦朧、親子の間にも越え難い隔が屢々生ずる事もある。此暴風激動期に頭腦が屢々大飛躍をする。厭世的感傷癖は甚しい樂觀に代り、小止み無い憧憬に炙で天惠に充ちた狂信が來る。不絶空中樓閣を畫き、或は將來の大畫伯を夢み、或は天才詩人音樂家、或は人類の救主、或は空前の大發見をなすべき未來の學者であるとの自信を抱いておる。

併し彼の腦中に渦卷き醗酵し旋回する物悉くは、性中樞の周圍に混沌として動搖して居る。戀心は或時は強く或時は弱く意識されて居るが、始終感情思索意志勞作に可成明瞭な基調を生ずるのである。』

HIRSCHFELD, MAGNUS (1917); Sexualpathologie, Teil I, S. 89.

性的隱蔽主義と其可能性

然るに此重大な現象に關する正しい智識を授ける事卽性教育はよし必要不可缺だとしても、其は青年教育といふ殿堂の中の厠卽必要な禍なのだから目立たぬ所に引込めて置けとか、或は又放任して置いても自然體得するものだから殊更其に手を出す必要が無いと思ふ人が世間に多い、斯樣にして世を擧りて「臭い物に蓋」

式の性的隱蔽主義が行はれたり、事勿れの現狀維持が續いて居る。所が隱蔽程挑發的なものはないから、無邪氣な青年は其爲に一種の性的神經過敏症に罹るのを常とし、生殖といふ一語を耳にしても不可解乍ら淫靡な聯想を起し怪しげな微笑を浮べるのが例である。

一中學生が强制的自習の時間に英和辭書を逐語漁つて得た性的語彙があると聞いた。

「或書店々員の談、中學程度の學生が店頭で和英辭書を拈繰つて月經とか强姦とかの項を引く爲に頁を汚して困る」（川村多實二教授著「生命と性慾」二五四頁）

更に冒險心に富んだ青年は好奇心の募つた餘り性病感染も覺悟の上で渦中に驀進する、そして忽に終生醫やす事の出來ぬ手傷を身に受け、或は拭ふべくもない汚點を精神に印し以て性的無知の價を高く拂ふ者もある。勇敢な者は威嚇されても却つてこわい物見たしの氣持で無我無中に飛込むといふ有樣、隱しておけば行くまいと考へるのは實に樂觀も甚しいものである。

今若し極端に秘密保持に熱中し隱蔽に力を費して全然何事も知らさぬ樣に出來たとすれば、成程隱蔽主義に固執して木の股から子が生まれるとでも云ふておくがよからう。併しモーパッサンの小說にもあつた通り、理想的に淸純な家庭の中で親達と敎師と宗敎家の保護を受けて十數年守りに守られた處女の無邪氣でも、僅に數分無知な下女との會談によつて無殘にも一掃された樣に、町を歩き電車に乘り新聞を讀み友人と往來する今日では、どんな箱入娘でも猥談を遠ざけ春的刺戟を避けやうとするのは絶對に不可能である。それだのに隱蔽主義でどうしやうと云ふのであるか。

所が隱蔽主義の主張者が科學者の中にもあつて、唯何かなしに啓蒙は危險な樣な氣がすると許りに對策も講せず理由も擧げずに非難する人がある。又理由を擧げるにしても自分勝手に空想の中で青年を作り出し、其を氣儘に活躍させた揚句思ふ壺に陷れて、之ではどうぢやと云ふ人もあるが、其を云ふ前に無風帶内の潔癖な自分許りでなく、世の中に現に惱んで居る多數の人々の實狀を見た上で、危

険有害と認められる點を指摘して戴きたい。

『今飲食といふ人間の不思議な神秘を現はす事が不穩當不道德だと考へられたと假定する、それから此飲食の事を云々する時に唯詩的に述べるとか朧げにほのめかす丈だとすれば、どんな結果になるだらう。社會の大部分殊に青年などは當然好奇心を有して居るから、此點に考へを集中し、次の如き色々な疑問に頭を惱ますであらう、即日に幾回食ふべきか、何物を食ふべきか、予の好物の果物を味はふのは誤か、嫌ひな藥を食ふべきものか、などゝ考へて見る。之では本能が具はつて居ても、當然食ふべき物を探り之を正しく味はふに成功する者は極少數であらう。

今人生に於て性的事項を隱蔽するは飲食を秘するよりも更に害の甚しい者がある。第一に我々は性慾を善導し又は惡導する爲に多くの道德的エネルギーを浪費する。第二に若し健全な本能的習慣を作つたら年長けると共に漸々性的衝動が智的衝動と同時に發達して來るのは通常の事柄であるからである。然るに世の中には無智暗愚なる友人が多くて更に事を面倒ならしめる、食事は隔日一回でよいとか毎日十二回食へだとか果物を食ふなとかヤレ草と藁詐り食へだとか敎へて呉る。所で性的事項に就て世に力說せられる助言を見ると、如上の譬言以上の箆棒さ加減だ併し兎も角事相が悉く公開されたとしても飲食が全然解決されたのでない、唯各人は他の經驗によつて彼自身の場合に適した何かの說に到達出來る次第である、で斯樣なぎこちない隱蔽が一度一掃されてから後に始めて健全な自然の節制が可能である』ELLIS, HAVELOCK, General Preface, Studies in the Psychology of Sex.

猶一般に頭隱して尻隱さず式の隱蔽が始め思ひも寄らなかつた害毒が生ずる實例は、大正十年春我々の眼前に現れた宮中某重大事件隱蔽の影響に徵しても明白であらう。

體驗至上主義の缺陷

更に各自體驗によつて漸次性智識を得るとしても、現今の經濟不安は青年に餘儀無く晩婚を强ひる、所で彼等の心身は結婚前既に重大な誘惑に曝露される次第そして又順當な性的享樂を行はない內に早くも遺精なり自慰なり未婚の青年に特有な難問が湧いて來るのはどうしたものか。

今一歩を讓つて、適當な年齡に好配を得て順當な性的發生史を辿る幸運兒があつても、社會の大局から見て其數は漸減する。して又自發體得の中に局限された性的覺醒は、此波風荒い世の中の事だ、いつ不意な打擊に逢ふて瓦解せぬ共限らない。我々人間は智性の上に科學を築き上げ之を以て一々愚な暗中摸索を試みず共

前車の覆轍に鑑みる事が或程度迄可能である。即行はぬ前から諸々の行爲の結果は蓋然的に知れ切つて居る、例へば常態として健全な兩性が相合へば姙娠に至る事が當然であるのに、結果が現れて始めて驚く哀な婦人がある。(1)

(1)　某病院の外來患者の中に花恥しい一少女が月經不順を訴へて居た、診察の結果姙娠五ヶ月なる事が判明したが、本人は其を絶對に承認しない、其故は彼女の讀んだ性研究雜誌の一節に未丁年男子との性交は姙娠に至らない、即未成年者の精子は授精力が無いとあつた爲、よし彼女の仕へた家の若主人と交渉があつたにせよ左樣な筈は無いと主張した次第、斯樣にして際物雜誌の濫造廉賣智識のが專門家の判斷よりも彼女にとつて信頼すべきものであつたのだ。併し彼女の信念はさあれ、彼女の胎内の生命は依然として存して居た、醫員は悲劇的結果の突發を恐れて彼女の主家の者を呼んで幸福な解決の爲に助言を與へたといふ實例、之は大正十一年春の事である。(無責任な性智識廉賣の生ずる弊害の一例)

或は無邪氣といふ美しい名を著せた「無知」の中の處女生活を終へ嫁して忽病氣に罹るとか、文字通りに體得させて始めて姙娠や性病の智識を授けるとは實に慘酷極まる話、人間の尊い血と涙とを斯く無知の爲に浪費するのは實に勿體無い斯樣な惡例を暫く措いて、唯素直に漸進的體得が可能だとしても、一々個人に體驗自得させるとは、全く科學の存在を無視した愚の骨頂と云はねばならぬ。無論人は皆性學者たる必要は無い、唯日常生活に處して大過無い丈の常識で先づ充分であらうが、其としても性的現象は頗る複雜であり、斯樣な神祕を個人銘々の經驗で知らうとしても到底不可能である。

剛健派の禁慾主義

所がそんな科學的智識が無く共鍛錬と修養によつて豪健の氣風を養へば百萬の誘惑何ぞ恐るゝに足らんといふ豪傑が居る。如何にも古來幾多の聖賢君子は毅然として萬世に龜鑑を示して居る、併し乍ら斯樣な事は學問上稀有の除外例であり(1)到底常人を律すべき根據に採る譯に行かぬ。

(1)『數多の實驗醫學者例へば前では LALLEMAND 此頃の人では FÜRBRINGER や GYURKOVECHI-KY が述べた通り、禁慾家の性的慾求が生まれ乍ら頗る微弱であり、此生理的虚弱なば人に自慢出來る美德にしやうと試みたのだ、といふ結論に屢々到達する次第である』NYSTRÖM, ANION (1919) : La Vie Sexuelle et ses Lois, p. 299, Paris

今眼を閉ぢて色卽是空と悟り澄ましても、一度肉眼を開けば今迄の心眼中の白骨が忽紅顏を具へて肉迫して來る、臨時借用の大悟徹底も結局柳は綠、花は紅、よし心頭を滅却したとても矢張彼と之との生物學的實在を消し去る事は出來ない斯樣に先賢の大悟徹底も一時は感奮を生ずるが、其感奮の效果を不絕維持すべき生理的要素が遺憾乍ら我々多數の凡夫には具はつて居ない、例へば老孃の心理の樣に極端不自然な禁慾に基づく變態性慾が種々の形式で病的に現れて來る事があり、其他種々同樣な例が我々の眼前に示されて居る時に當つて、歷史的にも疑はしい樣な聖賢の行を模範として凡人が極端な非人間的禁慾を試みて煩悶して居るのを見ると、御伽噺の蛙卽巨牛の眞似をして膨れ返つて結局破裂したといふあの蛙の事を思はしめる。『人は性慾を充した後に、俺の所へ來て倫理のお說敎をする』と憤慨した若い友がある、青年壯年時代に充分活躍しておいて、老年になつてから矢張例のお說法を始めたトルストイに此句を突附けたらどうだ。

『性的活動を禁ずる事は無害だと敎ふるのは虛僞である。斯樣な敎へは世に疲れ果てた老人共によつて唱へられて居るが、彼等は自身の靑春時代と若々しい血潮の泉を忘れはてた者か、或は過去の耽溺を悔む者か、それ共うまれ乍ら性的器官の發達薄弱で性慾乏しい連中なのである。』HILL, Prof. LEONARD (1920): The Control of Parenthood, p. 34. London

『聖徒――女を逃れて、身體を苦めねばならぬ者は、最も肉感的な人々である。』FRIEDLICH NIETZSCHE: Morgenröthe

『姙娠する事出來ぬ獨身女や、姙娠豫防をする妻の場合に於ては、受胎の曉變化すべき諸種の器官がいはば不如意のまゝ、各月經期が終結する次第である。斯く性慾的器官の生理作用が充たされぬ結果として色色の性的經過が多くの女に於て攪亂され、月經は苦痛多くなり、乳房は萎び、容色も見る影も無い樣になる。結婚せぬ女では、色美しい頰の紅も顧みぬ內にやがてあせて行く。彼女達の氣性は意地惡くなるか、それ共母となる以外の慈善信心の事業に向ふ樣になり、或者は尼となり、又或者は病院の看護婦になる。更に他の女は工女ともなるが、密蜂の社會の不姙の働蜂には似て居る。尙他の女は變態性慾者や女權論者（フェミニスト）となり、恰も働蜂の樣に雄蜂を嫌ひ憎む樣になる。』HILL, Prof. LEONARD (1920): The Control of Parenhood, p. 33.

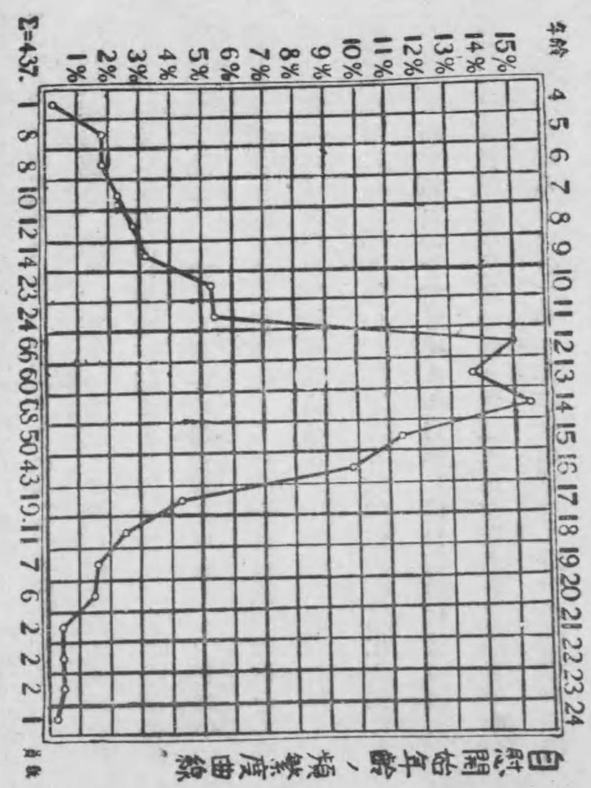
時代後れの超人衞生の害

扨常態を律すべき標準に就て西洋と云はずまづ日本の現狀を見よ、遺精が純潔

健全な青年に於て正常な生理的現象であるのにソレ修養が足らぬとか邪念劣情の發動だとかおどかす中學の倫理教師が居る、夢の本性に就て學説は諸説紛々たるにも係らず春夢を責める者もある、何等科學的根據も無くて遺精を神經衰弱の徴候だと斷ずる衞生問答や醫者もある。其所で罪も無い健全な若者をしてオヅオヅ醫師の門を叩かせる、一部の藪醫者は態と其眞相を告げず患者の不安に乘じてなし崩しに藥代を絞り取る者も居る、又或青年は其强迫觀念の爲に本統に神經衰弱症に陷る事もある。

(1)　思春期 Puberty Period に入つた青年男子で禁慾生活を送る者が、睡眠中春夢を伴ひ或は春夢を伴ふ事無しに不隨意的に精液を發射する事を遺精と云ふ。其起る前の要件として胃の充滿と膀胱の緊張が伴ふのを常とし、夢の伴ふ場合は睡眠が淺くなり始めた曉から後に起る。

今迄予が集めた約三百例程の告白を基礎とすると、日本人の青年男子では早い所で滿十二年から通常滿十七年位に最初の遺精が起る。卽最初遺精の頻繁度曲線は滿十七歳を中線とする蓋然曲線で次に示す最初自慰の頻繁度曲線第一圖を少し遲くずらしたものになるらしいと期待される。早くから自慰が常習とした



第一圖　三十七名から得た結合から作られた曲線。右はヒルシフェルドが集めたもの、日本では青年期に、最盛期が少し右へずれる。

者及び早婚者を除くの外、漏無く起る現象であるから、遺精は日本人に於でも亦思春期を劃する正常な生理的現象である事がわかり、西洋での觀察にも大体相一致する次第である。

次に突然な驚き、恐れ、窘迫等の感じと共に何等性的興奮を伴はず又は著しい勃起を伴はずに反射的に射精が起る事が間々あり、青年の死命を制する專門學校入學試驗で突然難問に會した時等に起る事も可成ある、其時平生威嚇されて居た人達は此突發現象に驚きの餘りあたら一年を棒に振つた例をも聞いた。

更に又自慰(1)は青春の性的覺醒期の男子に極めて普通であり(2)自慰者の大多數は精神病患者になる事も無い、其習慣も性的生活の進化と共に徐々消滅して結局大害を殘す事が無いのを常とする(『自慰に惱む青年に答ふ』後出、二四二頁參照)其だのに先天性精神病患者の如き者二三を數百名の自慰者の中から撰み出して來て、之だから恐ろしいのだ(3)と青年をおどかすが、扨自慰が原因で精神病が其結果だといふ證據は少しも揚つて居ない。此威嚇に驚いた大多數者はのべつ之等諸種の威嚇に脅かされつゝ生理的衝動に引摺られて居り、人と自分とに對して誓ひ乍ら誓を破つたのを悔いて自殺を企てた者があり、威嚇衛生法を讀んでいかにも其惡習をやめるそして娼婦に赴かうと告白を寄せた人もあり(4)又自慰を悔いて禁慾の最中少女を凌辱して自他共に傷つく大爆發をした實例もある。

(1) 獨逸語の Selbstv.rsteckung 直譯で「自瀆」といふ人が世間に多いが、自然科學上の概念を表するのに瀆といふ倫理的價値判斷を加へるのは不穩當である。之を自瀆といはば、常態の性交を互瀆と云はうとする人も出來る筈だ、但し互瀆だと思ひ乍ら行ふてる人も居るが……

(2) ROHLEDERに據れば男子の百分九十以上は自慰の經驗を有して居る、STEKEL も卷頭第一"Alle Menschen Onanieren"と喝破して居る。JULIAN MARCUSE や Prof. DÜCK の統計も之を肯定し、其他Prof. OSKER BERGER 英の DUKES 米の SEERLEY 皆同樣の事實を告げて居る、自慰開始年齡に就ては HIRSCHFELD の觀察に基づく第一圖參照。詳細は HIRSCHFELD や ELLIS の著書を見よ。

獨逸で青年學生に性交經驗の有無を問ふと夫々明答を與へる、併し乍ら自慰の經驗を訊せば滿座肅として音無く皆微笑を洩らす許りだといふ話を予は學生にした時皆可成變な顏をして居た。推測は日本でも略同樣だと思ふせる。進んで予に委れられた無記名告白（參考論文「人生々物學研究資料蒐集に就いて」參照）約三百例の內唯二例自慰經驗の皆無を報じたものがある丈で、餘は悉く其經驗を有する事を明答して

居る。

(3) 威嚇に用ひられた強迫觀念の諸種を上述の無記名告白から摘記すると、近視眼になる、頭が惡くなる、身長がヒヨロ長くなる、身長が延びない、陰莖の變形が起り時によれば螺旋狀になる、淋病が惹起す壯年に及んで性交不能になる等。

(4) 一九二一年五月頃京都であつた實例。

此事に關して今から三十年も前の西洋の話が次にある、嘗て讀賣新聞に出た長尾藻城氏「醫者氣質」を讀んで之に參照すると實に感慨無量である。

『自慰は或種の悔恨と羞恥とを殘すけれ共、其實行が極度に及んで永く繼續されたのでなければ、何も永久的災害が起つて來たのを見た事がない、此事を率直に述べるのは極めて必要である、其は此弊害を直切り倒す爲でない。唯此眞相を知らぬ青年が多くて屢々『神經科專門醫』の虜となり、此詐欺師共によつて其等青年の後半生は慘憺たる運命に陷れられる事が多いからである。見よ、彼等の廣告は到る所の壁と新聞廣告とを汚して居るではないか、憐むべき青年の恐怖に附け込んで詐欺師共は財布を絞るのを業として居る、卽極めて毒々しい色彩を塗つて手淫の恐るべき結果を語り、勇氣がなくなり男らしさが失せるとか又は永久的發狂が起るとか云ふておき乍ら、しかも彼等獨特の熟練技巧と特製高價藥とに金を投じさへすれば『なほ治療は可能である』といふて居る。斯樣な詐欺は斷然曝露しなければならぬ。卽其行はれる範圍が極めて廣く且其流す害毒が頗る甚しい、しかも其犧牲となつた人は事を恥づるの餘り沈默に終るから少しも人目を惹かないからである。YELLOWLEES, D. (1892); in HACK TUKE'S Dictionary of Psychological Medicine.

今百人の日本人の中で九十幾人迄香の物を嗜む際、其漬物常用者の中から二三人發狂者が現れたとする、其時漬物を食ふ事が發狂の誘因だと卽決して其事を禁止したとすればどうであらう、此譬は唯一通りの冷嘲や罵倒ではない。現に或年の師範學校々長會議で、近頃頻々近視眼と肋膜炎患者とが生徒の中に續出するのは蓋し自慰の惡習普及の結果に外ならぬ、宜しく大に警戒すべしと、多數決で決議したさうだ。之などは蟹が大會を開いて今後は眞直に歩かうと決議する格で、たとひ校長が百萬人集つて警戒を決議した所が、粗惡な食料や貧弱な照明法等の環境要件に改良を加へない限り、師範生の肋膜炎や近視眼患者の數は減じないのである。

威嚇的性衛生の由來

抑も斯樣な威嚇と戒とは、其元を辿れば中世カトリック教會の多數の神學者の著述に其源を發して居り、其著の或ものには遺精及び自慰に關して起り得べきあらゆる場合をば冷靜嚴格な科學者的態度を以て記載し、其各々に就て罪の輕重を量定してあるが、此點には何等科學的根據も無く唯獨斷を以て其恐るべき所以が力說してある許りであつた。之等の所から筋を引いて、一七六〇年瑞西ローザンヌの醫師 SIMON ANDRÉ TISSOT の著書 "De l'Onanisme" が現れて、其が十九世紀の學界と俗界に偉大な影響を及ぼした。カントが「道德の形而上學」に於て自慰の害を力說した事なども明らかに彼チッソーの影響と見る人がある、併しカントが贊成しやうがしまいが、そんな事は眞理とは沒交涉だ、不知々々中世的獨斷說を先入主とした威嚇的性衛生の馬脚は追々に現れて來て、十九世紀末から前述べた如く遺精は當然・自慰大害無しとの事が判明した。それに悲い哉極東島帝國に於ては此中世カトリック教會傳來のお化けが儒教道德と結び附いて頗る幅を利かせて居る樣だ。耶蘇嫌ひの修身の先生迄が其と知らずに天主教會のドグマを請賣して居るのは笑止であるが、惱まされる青年こそ頗る迷惑だと云はねばならぬ。

昔ギリシアの HIPPOKRATES は性的器官から出る精液は直接腦と脊髓から流出すると信じて居た、後に及んで中世紀にレオナルド、ダ、ヴインチの描いた有名な解剖圖 Venus obversa には實際脊髓の下部から管が睾丸と貯精囊とに連つて居る所の矢狀斷面が畫いてある。今でもさう信じて居る人が無いとは限らない。こう考へれば、此液體の損失によつて脊髓勞と腦軟化症が起るとか、或は又中樞器官が乾燥するから『頭蓋の中でタプ〳〵音が聞える』とかに定めてもよい。之は遠き昔の話と許りに一笑に附する事は出來ない、自慰大害說も之と同樣に誤つた前提の上に建てられてあるのだ。

威嚇的性衛生の效果

所で如上の事がよし眞實でも之を公表する事は不得策だとか、或は奬勵する樣になるから青年の風紀上默過すべからずとか、或は唯現狀打破と之に伴ふ迷惑が

イヤさで矢張眞實を隱蔽したがる人がある。併し乍ら虛僞と威迫を基礎とせねば成立しない樣な醇風美俗ならば、そんなものはよしドラッグの仁義忠孝の宣傳屋に叱られても構はぬから御免を蒙るべし、例へば身賣りせねば行へない親孝行だとかが其一例だ、我々の良心は斯樣な所謂美德と絕緣せねばならぬ事を斷乎として命ずる。斯く自慰と遺精に就て虛僞洞喝の威力は前述の如き弊害を釀しこそすれ、之等の所謂害惡の發生を防ぎ眞潔純眞の美德を實現する爲に何等の效果が無かつた。

復讐威嚇主義が刑罰に於ても豫期の效果を擧げ得なかつた樣に、性的生活に於ても其は一般に害こそあれ益は無い。病に罹るからとおどかして見た所が全く煩惱の犬を追ふに足らない。青年男女が若氣の過ちで小過を犯し何か性病を得た時に、其時の對症所置に全然無知でありそして日頃の威嚇脅迫を思ひ出すと、いつそ毒食はゞ皿迄と自暴自棄の淵に陷るものが多い、復讐刑法の爲に一人殺したから序でにと惡心が起ると同樣である。

人間的性衞生と暗中摸索

性的生活の內に於て凡人に到底實行出來ない樣な事が色々要求されて居るが、其所は凡夫の淺ましさ、內所でこわ〳〵戒を破つて何食はぬ顏をして居るのは、前述の自慰を始めとして外に澤山ある。

以下此項の說を既に一家を作つた人に述べる、併し予の對象とする青年學徒に對して殊更に早手廻しの講義で奬勵する樣な非常識はして居ない積り、此點は敎師として予の態度に誤解の無いやうに斷つておく。

從來姙娠期中の性交をば、醫師達は又種々の威嚇を添へて禁じて居たもので、姙娠五六ヶ月以後の性交は絕對に嚴禁としてある。然るに

『稍長時日の制慾は正常の男子に執つて可能であり、妻の病の時許りでなく、月經時及び產褥時にも自ら制慾する事になる。姙娠期は稍時が永いから問題が稍困難になり、此時の制慾には可成分別と注意が困難だ、併し予の見解に據れば姙娠期中でも性交が順當に行はれさへすれば全く罷めるには及ばない。FOR-

EL, AUGUST (1920): Die sexuelle Frage, 13. Aufl., S. 90, München.

「多くの人々がきつぱり目で見る樣な想像力を所有して居ないから、私が語を添へておきたい事がある其は性交に際して有觸れた位置を此姙娠期中に執る事は不適當である。否寧ろ有害であるかも知れぬといふ點であるが、双方の重みが床か枕の上に掛る樣に卽壓力が女の上に來らぬ樣に、彼女と彼女の夫はたやすくまとひあふ事が可能である。（中略）

妻は彼女の身體が展開し來る一の生命を容れる聖なる殿堂となつた時、彼女の夫が彼女の身體の一門に入來る事を許し得ないといふ氣を起す。が又一方に於て自然が彼に荷した不斷の骨折りを、彼女は思ひやるべきである。そして愛にみちたやさしい妻は彼の天性の要求する物的慰藉を彼に與ふる何等かの法を容易に發見するであらう」STOPES, MARIE CARMICHAEL (1920): Married Love, pp 138—139. London.

所が性交といふ行爲は子を設けたいといふ目的のある時に限り正しい、其外の時の性交は悉く邪淫罪惡だと斷言した英國の僧正殿がある、我朝にも同樣の意見を抱いてしかも堂々と實行したといふ貝原益軒が居る。(1)

(1) 益軒十訓の內養生訓卷第四、愼色慾の條參照

世の中で毎週毎月プログラムを建てて其通りに實行し得る人は、出來るなら其敎訓にお從ひになるのも其人の御自由である。例へば

『數學の公式に沒頭して居る大學敎授が、毎週月曜夜正九時半を期して夫たるの任務を思ひ出し、妻に向ふて "Komm, lass dich begatten!" と叫ぶといふ話は單に奇拔な逸話に留まらない。勝れた熱情と衝動とを必要とする愛の行なは、夫妻間の街學で輕んじるといふ特徵が現れて居る』KISCH, C. H. (1918): Die sexuelle Untreue der Frau. Teil I, Die Ehebrecherin, 3. Aufl., S. 121, Bonn.

所で生殖を目的としない遊戯性交は「獸的」であり、斯くて絕對的の罪惡であるか。……此說の主張は、當分の所其遊戯性交を一回も試みた事の無い人、否斯樣な「罪惡」を犯した事の全然無いやうな顏をして居る人にお任せしておく。が、人類のあらゆる兩性の同棲生活が唯一生殖を目的とする合名會社とすれば、それもよし。種馬種牛の交配を研究する樣に人間性を認めない牧畜術同樣の優生學の主唱者が世にありとすれば、彼は確に其に贊成するであらう。併し予は生物學の一研究者としても其說には贊成致し兼る、如何となれば人間として生殖許りが一生唯一の事業だと考へる事は、蓋し交尾產卵を以て一生を終る多くの昆虫類と萬物の靈長たる人類とを同一視する冒瀆であらうと思ふからである。此所では

事實の眞否でなく意見解釋の問題だから、其論議は他に讓るが、人性に基づいて無理の無い社會を構成する爲には、生殖性交以外に遊戯性交が重大なる存在理由を過現未の三世に亙つて有して居る事を、予は斷言して憚らないのである。

要するに遺精、自慰及び姙娠時の性交といひ、斯く例に示した事は皆威嚇を以て嚴禁されて居るが、凡夫は唯盲探りで各々勝手な事をオヅ〳〵行ひ乍ら不絶强迫觀念に脅かされて居る實狀、此お化けを追拂ふても決して其等の事の度數を增さない、且又奬勵する樣な惡結果をも齎さない、殊に自慰に就ては動かすべからざる實證を予は青年學徒の告白から得て居る。

未來の性倫理の基礎

我々は斯樣な虛僞の獨斷說の虛喝から解放されて、人性の自然に基づいてしかも動物性に囚はれない眞の人間生活を實現せねばならぬ。顧みて僞無く兩性の各々は互に他を敬ひ而して愛する將來の性倫理を樹立せねばならぬ。然り而して、我々は其基礎となすべく性現象の常態に就て何の知る所があるか、曰く殆ど皆無此有樣の現實曝露を試みる事が吾人の先決問題になつて來る。

第二章　大正文化と啓蒙運動

性研究の現實曝露

「海を渡つて性的啓蒙運動の餘波が來た、目先に鋭い寶文者は昨のマルクスを棄てゝ今此運動に火を添へた、到る所に性研究家が蹶出した、彼等は異口同音に既に十年の昔此の趨勢を豫知したと稱した、社會は彼等を先覺者と遇した、彼等は此啓蒙運動の先覺者と自任し口に筆に偉大な蘊蓄を披瀝した、性研究の雜誌が出た、世人は擧つて之を歡迎した、彼等は數度の發賣禁止を光榮として之を廣告に利用した、彼等は所々に伏字を設けて彼等の研究のいかに深奥にして神祕なるかを示して、大都會には性の講演會が音樂入で催された、群集は渴望せる新人の風貌と學識に接し、トーダンスの曲線美に陶醉し新しき文化に感激した。

象牙の塔に蹲て朝鮮塊の科學を痛罵した文學者は夕塊の FREUD を捕へて、此運動に參加した彼は文學研究から精神病研究に移つた。ヒステリーや象徵、さては Oedipuskomplex に Libido の如何に重大な任務を持つかを說いた、群集は此文學者と共に科學は數學と試驗管から生ずるに限らぬ事を知つて安心

した。更に大なる事件は此運動の前途を賜はした、新聞は STEINACH の若返り法を報道した、何首烏といふ靈藥は飛ぶやうに賣れた、甲狀腺の何所にあるかも知らない學者迄が內分泌の話をした、筑紫には老人に回春の設備さへ出來た、生者必滅の生物學的法則は偉大な天才の奇蹟によつて破られた』安田德太郎（一九二一）性的啓蒙運動。未來七月號三三頁。

其他民衆の頭が惡いから親切にも反復印象を强くする爲に同一內容を繰返し繰返し忍耐强く蒸し返す性慾專攻の大家もある。「大石內藏之助」で仁義忠孝を說いた今馬琴たる老小說家は、百里を遠しとせず不知火の國に赴いて回春の策を講じた、しかも回春學の大家は彼自身の禿頭上に一筋たり共綠なす黑髮を增し得ないとは「燈臺元暗し」の感があり、げに後世可畏とは此事である。そして

『無知な民衆は彼等の暗示に支配され、科學的批判力無き人々は彼等に附和雷同す、潔癖な敎育者は此傾向に眉をひそめ、短氣な靑年は彼等の智識に飽きた。眞摯な學者は實驗室に沈默を守り、ジヤーナリストは次の計畫を夢む、性的啓蒙運動は斯くして吾人の前に展開された。友よ、醒めよ、射利の徒は彼等の運命を持つ、啓蒙運動は幼稚な彼等の頭腦には餘り過重である、挑戰するに彼等の學殖は餘りに慘めである』安田德太郎、同右。

恰も學問の歷史上、科學的催眠術の先驅者として動物磁氣を說いた MESMER 一派が跳梁を極めた時の樣に、見掛けは繁盛してゐるが、其實荒唐無稽の迷信と譫言と幼稚な科學的智識の斷片とがゴタ〳〵と入り亂れ、眞面目な學者が營利專一の山師や性慾賣文成金と相伍して活動してゐる現狀、今日は唯性的啓蒙時代黎明の混沌ある許り、墮落したジャーナリズムと結びあふた似而非啓蒙家はいつ迄も勝手に古臭い虎の卷に執着してをればよい、併し眞の科學的性研究は此騷ぎの靜まつてからでなくては現れて來るまい。

第三章　性敎育の存在理由

性智識の必要なる理由

既に述べた通り性的啓蒙運動は當面に處する唯一の策である、して又各人に性智識を與ふる事が必要になる、其理由として予が前に著した小冊子「性敎育私見」

に答ふる諸氏の私信の一部を錄する事を許して戴きたい。

曰く、一般に性智識を與ふる事は必要である。如何となれば……

『本能は無理解に統御し得るものに非ざれば』農學博士小熊捍氏。

『當然來るべき事を正當に知らしめる爲』福井玉夫氏。

『可憐の青年子女に、予自身の體驗せる五十年の苦を喫せざらしめんが爲』德富健次郎氏。

『自分が知らざりし事によりて心神を勞せし事を思へば、其善導によりて性の解放を得ば、之れに過ぎたるものなけん』山中平治氏。

『花柳病覺悟の遊蕩に赴かざらしめんが爲』吉岡春之助氏。

『衛生上無知より來る煩悶疑惑を去る爲』釜屋了貫氏。

『人類の過去現在未來の最も重大な問題に觸れる爲、WULFENの曰く、すべての人類は彼の腦中に於ては性的犯罪者なりと』安田德太郎氏。

『必要な人は出鱈目に漁り過ぎる故。又往々必要な人が其必要を兎角自覺せざる事もあれば』岸田久吉氏

『心身共に成熟せる青年は日常の見聞により印刷物により斷片的性智識を有すれば、之を整理して正道に導き誤りなからしめんが爲に』望月桃太郎氏。

性教育無益論と其反駁

所が次の如き有力な反對說、卽性教育無用論がある。

『性教育は無益。こういふ事は敎はらなくしても知り過ぎる位自分で勉强して知ります（特に此頃の樣に性に關する出版物の多い時節には尙更です）、無敎育な人間には性に關する智識を授ける必要があるかも知れませんが、高等の敎育を受ける人達に態々敎へる必要はありません』鳥學者內田清之助氏。

所が「此頃の樣に」性研究書が出鱈目に濫造されてしかも如何はしい物が科學の名を借りて現れるから、之の眞僞鑑別、取捨選擇に多少目のある人間が携らねばならぬと思ふし、又蕩兒の知り過ぎたのと性研究書愛讀者の知り過ぎたのとでは、其知り方に危險性がある爲に愈々眞の性智識が必要ではあるまいか。所で內田學士の反對說に答へるに、予の聽講者の無記名回答を二三摘記して見やう。

『我等は坊間に行はれる性研究書籍から得た無稽の說を信じて居る點が少くない、聽講で今迄再三ならず啓發される所があつた』。

『稍もすれば商は詰まらぬ書物を信じたけれ共、目下其雜駁な智識を淘汰整理して心强く思ふ』。

『青春期の私は今迄性に關する本に不滿か感じた、此危げな智識は講義によりて淸められた』。

『あれを無自覺に聖書の樣に尊重して居る人があるから講師も出來る丈目を通じて批判してほしい』。

『家庭に於てかゝる種類の書籍の入るを許さざる場合多し、故に祕密に之等ゞ讀み而して之等を讀む事

なば人に知らるる事を恥づる也。されば講義を必要とす』。

『よし良書があつても、純良小賢すぎて讀む事を敢てせぬから、講義が必要になる』。

實際此最後の點が青年心理の重要な所に觸れてゐる、羞恥心の強い純潔な少年が偶ま良書があつても之を手にする迄に非常な度胸が必要だといふのも考へておかねばならぬ。

高等教育と性常識

其次に一體高等教育を受ける人達に態々教へず共常識として充分な性智識が具はつて居るか。其は一々高等教育を受け來つた人の性的常識の缺乏に徴して見るといゝ。

婦人固有の性的危機に、人により程度の差はあるが、感情が高ぶり怒り易く泣き易く且又自制心が突發的に喪へて誘惑に陷る事がある、月經期の變態の外に姙娠期・産褥期・授乳期・月經閉鎖期にも斯樣な變化が起る。然るに棄兒をしたとは云へ、分娩後日猶淺い智識階級の婦人を捕へ糾問し、推定犯罪行爲と無關係な變愛事件の内容の告白迄强ひた法官がある。又其告白を悦んで記載する新聞もある。少くも性心理な心得た人ならば、斯樣なむごい事は出來ぬ筈である。

因みに男子が此性的危機に理解同情が無い上に、婦人自身も固有の危機に居るといふ自覺がないから、姙婦の一時的ヒステリーが家庭の大波瀾を生じ、又は榮子事件の如き永久の破滅に導いて行つたり、或は白木、三越に出掛けて行つて殊更な刺戟に目が眩んで突發性萬引をやる者もある。

尙此外に高等の專門教育を受けた者の有する性智識はどんなものか、其例として私事に亙るけれ共、生物學者となるべく卽專門家たるべく養成された自分の性智識獲得の順序を述べさして貰はう。

第四章　性學界の現狀

性智識獲得の困難

生物學を大學で修める者は、以前我々の經て來た制度では高等學校の三年生の時一年間週三時間動植物學の講義を聞き、又一回解剖の實習をやりヒキガヘルとかハトやカメを見た。理科大學の一年生の時には一週三日五島教授の下に動物の

死體は一通りつゝつき廻して見た、二年生では一學期各週三日渡瀬教授の下にィモリの體の各部分を自ら切つて切片を作り組織學の一通りの概念を得た、次の二學期は故飯島教授に附いてニハトリとカヘルの發生を實地肉眼で見て又顯微鏡下でも見た、又之と同時に醫科へ行つて橋田助教授の筋肉生理を聞いた事になつてゐる、それから大學の此二年間の研究の半ばは小石川植物園で費やし植物分類學、組織學、生理學の講義及び實習を夫々早田博士、藤井、三好兩教授の下に行ふた。斯樣によし當方で怠けて居たとて、矢張生物學者となるに充分な基礎訓練を施す樣にチャンとお膳立は調つて居り、世界有數の大家の下にしかも一級四名の小人數に銘々丁寧な指導がある有樣、一方何百人を束にして講義をしたり列を造つて顯微鏡を窺いたりする世智辛い醫科とは全く違ふ別天地である。それで三年には平素志望の精子學の研究題目として渡瀬教授に材料としてイモリの睪丸を選んで戴いて仕事を始めたが、平素なまけた祟りはテキメン、イモリのそれは恐か自己所有物の內容眞相もわからぬといふ始末、研究は其後どうやらこうやら進行してゐるが、少く共生殖器研究を表榜して居りしかも一流の教育を受けた者として予自身の內幕といへば、要するに生殖に就て自己は無知だといふ事がわかつた、又之と同時に人類の常態生殖に就て知らぬは自分許りでない、其は一般に大してわかつて居ない事がやつと會得出來た次第である。併し幸ひに予は、少時加奈陀で小中學の教育で英語を學んだのを振出しに、語學では日本の大學生としてはハンデキャップがあつたので、早速性智識吸收にも事を缺かぬ、又從弟安田德太郎も同じく性學に志を有して醫學的方面の缺を補ふ。斯樣に特別に都合のいゝ事情があり二人掛りで搔集めるにしても中々追附かない、此所に於てか毎月々々雜誌に大論文を發表する「性學大家」の精力絕倫に驚かざるを得ない。

扨讀むべき本を選み得る事は非常な幸福だ、讀んで理解し得る素養を與へた準備教育に感謝する。そして說の眞僞を批判し得る獨立の判斷能力を具へた者は、

之等特權を有せざる社會の大多數者に對して負ふ所の責任は甚大である。

然るに予は如上の便宜あるにも係らず、いつも泥棒を見て縄を糾はざるを得なかつた。卽妻の懷胎に接して始めて姙娠の生理を調べ、兒の生長に伴ふて親として脅かされ、如何にして、何所より來りしかといふ茶目公の問に接して惑ふた、晩學早婚の予として無理も無いと辯解しても、生命の神祕に思を致すべき者として實に恥しい次第である。自分は幸にも泥縄をやつと備へ得たが、世間には其も得る便宜の無い人々が頗る多い。又一方世間では既に溺れんとする人の藻掻くのを見乍ら、其救濟法の論議に悠々時を費してゐる樣な觀がある。溺れるのは自業自得だ意志薄弱のせいだと空嘯いて居る人もある。此時に當つて所謂不生產的研究に從ふ事を許されて居る予は、次の句を思ひ浮かべてヂッとして居られぬ、曰く

『一人の梵語學者を養ふ爲に、數百家族の勞働者の過剩勞働が吸收されるのだ』NICOLAI, G. F. (1919): Die Biologie des Krieges. 2. Aufl., S. 36., Zürich. 山本宣治譯、三四頁。

斯くして貧弱な智識の貯への底迄曝露して迄も、大聲疾呼しなければならぬものがある。併し或人は云ふだらう、人間の事には專門の醫者があるのに餘計な御節介だと。成程如何にも一應御尤だ、まづ熟考して見やう。

(1) お上品振つた英國で近頃珍らしい（しかも女の植物學者の著した）書物 "Married Love" や "Wise Parenthood" とが、僞り無い婦人の性生活の告白と情に篤くしかも理知に富んだ姙娠調節法の提唱とで、滿天下を驚かしたが、其に對して在來の英國紳士は大恐慌を起し邪說驅逐に奔走して居る。其中でも濠州の國會議員を十何年勤めたと自唱する W. N. WILLIS といふ仁の反對說が面白い（D）（1921）: Wedded Love or Married Misery）曰く MARIE STOPES 女博士はドクトルであつても白堊期の化石植物の組織研究の博士であり、植物はわかつても植物の理屈で人間の避姙法を律するのは不穩當だ、殊に事情を知らぬ民衆はドクトルと聞いて M. D.（醫學博士）と誤解し易いからいかぬ、ストープス女史が人間の避姙法の宣傳をしたいならまづ醫科大學に入つて醫學の學位を取つてからにした方がいゝ、人間の事は醫學者があるから門外漢が兎や角云はぬがいゝと云ふ說である。但し此仁も醫學者でない衆議院議員の辯に矢張避姙法を是非した揚句、食據水による腦洗滌は粘膜硬化を來す恐れがある、論より證據據濱の牛肉を見よなどゝ名論を吐いて居るが、人間の生きた組織と既に死んだ後の牛肉片を同一視する樣な愚論は苟くも生

物學を修めた者なら植物學者でもすぐにわかる、わからぬのは滿州の前國會議員たるウキリス氏丈で、我邦の國會議員にはそんな無知な者はあるまい。但し醫師を萬能と心得て超人的に崇拜する例は我國にも可成多い。其から慾いて醫術に關係ある者なら末葉迄も買冠つて、中國の或縣では高等女學校で若い看護婦を聘して性教育講義の任に當らしめたと聞いた。

專門醫學の學殖

最高學府を出でゝ醫學士となる迄始め高等學校の一年生で一般生物學を學ぶ。此際將來聽診器によつて或は新藥發明によつて成金になりたいと志ざす人々は、ともすれば此基礎學を等閑に附する事がある。大學一年生に初めて人體の解剖觀察を行ひ此所に醫師として始めて其らしい研究に入り、之と同時に一般生理學を學ぶか、追々に精に入り筋肉生理、神經生理と講義は進むが、東大では生殖生理學は講じられて居ないらしい（京大で一九二〇年頃から石川日出鶴丸教授の講義に生理學概括が加へられたと聞いた）、又其樣な所迄手を廻す餘裕も無い。參考書を示されても之を讀まうとする篤志家は至つて稀だ、殊に學科が多いからノート丸呑み採點通過至上主義を奉じて依頼心本位の者が可成ある、斯樣な受動的態度で勞力を最少限迄節約するから、口先き許りは獨逸語タツブリ、テニオハ丈が日本語の語學者でも、コツソリ性的賣文業者の通俗雜誌に隨喜渇仰する樣な科學的批判精神に缺けた者すらある。併し無論斯樣な人々は少いに相違無いが、兎に角一部潔癖に過ぐる教授法と相俟つて現狀に多少の缺陷が無いでもない。

遺精に關する文獻を學生に問はれた或助手は、其樣な事を研究すると猥褻になりますからと答へた。

大學卒業前の二ケ年間の內に特に婦人科學、皮膚泌尿生殖器科學の講義を聞き臨床實習に侍して、此所に醫師たるの實力を得る次第であるが、本來病有る者のみ醫師の藥を求むるのであり、斯樣に養成された一流の專門家でも其一部の者の職業的判斷は、病氣以外の正常現象に就ては其內狀を知ると一向當てにならぬものがある。例へば昔風の醫學生一流の遊蕩生活の中で娼婦から習ふた閨房祕事を鹿爪らしく患者に披露する者もあるらしい。かうなると男子の性慾充足を業とする

職業婦人が醫師の特別研究の指導教授であり、患者は醫師の口を通して娼婦の助言を受くる樣な奇觀を呈する譯である。斯樣にして「苟くも醫學士たる者は卽座に處女たるか否かを看破する事が出來る」とおどかす人も出來る。

（孃膜は最初の性交と共に疼痛出血を伴ふて破れるのを常とする、但し性交を經ても破れずに殘る事もあり、性交に立到らず共既に他の原因によりて殆ど消失する事もある。斯樣なデリケートな問題を速斷する前に宜しく JAYLE, F. (1919): La Gynecologie, Paris. を參照して百に垂んとする挿圖を見るならば、其輕卒を悔ゆるであらう。其にしても科學者の「唯物的」傾向を笑ふ「唯心的」な人々がこんな物に拘泥して居るとは却つて笑止千萬、吾人は須く孃膜を超越せざるべからず、〔山本宣治（一九二二）『生物學から見た處女性』女性改造創刊號參照〕）

おどかし序でに、苟くも醫學士たる者は常習的自慰者を立所に看破して呉れると吹いたのを、聞いておぞ毛を振つた受驗生もあつたといふ話。兎に角世間で買冠つて居るなら、殊更に廣告して不信用を招くにも當るまいといふので、つい診察室の書棚の中味は日本語だが背中丈は獨逸語の金ピカ本を飾つて見る調子だ。

所で醫は威なり、賴らしむべく知らしむべからず、俗人共何も知る必要が無いといふならば、成程醫者成金は出來やうが(1)日本の文化は、否日本の醫學は、いくら樂屋で太鼓を叩いた所が、獨逸の足元にも寄り附けさうにもない。

(1) 伯林の警視廳の醫長であつた DREUW は性病豫防に關して、性病豫防に必要な智識を醫師といふ特殊階級の獨占に委ね、民衆は唯醫師の命ずる儘に賣付けられた藥の注射を受けさへすれば、性病豫防に關する施設として事が足りるといふ在來のやり方を性的資本主義と名附けた、卽彼の見解に據れば、新藥の利用にまりて巨萬の富を贏ち得た學者と製藥業者とは、民衆の無知につけ込んで無道な掠奪を試みる性的資本家である、其で此資本主義の横暴より脱却するには、或一階級による智識の獨占を防ぎ普遍的啓蒙運動によつて民衆の常識を豐富にし自重心を養成すると共に、不幸にして性病に犯され病原體を保有し傳播力を具ふる男女は、其人名を問ふ事も無く全治する迄國費を以て其治療を全うするが性病豫防撲滅の合理的政策だと主張して居る。此主張を彼は性的分別至上主義 Sexuelle Diskretionismus と名づけた (DREUW (1921): Die Sexualrevolution. II. Afl., Berlin 參照)

當代で買冠られて有難迷惑を感じて居る者に、第一に生物學者、第二に教育家、第三に華族がある。孰れも盲目的な不當な尊敬を受け、一種超人間的取扱ひを受

けて居り、之と同時に過大の要求を期待せられて煩悶する者が多い。之に反して醫師の方で買冠られても他方「醫者の不養生」で拔道があるから、此方でウント元を取る。

『教育で餘分な考を起すのは、先づ其心の持ち樣か改めさせなければと思ふ。性教育は或意味に於てウンと露骨でいゝ、婦人科の醫師が其患者の施術の場合何の餘分の考へも起さないのを考へる事だ』玉村方久斗氏私信。

うわべは餘計な考を起さぬ樣に見えて居るが、其際隨分遺精や自慰があるとは遠い海外獨逸醫界の內輪話だ。日本では眞逆と思ふが、何でも獨逸の眞似をする醫者の事だらう、しつかり保證は致し兼る。兎に角大臣は必ずしも人格高潔でないオワイ屋が必ずしも人格下劣でない樣に、「醫は仁術なり」といふ句はあつても、醫は悉く仁人なりといふ必然的因果關係は無い、よし悉く仁人であるとしても、性問題を正しく理解する人が甚だ乏しい。威嚇的倫理の如きは蓋し無知の仁人の善意から生じた過誤である。誤つた前提と無知からは、よし善意があつたとしても、よい結果は生じない。我々はまづ『汝自身を』知らねばならぬ。

性智識追究の現況

生理學の本で生殖生理を省いたのは何も日本の中學教科書だけでない。今でこそWINTERSTEIN: Handbuch der Vergleichenden Physiologieだとか、MORAT et DOYON (1918): Traité de Physiologie の如き大著があるから、獨佛語さへ征服すれば之れを虎の卷として受賣すれば、日本で ELLIS や BLOCH、さてはPLOSS und BARTEL などに後生大事に縋り著いて居る面々の膽を寒からしむるに足りる。併し前には專門の生理學者でも、矢張一種の潔癖からか其部分は至つてアッサリと片付けてあつた。

英國王の忠良なる臣民を毒し善良なる風俗に侮辱を與ふる者として責められた大家 ELLIS に徵してもわかる通り、昨今 MARIE STOPES の快著に對する社會の態度を見てもわかる通り（前出三五頁註參照）、英國から引續き何か性學上の

大貢献を期待する事は困難だ。MARSHAL (1910) : The Physiologe of Reproduction, London の如きも其名に背いた解剖學書である、斯く一般に文献の乏しい事は又研究が概して進歩して居ない證據である。

米國では唯篤志家が大陸の名著を譯して出す位が今の所で關の山、時々突飛な通俗書が出る位（例LONG）で先づ日本の現狀と大差が無い。英語しか讀まぬ日本の性學紹介者に執つて甚だ殘念な事ではあるが、近頃多々益々譯される米國書は性學上餘り重要なものと云ふ事は出來ぬ。

次に獨逸では EULENBURG と BLOCH の主宰の下に始めて出たZeitschrift für Sexualwissenschaft「性學雜誌」は後 Internationalen Gesellshaft für Sexualforschung「國際性研究協會」の會報となり現にMAX MARCUSE 編輯の下に毎月出て居る。其他MAGNUS HIRSCHFELDの出して居る Jahrbuch für Sexuelle Zwiscnenstufen「中性研究年報」や Neue Generation等流石に獨逸の活動は今日も猶衰へず、性研究を以て全宇内に覇を唱へ牛耳を執らんとするの概がある。併し多い中には懸賞俳句を募集する日本の性雜誌も笑ふ事が出來ぬ程の低級な賣文活動も見える。

『伯林の書店へ漁りに行くと、動物學植物學書の棚よりズツと大きい棚に、ギツシリ性研究の本が詰つて居る。緣日商人が露店の上の人形に冠せた高帽を人寄せの爲ステツキで叩き乍ら Professor STEINACH! と怒鳴つて居る』川村多實二教授談。

何も西洋だからと無暗に崇拜する必要は無い、丸善に來る本を片端しから窺いて見ると可成愚書やイカモノが多い。唯時日の淘汰を經た大著 KRAFT-EBING, BLOCH, NEUGEBAUER あたりの力作に接すると多少の壓迫を受けるけれ共、他の群小性的賣文家の粗製濫造書を見ると、たとひ横文字で綺麗に印刷してあつても欺されない。かう云へば、其所で滿員電車内の走觸性 Thigmotaxis 現象に興奮して有頂天になつて猥談を憚らぬ連中共が、西洋でもさうならと一層乘り出すかも知れぬが、こんな事迄西洋の眞似はして貰ひたくない。

佛蘭西では一八九〇年代に仲々盛んであつたらしいが、FÉRÉの名著此方あま

り纏まつたいゝものは出ない。西洋でも餘り山師許りが出て來ると、潔癖な學者は賢明にも退却するかも知れぬ。

伊太利では近く性學が勃興せんとして居るのは別文の通り(附錄參照)、地震の多いのと不潔な田園生活の有難いおかげで、地震學と寄生動物學では日本と伊太利とが學界に於ける東西の両大關である。此點からいへば我『女ならでは夜の明けぬ國』が性學に於ても伊太利と將來覇を爭ふ樣になるかも知れぬ。

第五章　各方面に對する要求

まづ第一に常態の智識

斯樣にして病氣の事なら汗牛充棟の書はあり、至る所で研究されて居るが、併し常態の生殖生理、竝びに正常の心理は何所でも餘り研究されて居ない未開の天地である。病人のみを取扱ふて多忙な醫師に性教育の萬事を托する事は出來ぬ。變態性慾の事實がさきに集つて之で常態を律しやうとするから、變態常態の區別が朦朧として來て、正常健全な人間迄を自分を變質者だと思ひ込み、此暗示此固定觀念の作用するまゝに本に書いてある通りに自分の例も進むと早合點して、自分から進んで引摺られて行く數例を予は自ら觀察した。

之も性研究通俗雜誌濫讀の弊で、既に日本譯のあるKRAFT-EBINGの作に載せられた變態性慾の諸例は其等の印刷物に可成豐富に引照されて居る。又或有名な作者の如きはHAVELOCK ELLISの著を元としてサド風マゾホ風を日本の舞臺に活躍させた、此影響は青年の性的實生活に種々及んで居る。或種の告白小說を讀んで其一部に共鳴すると、其後其讀者の生活が其小說の筋に幾分かぶれる事もある樣に、クラフト、エービングの講實にかぶれて輕い祟秘的傾向を有した青年が、書いてあゝ通りの激烈なものとなると思ひ込み、大に煩悶して居た所が、わけのわかつた敎師の反對暗示によつて全治した實例を最近見た。唯書物許りでやつた『變態性慾研究』は大抵暗示反復によつて強迫觀念を製するといふ結果に到達する事が多い。此故に青年の性教育に於て病的實例か反復力說し、或は變態性慾に關する文獻を紹介する事等は大に慎まねばならぬ。此點は夙に恩師谷津直秀氏に授に注意を受けて居たが、予も過去二年間の實驗により て此注意の適切なる所以を痛切に體得した次第、直接性教育に携はらんとする醫師諸君に顧ひたい事は、

當面の青年男女は皆病人でない事を記臆し、大學病院で學用患者を取扱ふ際『興味ある材料』をイザクリ廻す樣な氣分にならぬ樣に自省して戴きたいものである。

どれが常態であるかわかつて居ない今日では、まづ第一に啓蒙運動を以て眞の科學的性研究に就て一般の理解を求める事が必要、之が出來れば彼の野蠻人が食事を恥ぢる樣な原始的羞恥心は自ら撤廢される、そして各人は文學的裝飾や誇張に富んだ告白で自ら高しとするのでなく、率直な態度で各々文化の爲眞理の爲に自分の無知から犯した過誤を斯學の爲に提供する、斯く集めた事實を綜合して其上に新時代の性衞生とを性倫理とを建設すべき其日はまだ遠い。

我々は何も知つて居ないのだ、社會全體として又學界として此無知といふ現狀の自覺を得て、其から始めて進歩の第一歩を踏出せる、一日も早く此暗中模索と中世紀のお化けの强迫の時代を葬つて、新らしい光ある時代を迎へたい、之が爲には專門家許りでなく民衆一般の理解ある助力を求めざるを得ない。

醫學者に對する要求

予は既に四百有餘人の青年學徒に對して、約二十時間性現象を中心とする講義を試みた。其時の反應として學生諸子から聞いた色々の誤や嘘が、皆開業醫の口から出たと云ふ事を知つた。

例、レンチエン線の殺精作用を知らぬ醫師がある。孃膜は人類のみ所有すとの説、性交時に一側の睾丸を握りて事に與れば兒の性を自由に定むる事を得との話。

之等の事から推測すると、或一部の醫師は質問に對し無知を告白すると威嚴を損するので、卽席出任せの嘘で一時を誤摩かす內幕が多少わかる。其他「賴らしむべく知らしむべからず」の態度で、貧弱な智識の賣惜みをする花柳病專門醫もある、其或者は淋病患者に無效なサルバルサンでも注射を推奬する、又其日暮らしのあわたゞしい學殖を以て誰かがなけなしの虎の卷を嗅ぎつけないかとビクビクものの紹介者もある。併し之等の人々に多くを期待する事は出來ない。

此所迄予は主として醫界の暗黑面のみを摘發せざるを得なかつた事を非常に遺憾とする。併し乍ら我國の醫界は斯く詐欺師と惡漢とのみを以て充されて居るのではない、性研究のジャーナリズム騷ぎに不快を感じ回避されて居る賢明な大家國手も多いのである。

抑々科學者として社會の文化に對して負ふ責務の一として眞理闡明、迷信打破の業がある。今の混沌に處するに、學殖豐富にして良心に忠、且つ眞理を宣ぶるに勇敢な斯學者の奮起を俟つ事大である。今や來らんとする時代の建設者たる青年醫學者の中に、又現代醫學界の大家の中に、予の主張を贊し又奬勵の辭を寄せられた多くの方々を求め得たのは予の光榮である。惡貨は良貨を市場より驅逐するといふグレシャムの法則が學界でも希くは實現されない樣に。お互に努力を致したい。中世紀の獨斷說を今も猶受賣して居る敎育者を責めるのは寧ろ慘酷である、智識仲介者たる彼等に正當なる智識を供給せざる專門學者の怠慢の責や大なるものがある、時代錯誤の敎育者を責むる前に、まづ專門學者は文化に對する自己の責任に就て反省しなければならぬ。

爲政者に對する要求

今泰西名著紹介なり、獨創研究や批判發表なり、學者の勞作が世に現れる時直に印刷公刊の手續が問題になる。獨逸醫界の大家が分擔して結婚に對する注意を記した Krankheiten und Ehe を譯して出すとした時、康熙辭典と首引しなければならぬ樣な劃の多い六ケしい字許りと片假名交りで、いかめしい醫界獨特の文章で書いたとて其飜譯は用をなさぬ。醫師のみ讀めば素人には讀まさず共宜しいといふのは、今後の文化の爲に絕對に採るべき策でない、ちやと申して口語譯にしたら立所に發賣禁止になるに相違無い。美しい寫眞の多い STRATZ の著書の如きも確に同樣のうきめを見るであらう。名著 FOREL, AUGUST (1920) : Die sexuelle Frage の如きも、文明協會譯の『性慾研究』では見るも無慘な〇〇だらけ

の手傷を負はされて居る。智識階級の者でなくば、よし口語體に書き替へても其内容がわかりもしない物に迄斯くも影響を與へておき乍ら、一方『無智低能』なる一般向の性雜誌の臆面も無い猥談縱横を放任して居る。偶々手をつけても『發賣禁止改版』で本屋の廣告政策を助ける許り、殷鑑遠からずエリスの譯書にあり一體全體廣告政策に利用させたい爲か、それ共貴族院あたりの頑固おやぢの小言豫防の申譯丈に禁止するのか、何が何やらサツパり譯がわからぬ。檢閲官が科學的著述の眞價を一々鑑別ある能力を具へて居るか、餘り多く期待するのは無理であり、又一種の動物虐待防止の爲に將來一々御厄介にならぬ方がよからう。

予は唯一案を提出して見たい、其は純學術的著述の發表に際し、其内容の科學的か際物かを鑑別するに、彼等檢閲官に超絶した機能を有する眞の學者を煩はしたい。或は官制が許されぬかも知れぬ、併し人は官制を維持する爲に存在して居るのでない、だから官制が文化建設の邪魔になつたらドシドシ撤廢すればよい

學術的性研究が官權によりて阻まれた實例。客年小倉清三郎氏を中心として行はれた相對會の眞摯な性研究は、其報告の郵送が反復禁止された爲に、終に立消えとなつた。

＊　＊　＊

マーガレット・サンガー女史の著はした『家族制限法』の小册子の内容が『風俗壞亂』だといふので、一九二三年一月倫敦の西警察署では押收絶版を命じた。醫學界及び政界の大家名士が其小著の學術的價値を證し、有益無害なる主張し證言を與へたけれど、兎に角當局の意向は證據の如何に頓著無く絶版さへすればいゝのだと、初審の判官も放言したので、盤々米國からサ女史も出張しやうと手答を調へ、エチ・ジ・ウエルス氏も聲援し唯今第二審に先だつて輿論大いに沸騰して居る。（一九二三年三月）

教育當事者の上司に對して

既に心身共に成熟した青年に對して、悠長な間接的諷諭は却つて不健全な好奇心を挑發する許り、此格段な場合には格段な解決法として好奇心を遮ぎる祕密の帷を一擧に撤し忽に未知の世界を眼前に展開せしめるより外の法は無い。予の此急進的性教育の方針に對して中等學校及び專門學校の教職にある方々で贊同され

た人が多い。又其が獨創の案でもなく、早く既に若干の試みをせられた方々も稀でない、但し過渡時代の悲しさで、上司の事勿れ主義と無理解な壓迫と又被教育者の一時的興奮動搖があつて、遺憾にも折角の企を阻まれた數多の例がある。

此所に於て予は教育事業の大綱を統べる大任を有する方々にお賴みする。貴下が之迄予の述べた所を解し又之より述べんとする實驗報告を味ふて後、予の說に共鳴されて眞の科學的啓蒙主義に理解を得られたならば、部内の教師をして後顧の憂無く此新地の開拓に力を致さしめる樣、熱心な後援と奬勵を加へて貰ひたい、若い眞面目な教育者は到る所に潛んで居るのだから。

第六章　既に存する諸種の性教育

扨予が提唱しやうと思ふ性教育の内容に入るに先だちて、まづ今迄からある種々な形式の性教育を考へて見なければならぬ。

從來の所謂性教育

江戸時代に大名衆の嫁入には春畫を充した長持を持參したといふ話、當時の畫入小說が閨房祕事の委曲を盡し、其或者の記載の如きは性交過程を極めて科學的に詳細に觀察した事を示して居る。だから斯樣な風習は單に享樂氣分の爲丈でなく、或種の教育的價値を有して居た事を我々は認めなければならぬ、所が今の世の多くの親達は斯樣な長持を用意する丈の準備も無い、若しあるとしても其は教育以外の目的に惡用されるらしい。

所で明治に入つて斯樣な形式の『性教育』は先づ其跡を絕つた。其で性病に罹つて醫師の厄介になつた事もない人々の多くは、新聞の賣藥廣告で性的器官の一部の名稱をウロ覺へする、勿論斷片的の智識だから、どの器官がどれに連つてどんな役目をするかもわかつて居ない。賣藥店頭の模型を見る勇氣と機會を有する人でも、唯惡辣な色彩の腫瘍の存在に戰慄し恐怖に襲はれる丈、自己の身體の作

用を理解し少しでも調整し得る丈の智識をも得る事は出來ない。

更に積極的の態度に出る人は、書店の一隅で「性學大家」の著した名著を探し出して、金を拂ふたらすぐこわいものゝ樣に後も振向かずに我家に歸り、人の寢靜まつたのを見澄ましてから其本の手引で性研究に取掛かる。斯樣な順序で其研究者の手に入つた本は大抵餘り好ましくない物が多い。よし其著者が『十數年間專心其研究に從事した』としても、或は堂々たる學位の肩書を有して居るとしても內容は其口上や手前味噌や肩書に反比例する事が多い。併し其憐れなる性研究獨學者は、誰一人相談相手も無く唯其本の著者のおどかすがまゝに恐れ慄き、又導くがまゝに一種の變態性慾患者となり終る事もある。卽此種の獨學性教育は、豫備智識無く眞僞を判斷する科學的態度の乏しい一般民衆の爲に不適當の法である。

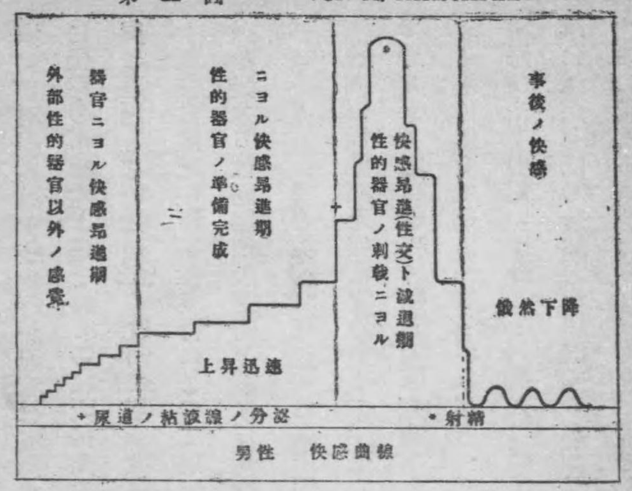
其他多少品行圓滿な人達は、限りある各々の短い半生の體驗を語り合ふて、一種の科學を造り出す、之が彼等自身の性教育になる。此一團の中で親切な人は此自家製の科學常識を年の行かぬ者に宣傳する事もある。世の少年が下男や出入の者に此種の事を吹き込まれるのは大抵此式で、何しろ自家製の性智識だから廣い世間に通用しない物が多く交つて居る。

斯樣な諸種の所謂性教育によつて幾何の啓蒙運動が行はれたか、次に其等の無效を證する性的無知の實例を擧げて見やう。

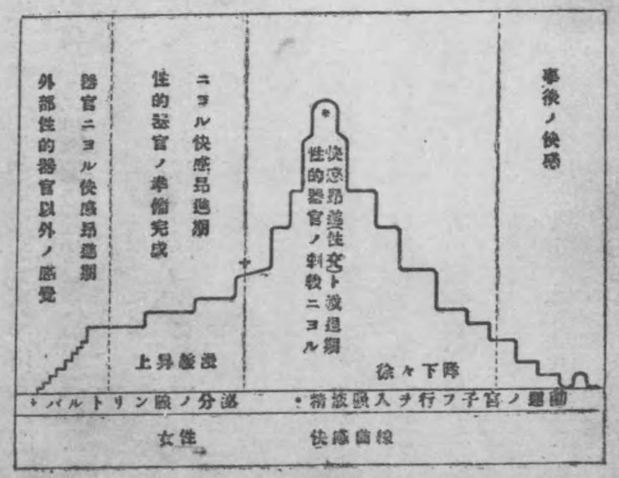
性的無知の實例

婦人の性慾缺乏症は案外多くて、恐らく百人中六十乃至四十に登ると傳へられて居る㈩。之は性交に際して婦人側の Orgasm（快感の高潮）が概して男子の其よりも遲く起るといふ一般的現象があつて㈫之に頓著無い配遇者の無知と、それから思ひやりの無い振舞とで、婦人は性的生活の進化に伴ふ事が出來ず、早くに其事に嫌惡を感じ全然之を回避するか。又は僅に消極的態度を以て結婚關係を繼續するに留まる事があり、性慾充足に際し婦人側に弛緩の不完全なる場合に、其が

第二圖　VON M. HIRSCHFELD



第三圖　VON M. HIRSCHFELD



欠

(4) STOPES, MARIE (1919): Married Love. A Book for Married Couples. 9th. Ed., London.

某府高等女學校々長會議では『生徒が月經を口實に體操をエスケープする惡習があるから、取締上之を缺課にしなければならぬ』かどうかを相談した上、『結局毎月の定期現象だから、出席簿の上に其を示す符牒を記しておくか、又は現今多く實施されて居る通り、生徒の定期表を作つて參考にする』やうに決議した。いくら決議をしても二十八日目に誰でも名簿上に赤丸の示す通りに週期に入る譯でも無いのにの哀れな女學生よ、お前の身體の變化は數理的正確を以て名簿上の計算通りに行はれねばならないのだ。若し豫定通りに起らなかつたら、其都度毎娘の身で體操教師と折衝しなければならぬ、維時大正十一年は五月の事也。

(1) OSTERLOH に據れば、月經は百人中六十八人に於て正規に四週毎にあり、殘り三十二人では不規則に起る。

松江高等女學校月經調査報告（三八三頁以降參照）に據れば、四週毎順潮なるは七〇・八五%、不順は二九・一五%である。

欠

斯く性的黎明時代に於て、お化け共が到る所で掉尾の一蹶を試みて居る。似而非科學の横行あり、時代錯誤の賣藥廣告の跋扈はあつても、青年男子の妄動を止める事は出來ない、又其に關係のある婦人のヒステリーや、不姙症に基づく家庭悲劇の續出を防ぐ事も出來ない。

『政府は性病豫防の爲にあらゆる處置をしたけれ共、青年男子と娼婦の罹病數に於て、統計上何等の影響も現れなかつた』秦佐八郎博士談 Corbett-Smith, A. (1919): The Problem of Sex Diseases, 2nd Ed., p. 6, London.

個人の自覺々醒を根據にしない立法と强制衞生をいくら試みても、性病豫防は斯く徒勞に歸した。要するに、前述べた色々の條件の上に社會一般の性的無知と迷信とが存して居る、其に加ふるに僞善的潔癖と原始的羞恥心と實相に對する怯懦不徹底とがあり、之等が相集つて終に家庭の破綻や悲劇の增加を來し、又一方に於て性病の蔓延傳播を防ぐ事が出來ないのである。

各種の婦人運動

此所に於て婦人連は女子參政權獲得運動を試みる、又或者は男子の絶對的貞潔を確保すべき制裁法制定の要求をする、又外には性病々毒の存否檢定を前提とする結婚取締法の要求運動をする人もある。此方々の熱誠と純潔な人生觀とに敬意を拂ふ點に於て予は誰にも劣る者でない。併し乍ら、性現象の實相とは全然沒交渉で同性の現狀をも知らず、異性の心理狀態を辨へない斯樣な架空論には徹頭徹尾贊成する事は出來ない。直譯的拒婚同盟の提唱はヒステリー的發作でないか。

一般民衆の自覺はさておいて、ひたすら天降り法律で婦人救濟の可能を信ずるとはさて〳〵法律崇拜の弊も其極に及んだものだ。人性の根本に基礎を置かず、民衆の自覺を前提とせずに法律を造つて見た所が、つまり西洋人にひけらかす許り、唯淺薄な國際的虚榮心を滿足させる丈で、實際の結果は有名無實とならう。斯樣な事は却つて『法の權威』を損ふものであるまいか。

次に一部の記者輩が自分こそ精神的賣笑夫の癖に『賤妓』と他を呼ぶも片腹痛

い。『孔雀の樣な貴婦人』は因襲的無理解の結婚で一生繼續の賣笑行爲を行ふて居乍ら、社會の一方に止むを得ず淪落の淵に沈んだ憐れな姉妹を蛇蝎の樣に見て、徒らに柳眉をひそめて『醜業婦』と嚙んで吐き出す樣に云ふて居る。蓋し男子の愛を獨占したさに商買敵と勢力爭ひの嫉憤もほの見えて、卑しとも卑しい限りである。更に彼の廢娼運動に至つては、事の本末を辨へない感傷的盲動であり、よし其主張の一部が實行されたとしても、必ずや其效果は彼等の期待する所と正反對であるに相違無い。

徹底的廓清運動

予考ふるに、徹底的廓清の爲には、まづ第一に性的啓蒙運動を以て事の眞相を出來る丈多く一般に知らしめる事を必要とする。して又之と同時に、婦人に各種の賣春行爲を餘儀無くさせる社會經濟制度の根本に溯つて改造しなければ、到底其實現を見る事は出來まい。

『既に膏肓に入れる痼疾に對し外科的治療を施すを怠り、徒らに膏藥を張りて一時を糊塗せんとする者其愚や到底及ぶべからず。個人の人格と不可分的要素たる貞操さへ金錢に換價し得る商品として取扱はれ且其實買が資本主義的に經營せらるゝは、實に悲慘此上無き矛盾なれ共、要するにそは現代社會制度の生める必然の害惡に外ならず』A氏私信。

第七章　純科學的性教育の基調

凡人の惱み

扨凡そ此世の中で我々が利益を受けるもの、科學といひ藝術といひ、社會制度といひ、宗教といひ、皆凡人の惱み凡人の窘迫の結果、凡人の產み出した物でないものは無い。法律は、誰しも罪を犯し得る者だ、皆聖人君子でないと豫想して存在して居る。醫學は、誰でも皆病氣に罹り得る見込があると思へばこそ、其存在がある。之と同樣に性的生活に於ても亦、誰でも最大の危險に曝露され最大の誘惑に遭遇し得るものと豫想して、萬人の爲に其對應策を講じなければならぬ。

過去に於て新聞雜誌を彼女及び其家族の寫眞と彼等の感想と得々たる經驗談を以て賑はせた過去の「模範的賢母」たる某夫人が、自己の家庭で無用だつたからとて性教育無用論を力説したが、自分一人極めの『理想的家庭』の事を廣く世に適用しやうとするのは頗る迷惑であり、Fool's Paradise に逍遙して『うちの息子は…』と親馬鹿チャンリン振を發揮されるのは御自由だが、其小天地の經驗を以て社會を律せんとするのは賢母にも似合はぬ低能振り、我々は無風地帶の稀有除外例を論じて居るのでない、溫室でもやしを作るやうな特殊教育には當分の所交渉が無いのである。

斯くて我々は自衞の必要上まづ性教育を必要とする。

⑥ 予の提唱する性教育の目的

扨予の力説せんとする性教育は二段に分けられる。まづ第一に

眞實の追究であり、各個人に性現象を廣く諸方面から觀察せしめ、特に之迄閑却されて居た人間的方面を示し、以て彼の最後の者の身邊に襲ひ掛らんとする不測の危險を未然に防ぐに足る科學的性智識を授くるを旨とする。

此際科學講演なのだから、唯一眞理の宣明のみを目的とする。講述の態度は『飽く迄純科學的で寸毫の情緒的叙述を許しません、假に講義としたら何等のツヤも味ひも無く、聞いて居ても眠くなる樣なるのでなければなりません』内田登雇氏私信。

所が實地の問題になると、今迄斯く實相の多方面な事を知らなかつた人や、見る事を許されなかつた人が現代の青年の中に多いから、よし毫の情緒的叙述を加へず共、全實在の現實曝露に向つて愕然たる人もある、又激動を受ける人もある但し如何に動搖が起つても、教室内で受けたものに基づくものは一般に無害であるから（予の實驗に據つた此説の證據は一九六頁下參照）、恐るゝに足らぬ。若し其動搖を恐れて居たら、矢張今迄通りの安全第一事勿れ主義を續行するより外は無い。但し性教育が早くから少年少女の順當な心身の發達に應じて適當な方法で

行はれて居たなら、別段動搖の興奮のといふ事が問題にならない筈だ。併し乍ら只今は、過渡時代に於て心身共に成熟した青年の焦眉の急に對する應急所置を、予は主として考へて居るのだから、此樣な心配もしなければならぬ。

無論此際『人格淘冶』とか『思想善導』の名の下に、既成の信條や教權や倫理に對して都合のよい事丈を撰んで述べるといふ樣な偏頗な事は、斷然排斥せねばならぬ。

其れから智識を授けると其が手ほどきになつて墮落する恐れがあると心配する人がある。成程啓蒙萬能でもない、又教育者が石を變へて玉とする事が不可能なのは勿論である。所で其人の心配通り、まづ人間の尊い本能の一である知識慾を抑へつけておいて、今無邪氣とか純潔とか假稱して居るが其實抗抵力の缺けた無知其ものゝ中に、人間を閉ぢ籠めておかうとしても、此世智辛い世の中にどうしてそんな事が出來るものか。知らすのならイヤでも知らさねばならぬ。其結果がよかれ、あしかれ……。然るに惡結果は杞憂であつた。

『教育を受けて墮落する者は、如何なる教育にも墮落すべし。而して其反對も亦眞』有島武郎氏私信。

扨第一段に述べた眞理宣明の目的が略ほ達せられたとし、大體として正しい理解を得たとすると、次に善と美との教育が問題になる。其所では

盲目的本能を制駁すべき理性自律の可能なる範圍を示し、以て自知自敬自制の力を養ひ、凡人として自ら顧みて僞り無く生を樂み、更に進んで世界同胞に奉仕し得るの餘力を養はんとするを以て旨とする。

此故に、性教育とは、彼の來世の人類改善を目的とする優生學Eugenicsの前提とすべき現世改善學Euthenicsの一部を構成し、應用生物學の一部門に外ならぬ。

『法律を知らなかつたからとて、何人も刑を免れる譯に行かぬ。併し人に餘り顧みられない法に關する智識の欠乏で、法官は屢々酌量減刑する事もある。だが、性的法則に就てはさうは許さぬ。汝が法に背いたら其つぐのひをするのは汝だ、しかも重い償ひである。汝の隣人や汝の友人や汝の子供達は、汝が其支拂をして居る事を知らぬかも知れぬ。又汝自身も稅を納めて居る事を知らぬかも知れぬ。併し早晩汝が思

ひ知る時が來るであらう。そして「もし私がそれ丈知つて居つたら……」といふ樣な云ひ譯が其時何も役に立たぬのである。

數百年以前は誰もが性に關して知つて居た、そうして性がそれ程重大な事だから、性を禮拜の的としたのである。して又性が他の諸事を壓倒して萬能なる問題となつた。其當時の人々は、我々現代人が今日なして居るのと同樣な誤りをやつた。卽性といふ事柄の取扱ひ方が、人生に於ける他の問題と釣合ひがゞれて居なかつた。昔の人は、性を過大視した。今の人は、性を過小視して居る。いづれの誤が最も險呑であるか、それは未決の問題である。文明に就てあらゆる思想は、其がすべての主要問題に對して適當な價値を加へるのでなくば、失敗する。昔人の文明思想も其點で失敗した、此事を除いて他の今昔の比較は今與味の無い事である。

よい建築家が建物を設計する際には、未來の建物をかはる〴〵別の方向から考へて見て、すべてこまごましい構造の色々を互に比べ、各々全體から見て適當な釣合ひをとる樣に、丁寧に考へて見てからでなくば事に著手しない。斯樣にしなければ、到底完全な建築は造られない。人生に於ても然り、殊に結婚生活がさうである。あらゆる結婚のあるべきやうな幸福といふ一つの建物の建築に際して、我々は人生のあらゆる主要問題を顧みなければならぬ。そして性の問題は其多くの中の一つなのである。

今日我々は民衆全體として性に關して無知である、でなくば知る所極めて乏しい。普通の開業醫は性の肉體的方面以外に關して知る所が少い、其少い智識も無いが爲に起つた色々の問題の解決に際しても、其少い智識が殆ど役に立たぬ。今日我々は九つの結婚に對して一の離婚を有して居る。之等離婚の過半は其當事者が結婚以前に性に關しいくらかの智識を具へて居たならば、起らなかつた筈の性質のものである。今若し汝が飛行機に搭乘して出發しやうとする時、どうして其が飛ぶかを知らずに操縱を試みる樣はあるまい、操縱法の智識無くして飛ぶ事は百中迄死を求める事なのだから。所がそれにしても、數千否數十萬の男女は結婚に就て何等知る所無く其中に飛込む、或は知る所があつても其が間違ひなのだから、歸する所同じ禍であるのだ。

此本の目的は、斯樣な無知を追拂ひ、そして性といふ事柄に適當な價値を與へやうと試みるのである。其內容を研究するならば、性の眞價値を思ひ知るであらう。汝が性的關係を結ぶ其時には、其敎へを記憶し其を實行せよ。更に又他の時に於ては、性といふ如き問題の存在を忘れてしまへ。要は中庸を得る事である。此金言を記憶するならば、汝は汝一生の配遇者から尊敬を受け、且又汝の友達に尊敬せられるであらう。LONG, H. W. (1922): Sane Sex Life & Sane Sex Living. Introduction. New York.

生物學講義を以てする性教育

以上、性的啓蒙主義の合理的基礎を述べ、併せて其主義の實現法として、先づ第一に純科學的性敎育の必要なる所以を說いた。

扨予は一九二〇年九月母校同志社の聘を受けて、其大學豫科二年に自然科學、

（生物學概論）を講ずる事となつた、其目的は專門學者の養成でないのだから、一々甲殼類の特徵から順に話する必要も無いので、『人生生物學』と命名して、特に人類の性現象を中心とした生物學の講義をした。つまり性智識といふカプセルで包んだ生物學の根本原則を呑み込ませたいといふ望であつた、之から既に三ヶ年を經た後三學年に亘る各級の青年總數約五百餘名と直接交渉を續け、其內の若干から强ひる事もなしに卒直な告白をも得た（後段三五〇頁『人生生物學研究資料蒐集に就て』參照）、其他の機會に於ては二百餘名の小學校男女教員と二百餘名の青年團員とも此問題にて語り又聽く事を得た。話をする事は教へられる事である。性的無知の危險と正しき方法を以てする性的啓蒙の必要は、愈々此實驗によつて確められた、其結論を大體上に述べて江湖諸賢の批判を請ふて見る。

教育といふ語の解釋

前に一九二一年夏小冊子『性教育私見』を差上げてから後一書を呈して批評を乞ふた時、種々高教を賜はつた方々に感謝する。殊に反對說を以て予の反省を求められた方々に特に負ふ所が多い。若し此論文が前のものよりも抵抗力多い事を發見せられたならば、其は皆反對說に對する自省の結果である。

其應答者の數ある中には『教育は專門外なれば、遺憾乍ら……』といふ、自重心に富み極端に言責を重んじられる方もあつた。

由來教育といふ語に、一種のイヤな聯想を伴ふやうに思はれる節がある、例へば

『小生は人間が自らなば教育すべきものと信じて居ます、傳來的鑄型的の現代式教育を好みません』上司小劍氏私信。

無論予の考も右の通り、「導出」Educere から來た Educatio を予のいふ意味の眞の教育と云ふ、だから無より有を生じ得ない。所謂教育といへば予自身も全く門外漢、併し眞の意味に於ては誰でも自己に對し子に對し教育者である譯である。

其故人間として、子を持つ親として、現に惱みつゝ或は過去に惱んだ事のある一個の人としての判斷を求めたい。

何よりも先にまづ人間

眞の教育者たる者は、先づ人間としての自已に目醒めて居なければならぬ。虚僞と妥協と不徹底の中にうごめいて居る輩が、他人を教育し且つ指導などゝ云ふのは實に僭越な申分である。

學者にしても、客觀公平冷靜なる科學者たる前に、先づ人間として種々の對象や材料に接し之に理解を有しなければならぬ。新しい袴で態と廊下を拭ひ白筋帽を殊更汚すのは、娘が白粉を塗り紅をつけると同樣に、若い者の一種のペダントリーだが、或學者の如く世事に疎い事を裝ひ、或は人事を超越した非常識を衒ふのは（實際生まれつきそんな人なら尊敬するが）、實に邪氣滿々たるペダントリーだ、理解を有する事と自ら渦中に投ずる事は勿論全然別問題である。

先に予の記した小冊子が

『全體の調子が、やゝもすれば詩人的態度に激越して、科學的冷靜を缺く樣に思ひます。浮薄の態度の慎むべきは敢々を要しませんが、激越の調子も亦避くべきで、飽く迄水を誅じ空氣を說くと同一でありたいと思ひます』内田魯庵氏私信

といふ非難を招いた。如何にも學者としては、研究に際しては材料蒐集に公平に之の取捨鑑別に冷靜愼重でなければならぬ。無論事實を述ぶるに當つても同樣だ予も講義者として略此要望を充して居るらしい反應を有して居る（後段二〇五頁以下參照）。

併し乍ら、唯今の場合は現狀に對する價値判斷と對策の主張である。主張には無論個性の影響が現れて來らざるを得ない。科學者にもダーウインの謙抑冷靜もあれば、ハクスレーやヘッケルの熱烈猛進もある。今日眼前の狀勢に向ひ、唯冷靜なる解剖のみを事として、何等の主張も無く、（或はあつても發表せずに）無爲に過すのは、餘りに臆病過ぎると思ふ。冷靜なる科學者は既に多い、趣味高雅な

る紳士は世間に多過ぎる程ある、然り而して眼前の青年男女の苦悶には何等の變化も生じない。斯樣な現狀に甘んじなければ矢張主張と實行に訴へる外は無いと予は確信し、上の如くに主張し、其所信を實驗に移し、而して得た効果の詳細を次編に述べる事とする。

第二篇　對青年の性教育實驗報告

第一章　人生生物學の存在理由
人生生物學の目的—人生生物學といふ名の必要—講義の目的と其態度。
第二章　理想的講義に近づかんとする努力
講義の客觀性—自然科學にも起る人差—補整方程式としての予の告白—我觀教育
第三章　講義の內容と其基調
講義の方針、遠心的態度—講義の要目—講義の內容と經過—聽講者に寄せた予の期待要望
第四章　講義の反應と青年心理
開講當時の感想—反應を求むる方法—更に突込んだ方法と其反對論
第五章　性學講義無用論に對して
教室で性智識口述は是非必要か—高所より達觀して必要だといふ理由—解放による自重と安心の實證—予の側で口述を必要とする積極的理由。
第六章　大規摸啓蒙の必要な理由
個人を通しての性教育—大規摸啓蒙の缺陷調整。
第七章　教材の急進的配列
第一章　人生生物學の存在理由

間接講論の性教育—動物生活の擬人的解釋—人間性と所謂獸性とを混同する危險—講述に當つて執るべき二樣の態度—急進法の理論的根據—漸進法に對する聽講者の非難—速成性教育と清き拔ける潮時—人といふ背景が無ければ危險も少い。

第八章　聽講の結果起り得べき危險

あらゆる好奇心が一掃されるのではない—聽講者の行爲に對し講師は無限聯帶責任を負ふべきものか—聽講中に起る性的興奮。

第九章　講義の嚴肅味と公平

講義のまじめさと野次—性學講義聽講後の所感—啓蒙による反動氣分たる厭女的傾向—啓蒙に基づく親女的傾向—予の突擊的論調と先輩の苦言—女性觀といふ楯の兩面。

第七章　教訓無用論

種々の生得形質と普遍的教訓—予が教訓を垂れぬ個人的理由—教師に人格者を要求する事と其可能性—科學的性教育は性教育の基礎—一般に教訓說法を省くべき積極的理由。

前篇に於て予は純科學的性教育を當代に於て必要とする所以を一般的に說いた今此篇では京都の同志社大學豫科二年で予の試みた所と其反應を述べて、青年に對する性教育實施の方法を研究する方々の參考に資したいと思ふ。

第一章　人生生物學の存在理由

人生生物學の目的

『全文化生活の各專門の域で人の要求するのは、其專門となす事の目的とする所、又其に到る所の既成業蹟に就て、高所より達觀した大觀其ものである。卽一種の地圖で他の領域の圖と相符合調和し、大なる全宇宙の圖たる一の世界觀に統一し得るものが要求されて居る。殊に自然科學、卽現代生活に非常な進步を惹起せしめた斯學に對して、此要求は至當である。

抑々人類には二つの熾烈な要求があり、自然研究の目的とする所は之等要求に資すべきものだ。其一たる實用的要求とは、人生の外的狀態に更に愉快にして更に目的の宜しきに合ふた形を賦與せんとする努力であり、近世の工學と醫學の著しい進步は此點に就て自然研究の大いに効果ある所以を實證した。第二の理論的要求は、文化の向上と共に愈々高まり行くもの、卽矛盾無き世界觀と調和せる人生觀を得んとする努力である。個人夫々の特性に從ふて、よし兩者に對して分かれる事甲乙の差はあつても、矢張其要求は熾烈である。吾人は次の事を自然科學に求むる事が出來る。卽自然科學は其究竟目的を瞬時も念頭から離してはならぬ。次に自然科學は人生の他の方面に對する斯學の立場を諒解してはならぬ。然るに現今學界の各部門に於て著しい進步を來した時に當つて、上記の危險は著しく增大したのである』VERWORN,

MAX (1915): Allgemeine Physiologie, 6. Aufl., S. 1. Jena.

新大學令による大學豫科卽高等學校の學科々目の中には自然科學が加へられて居り、今迄世間では純正並びに應用生物學とは別段直接の關係も無いと考へられて居た文科、經濟科、法科等の學に志ざす學生に迄、自然科學の講義を聞かす事になつた。近世の遺傳學、優生學等、新しい生物學の部門の發展は目ざましいもので、如何なる人文科學の專攻者又は實際家でも其を無視する事は出來ないから之等の概念を近世物理化學の進歩の大要に添へて有識者の高等常識として授けたいと云ふのが、其令の立案者なり又は文部當局の目的であつたゞらう。予は一九二〇年九月此方、同志社で既に物理化學方面の話を聞いた筈の學生に對する自然科學概論の講義を囑せられて『人生生物學』を講じて居るが、其標語となし常に志ざす所、前に引いた VERWORN の句の通りである。然るに人生生物學といふ新名は何の爲に作られたのか。

人生生物學といふ名の必要

今中學校の博物科教授の實況を見るに、まづ記載的分類學で叩き上げた教師達は草の名と蟲の名を精々澤山覺へて、意地の惡い生徒の追究に對抗しやうとして居る。中でも心掛けのよい方々は新種發見に鵜の目鷹の目、幸ひに見附つたら自分の名を其種名に留め不朽に其芳名を殘したいといふ功名心欝勃たる人もある。之等の方々がアルコール漬と骸骨と腊葉と模型とをひねくり廻して專ら死物の形態學を敎へられて居るが、專門學校受驗用なら時と次第によつては『棘皮動物の特徴』でも鵜呑みにしやうが、さもなかつたら大抵の青年は『暗記物』の博物に匙を投げるのを常とするのも無理は無い。但し中でも秀才は、丘・谷津・川村・永井教授あたりの哲學的生物學に傾倒して、學校の博物學概論もかくあれかしと期待して居るが、千九百年以後の大變化とは全然關係の無いダーウイン在世當時其儘昔ながらの進化論では、パンを求めて石を與へらるゝの感があらう。

概して中學校の理科教授が斷片的智識の注入をこれ命として、肝腎の眞實其物を直視しやうとする科學的精神を養ふに邪魔こそすれ（島田清次郎、地上第一及び第二部參照）何の役にも立つて居ないと斷言しても、其は極言であるまい。今其中學校でひたすら回避して居る生殖現象等を論ずる事其他によつて、予は彼等と別の仕事をしやうとして居る。新しき酒は用意された、其は新しき皮囊に盛らなければならぬ。青年は此名によつて昔の『博物學』といふ退屈な聯想から解放せられ、も少し愉快な所に氣樂に逍遙し得るであらう。

講義の目的と其態度

講義する目的は、生命の科學卽死物學でない眞の生物學を講じて、宇宙と地球上と生物界とに於ける我等人類の立脚地を明かにして、人生のヨリ徹底した理解を得るに資したいといふのである。勿論專門以外の人に對する生物學存在理由の宣傳であるから、從つて唯漫然と斷片的智識を詰め込まうとするのではない。

同志社大學は基督教主義の上に建つて居るが、自分は科學者として別に既成宗教の教理信條に拘束される者でない、又强ひて其等に科學を調和させやうともしない。唯一眞實に徹したいと不絕努める科學的精神を以て終始したいと心掛けて居るから、無論或特殊な世界觀を傍若無人に押賣りする事は決してするまいと覺悟して居る。併し乍ら一面に於て

『およそ講義者が其對象に就て彼獨特の見解を特に力說するのは、彼の權利たるのみならず、又彼の義務である。斯學が其講師の腦中に如何なる全景を形成するか、之をば聽講者は聞かうとして居る、又當然聞くべきものだ。其際他の學者の意見が彼の其と同不同であるかは本の枝葉問題たるに過ぎない』JULI-US VON SACHS 植物生理學講義序文

だから始終公平でありたいと心掛けて居ても、題材の取捨選擇や力說の仕方に予獨自の世界觀の影響を免れる事は出來ない。

第二章　理想的講義に近づかんとする努力

講義の客觀性

今廣い生物界の種々な現象を滿遍無く集めて來た時、科學といふものゝ性質上銘々の眞僞の鑑別や判斷に幾通りもあるべき筈が無い。併し多くの題材の取捨選擇に際して相互の輕重を定むる價値判斷は人によつて區々であり、個人の先天後天の兩特性に應じて其判斷には夫々不可犯の特殊性がある。從ふて其から導き出した多種多樣の自然科學的世界觀には皆各々存在理由がある、と斯樣に予は信じて居る者だから、予獨特の世界觀を無差別に他に强ひ而して他種の世界觀の特殊性を冒さうとする非禮愚擧を出來る丈避けねばならぬ、此點に於て予は敎師として不徹底の誹りを受けても悔ひなかつた。

自然科學にも起る人差

所で純粹の物理化學的研究の純客觀的觀察及び測定にも、或程度迄は『人差』Personal errorが入り込む事を防ぐ事は出來ない。例へば星が子午線面を通過する刹那を測定する際、子午儀内のレンズの前に蜘蛛の絲數本で劃された所を星が通過する瞬間に、觀測者がボタンを押せば、一方の測時裝置に其時の記錄が殘る。所が此時星を見てボタンを押す迄の時間が觀察者によつて不同がある。卽各觀察者に固有な生理的反應速度の相違があり。此所に於てか觀察の結果を補整する爲に個人的係數が必要になつて來る。世間でうそつきの事を「萬八」とか「千三つ」などゝ云ふのも一種の人差であり、つまり其人の陳述の眞實性確率に於ける補整係數に外ならぬ。正確嚴密の測定に基礎を置く物理化學でさへ尙斯樣に人差を免れ得ないのだから、まして生物學に於ては此ものが混り込む程度は著しい。

所が世には科學の鬼面を以て門外漢を脅かす似而非公平な學者があり、絕對的客觀性を標榜して、しかも科學と沒交涉な獨斷說を他に强ひる事もある。之でも

始めから公平と客觀性の標榜が無かつたら別段さう憤慨する必要も無いが、大抵看板に僞りがあるから時として痛慨無量に堪へぬ事もある。併し多くの獨逸の學者の樣に、始めから威勢よく肉迫されると、眉に唾をつけ乍ら、面白く其說を一々吟味して行ける。卽突擊を受けても無邪氣な看板に僞りが無いから、別に惡感情も生じない譯である。

補整方程式として予の告白

又時としては前のとは反對に『最負の引倒し』といふ事が學生と敎師との間によく見られる現象で、素直な青年は敎師崇拜の餘り、其思想の自然的進化の過程と其個人の特殊な背景を忘れ、ひたすら渴仰して其人を模倣し其世界觀に盲從し之を丸呑して、意外な早合點や見當違ひをする事が屢々あり、講師自身を苦笑せしめる事も稀でない。予は此弊を避ける爲補講用小冊子「人生生物學小引」の卷末に次の如き一文を添へて、予の心的智的發生史を記して置いた。

予の思想的背景と環境

現狀。本業、京大大學院學生としてイモリの精子細胞の發生を研究す、內職、同大豫科講師。二十六歲にして妻を迎へ、八年の平和なる家庭生活を續け、目下三人の男子の父たり。父母は共に健在、非敎會式基督敎徒にして、しかも酒も飲まし絃歌響く宇治川のほとりの「花やしき」旅館を經營す。其一人息子は、先人の考に頓着せざる太い根性を父より受け、智的雜食性と「虐げらるゝ者の涙」を拭ふ爲に戰はんとする熱を母より受けたり。

經歷。京都の素町人にして、しかも當時稀有迫害の的なりし基督敎徒の兩親の間に生る、卽生れ乍ら既に口さがなき京わらんべ、少時內村鑑三氏の「東京獨立雜誌」を耽讀す、强ひらるゝ事も無く進んで基督敎會に入る。十九歲、Pilgrim Fathers の如き熱情と期待を抱きカナダに押渡る。やがて「西洋心醉熱」も漸く醒めたり、一敎會の革新を企てて成らず、轉じて白人のユニテリアン敎會に入る。此時の交友と HUXLEY の感化によりて從來の園藝家志望を棄て、顯微鏡の中より世を動かすべき何物かを求めんと志さす、卽地上の美化よりもまづ虛僞の打破こそ急務なれと思ひし也（折しも母國には新に濟生會創設せられたり）、筋肉頭腦と兩樣に種々の勞働に從ひつゝ英國旗の下に小學中學の生活の五年を過し終に歸朝。親孝行の爲に進んで輕をかぢり始め、二十四歲にして同志社普通學校四年級に入り、後三高を經て東大・理・動物學科に入り、渡瀨敎授の指導の下にイモリ精子の研究を始む、昨年九月卒業。貧乏なる日本國の租稅を以て支持さるゝ學校の內最も贅澤なる部門、卽白馬金鞍の貴公子の悠遊する間に學びたるも、蛙の子は

蛙、依然たる京童は終に學習院振りに馴應し得す。

『數百家族の勞働者の過剩勞働が、一人の梵語學者を養ふ爲に吸收せらる』NICOLAI

予の「不生產的」研究は、唯直接兩親に寄生し彼等の過剩勞働を略取するに過ぎず、但し此外觀的略取も兩親が若かりし日に自ら行ひ得ざりし事を予になさしめんとし、深き理解と愛と嘱望とを以て予の寄生生活を行はしむるにあるが故、一種生物學上の共生現象に譬ふべきもの歟。遮莫、世に生命の驚異に引かれ之を學ばんと志ざす秀才多けれど、大抵は物質的要件に阻まれ止むなく他に衣食を得るの道に就くは世の習ひ、其が中に理解ある兩親を持ち、Spiritual & intellectual prostitutionに身を賣る事の要も無き順境、世の常の親に體現せらゝ因襲と戰ふに費すべきエネルギーは、予に於て過剩なり。之を以て何をなすべきか……。

内村師よりCARLYLEく、次のEMERSONは予より人格ある神なる偶像を除き、第二の偶像たる「久遠の女性」はSCHOPENHAUERによりて消去せられ、前には異性を天使とも崇めたりし感傷家はやがてSatanistゝ變じ、"Sturm und Drang"の中「盲目的の生きんとする意志」に引かれ、不知々々の中に其MEPHISTOPHELESは三兒の父と化し、子の可愛さに眼覺めて優生學を考ふるに至る、思想の振子運動も亦妙なる哉。子の生長は學界の進運よりも世界の赤化よりも此Egoistを脅かし、Solidaritätsgefühl自ら湧き來る。昔僞善者に反抗するの餘り僞惡者たりし我、今KANTに學ぶも、猶極めて淺薄なる功利主義的倫理を抱くに留まるのみ。

極端に潔癖なる理想家として童貞を守りしは滿二十四歳迄の事、一朝憤然として之を微塵に碎き、未知の世界に突進し其所に住むは我と同じき人間なる事を發見し、過去潔癖の我を笑ひし事もありき、而し紅燈綠酒間の情趣も亦解せざるに非ず。ルビコンを渡る前後共に眞劍なりし予は、今若き友を前にして其中に昔の我を發見す。此境にも振子運動あり、要を前に今の我は性慾飽和生活の平靜に活き、前日の焦燥を脱却して學事に沒頭せんとするも、實驗室より時々街頭に出でゝ彷徨し、危樓にある友を見ては、老婆心の餘、説を爲す、しかも決して老爺たるを得ず、内に炎々たる性的危險性を藏するの自覺あり、こは又猶迷へる豚の生活なるか。……斯く自嘲して已まん哉。

山本實治（一九二一、四月）人生々物學小引、三三及三四頁、京都。

斯樣なものを記したのは、講義の中に若し無遠慮に予の世界觀が頭をもたげて來ても學生諸子の方で充分割引が出來るやう、卽彼等が思想の獨立を失はぬやうにとの老婆心からであつた。斯く予の所説に就ての補整方程式として記した告白も筆者の眞意を解する人が少く、評者の大抵は褒貶共に過端に過ぎて、筆者の眞面目に觸れたのは少かつた。

我觀教育(1)

(1)予が早くから抱いて居た「かくあるべき學校」は、現代日本に存するそれと大に趣きを異にする。予の在學した學校は日章旗の下のとユニオン・ジャックの下のと二通りがあり、又日章旗の下でも朝禮にバイブルと讃美歌とを以てする私學と又鐵中錚々たる官學がある。此間に見聞した事と世事に就て痛感するの餘り、折を得て『智識商品論』といふものを著したいと思ふて居る。よし此考へが唯物的だとしても、其の出發點とした教育は今日のそれよりも結果は物質偏重の弊に陷る事が少からう。神秘だとか同胞愛だとか人道主義だとか云ふても、實際の事に處して見れば、疳癪を起して鼻張らしの横面をなぐつたり、惡太郎を突飛したりするのは、近頃の文藝で頭のふやけたセンチメンタリストの『心のサボタージュ』ではないか。又思想善導の或は教育の權威のと云ふて見た所が、學生大會が始まるとすぐに青くなつて官舍にすつこんで、腹心の邸黨の御注進に青くなつたりするなどは、口で云ふ程權威ある教育でもないのだらう。

猶予の教育上懷抱する主義が、世の所謂教育者諸君のそれと異る所から、馴れぬ内は學生諸君が可成面食らふらしいから、序でに述べて置いた所見は

『予の唯物的教育觀に從へば、智識は一種の商品にして、教師とは智識生産者たる獨創的研究者より之を集め、消費者たる學生に交付する一の仲介者に過ぎず。學生も亦最少の勞力を以て最大の効果を擧げんとする經濟主義に從ふて行動するは勿論なり。此智識ブローカーは漸次特化すると共に多數相集まりて一團を爲し、例へば大學の如き一大體制を造るは恰も百貨商店に於けるが如し。今日に於て寺小屋式師弟關係を大學の中に求めんとするは、小商店に於ける主客間の情誼を百貨商店内に要求するが如く、一の時代錯誤に外ならず。予は此見地よりして小心翼々一仲介者としての本分を自覺し、即同志社大學と命名せらるゝ一大百貨商店の一店員として忠實に其職を奉じ、顧客の要求せらるゝ商品の選良を精々潤澤に準備し以て其需要に迅速に應ずるを其職分となす、而して要は相互の心的エネルギーの節約と能率發揮にあり。予自身學生として、暴利に飽く事を知らず貪慾極まり無き惡仲介者の爲に煩はされたりし事屢々なりしを以て、專心此點に注意し暴利を貪らず謙遜に其義務を全ふせんと欲する者也。「精神的教育」といひ、將又「教育の權威」といふが如きは。前記の小乘的にしてしかも第一義的なる要件を備へ得て後自ら發生し來るもの、予の如く如上の要件すら充し得ざる者には到底考ふる事すら不可能、之か予に要求せらるゝも其器に非る也』山本宣治(一九二一)人生々物學小引、第九頁、京都。

此見解は學生側の歡迎を受けたけれ共、くろうと教育者の一方ならぬ逆鱗を招いた。教權の壓迫無くんば到底存立し得ない今日の所謂教育に對しては如何にも異端說に相違無いが、學生多數が實際抱いて居る思想から云へば、別段事新らしい思ひ附でない。昔教師の大量生産や粗製濫造の無かつた頃、苟くも人の師たる

者は矢張名實共に先生であり、先に生れた丈あつて世間の經驗に學殖に於ても豐かであり、且又實際人格高潔な人も今に比べて多かつたかも知れぬ。夫で階級全體としても相當の敬意を拂ふ、卽三尺離れても師の影は何とやらであつた。併し末世澆季の今日となつては、腕白共が影踏む位は何とも思はない。踏繪所か實物でも踏んづけられゝば踏んで見たい、其が更に嵩じては木刀を提げて深夜舍監室を襲ふ程の勇士もある位で、勞資對抗も云ふも愚かな程の師弟間の反目、事實が此通りで學生が敎師に對して衷心から少しも敬意をもつて居ないのに、古人曰くを幾邊繰返し師弟間の情誼を力說し、師師たらずと雖も弟弟たらずんば……と力んで見た所が役に立ゝぬ。要は現狀を知るのにある、何が爲に此亂脈が起るか、事實を直視して敎訓を引出すより外に仕方は無い。予は前記の唯物的敎育觀を眞劍に考へ出したのだが、聞く人の或者には反語と解釋されたのを甚だ遺憾とする。

第三章　講義の內容と其基調

講義の方針、遠心的態度

大抵生物學概論といへば、アメバから人類に說き及ぼす求心的叙述ときまつて居るが、予は如上の特別立場から其とは正反對に、主として人類に於ける生物學的現象を述べ、其了解に資する範圍內で一般生物界の諸現象を引照する遠心的方法を執る事にした。

所で此遠心的叙述の出發點として、青年好奇心の焦點にある性的現象を撰び、しかも吾人人類の性的生活の內容の生物學的考察から始めた。此所に於てか、前に述べた純科學的性敎育との交涉が起つて來る。此時

『君にして何故に生物學を說かず、性敎育を高唱するか、其理由を怪しむ……。生物學を學問としてシツカリ敎ふる事が必要とすれ共、性敎育などの必要は、男女を問はず、全く無用なりと信ず』理學士中澤毅一氏私信。

と生物學者方面から抗議が出る、併し予は決して生物學を等閑に附して居るのではない。唯予の見る所、彼の從來の求心的叙述否漫然たる普遍的叙述は、專門學者養成の如き、時間と設備に充分の餘裕ある時に始めて實行が可能である。所が唯今の場合では、專門家以外の人々が此青春の危機に際し焦眉の急に迫られて早急に既得智識の精粹を攝取し、それを以て自身の危險を切抜けやうともがいて居る最中の事だ、一生を捧げて其に沒頭する人の樣に、多數の文献を渉獵したり、原著を數多比較して論らふて見たり、長時間の實習や講義で徹底的に習ふたり、そんな悠長な勉强はとてもやつて居られぬ人々の要求を正しく充して行く事を問題として居る。斯樣な特殊の立場を理解して戴きたいと思ふ。

講義の要目

一週二時間、三學期に亙り約六十時間を之に費す事になつて居る。其主題と順序は大體次の通り。

序論—人生生物學の使命。性的現象に參與する本能と理性との活動範圍の限界。

人類生殖の機構及び過程—解剖學概說、遺精、自慰及び性交、性病々理、內分泌現象、第二次性的形質

性的分化と生殖樣式に從ふた一般生物の分類、月經の生理及び心理、婦人特有の性的危機、新マルサス主義。

細胞學概說—生命單位としての細胞原形質、個體とは何か、生長の法則、體細胞と性細胞との分裂樣式と其遺傳學的意義、核染色體の使命、性決定の學說。

受精と發生—雌雄兩要素の同格性「女の腹は借物でない」。「生きとし生ける物皆卵より」、「あらゆる細胞は細胞より」、生物偶發說、新生か豫造か(Epigeneesis or Preformation?)雙子、再生、胎敎に就て獲得性遺傳の問題、發生再演律と人類の系統發生史、姙娠中の變化。

人の一生—分娩、生長、奉機發動、老齡、死の生物學的意義。

遺傳學概說—遺傳諸樣式の分類、彷徨變異、純系說、獲得性遺傳如何、メンデル現象。

將來の優生學—之の基礎とする遺傳學上の事實。

種の起原—學說批判、ダーウイン說、ラマーク說、突變說、雜交說、系統樹と分類學の眞意義。

生命觀—機械說對生氣說、目的適合性(Zweckmässigkeit)、目的論的及び機械的宇宙觀。

此講義の進行順序は後に詳述する通り(一八一頁以下參照)、青年の好奇心の最も集中する我々人類の性的現象を先づ第一に片附け、それから兒が出來るものと

して其順序に受精、姙娠、分娩、成長、春機發動、老齢、死と、段々話を進め道すがら生じ來る諸種の生物學的疑問を整理した上、人の一生の話がすめば來世の人間の事と、今迄得た知識を基礎として遺傳學を述べれば、配遇者選擇のおろそかにならぬ事などは一々お說法の必要は無い。で其所迄は是非共人生と直接交渉のある問題であつたが、之からそろ〳〵奥の手を出して生物學上の重要問題に引張り込まうといふ仕組みである。(1)

(1)　文部省(大正十一年)高等學校高等科自然科學教授要目に託された題目は、此豫定教案の内にほゞ網羅されて居る。但し其順序配列は教師各自の適宜に委れられてあるが、予が斯樣な案を選んだ理由は次の通り。

『又或人の要求せらるゝ如き、科學講演の秩序整頓とは講義と教科書との兩特性混同に非ずや。予は必ずしも、專門の教科書に見るが如き、第一章、細胞とは……と順次叙述を目的とせず。唯專門家以外の人を前にせる事を不斷念頭に置き、聽衆の興味を自然に導かんとして其途次印象の深からん事を求めて重要命題の反復をも厭はず。されば特に解剖生理衛生生態心理と殊更に分割せず、此故にたとひ非科學的雜駁の感を呈する共敢て意に介せず、而して又講義初期に於て事實の羅列特に多きは生物學の本性上如何共致し難し、但し前後照應は充分念頭にあれば、當初の術語及び定義等の無視は必然後に於て面倒の生ずるものと覺悟ありたし。予の欲する所は、まづ事實を述べ次に自ら結論を抽出せしめんとする純歸納論法にして、青年學徒諸君各自の思索推理を尊重する方針なり。然り而して先づ結論を與へ極少數の例を與へて見掛け許りの科學的明快を裝ふが如き小供欺しは、相當頭腦發達せし諸君に對して甚だ失禮と心得たる次第なれば、若し中學時代に於て純然たる注入教育を受け之に馴れて、予の講義もしかあるべしと期待せらるゝ方あらば、一度大學豫科の研學の性質に就て其特性を自省されん事を希望す。』山本宣治(一九二一)人生生物學小引、一〇頁。

講義の内容と經過

此の講義の前半、卽主として性智識に關した部分は一九二〇、九月—一九二一年三月、同年四月—六月、一九二二年四月—六月、一九二三年四月—六月の四回講義し、後半は一九二一年九月—一九二二年の三月の一期と、其次の一九二二—一九二三年の同期間講義した。

斯く講義の豫定順序はあるが、全部續講の經驗はまだ二回丈である、初年にはちと慾張つて前半の性智識にこだわり過ぎたのと、又講義大要の印刷物が無かつ

たのと二理由で、後半を悉く述べる事が出來なかつた。第二年に入つては、聽講者の勞力腦力時間の經濟上、又當方でも精々白墨の破片も吸入したくないから、双方の都合上講義梗概を續々印刷に附して居る、其故ノートをとる樣な愚な精力浪費も省け、講義の進行速度を增した。

左樣な面倒な手數を掛けず共何等かの教科書を用ひればいゝ、との御說もあらうが當方の注文が前述の通り慾張つて居るから、講義する方でも唯一二冊の虎の卷を前夜熟讀して暗記すれば事が足りるといふ譯に行かぬ、まして聽講者の方は大變だ、其上實物の學問だから論より證據、物を見せなければ會得出來ぬ。所で學生の方からも實物標本供覽の要求がある、之は頗る當然の要求だが其を充す爲には實物幻燈と顯微鏡數臺と助手が必要となる。所で之は同志社大學許りの話ではないが(1)何所でも自然科學の講義と云へば講堂に黑板と腰掛と許り備へてやらうと云ふ日本の現狀、さう〳〵贅澤な注文許りは出來ぬから、可能な所で色々の虎の卷から集めた圖版五十餘圖をコロタイプ版に附して、學生に實費配布とまづ姑息な所で双方共我慢して居る(2)。併し同志社大學とても斯樣な現狀に甘んじて居るのでないから、豫め注文して見れば、上記の講義をする爲に前述の顯微鏡・實物幻燈を備へ其上に活動寫眞映寫裝置を設けた講義室があつたら、六十時間で充分內容豐富な生物學概括講義をするのは困難でなからう。

(1)　錚々たる官學、或高等學校で予の知人某理學士は、臍の緒切つて此方望遠鏡を通して天體を窺ひ見た經驗が無いにも係らず、こわ〳〵KANT-LAPLACEの星雲說から宇宙進化論に說及ぼして居た。又或私學では、自然科學の時間に THOMSON. A: Introduction to Scienceの譯讀をして居る。

(2)　此著起草の當時(一九二二年秋)、同志社大學豫科二年各級の學生に、以印刷代謄寫として實費頒布した補講用印刷物は、一・人生生物學小引(四六判五〇頁)二・人生生物學講義大要(四六判、一一二頁、餘は猶印刷中)三・參考圖コロタイプ版四十餘圖である。備忘用を旨として極簡潔に認められたものだから、自習獨學用に全く不適當であるが、教材參考の爲に所望の方には印刷費及送料の實費(貳圓)でお分けする講義大要の印刷物は應急の假版であり、猶未完のものである。諸方から『山本・人生々物學』の起稿を奬められるが、此の如き廣い部門に亙つて書き甲斐もあり

讀みごたへのある一本を作り上げる事は、苟くも學術的良心のある者なら到底不可能の事業だ、但し極あつさりしたものとの注文でも、如何に猪勇に富む自分でも一寸當分御請合ひする事は出來ない。扨

聽講者に寄せた予の期待要望

第一に性智識といふオブラートに包んだ生物學の基礎命題を與へ、順次其意義と其等が人生觀に及ぼす影響を示し、以て生物學が人生に對して重大な意義を有して居る事の確信を作らしめる事。

第二には、根據も無い「神の子」とかの感傷的幻想の幻滅はよし來ても構はないまづ我々人間の脚は尙泥土に塗れて居ても、矢張堅い大地に立つて居る此現狀に覺めしめ、今後は堅實な向上進歩の一路に踏出す準備をさせる事。

第三には、次の如き色々の事を自得させたい。生物界が無邊際で其諸現象が複雜な事。しかも其を一貫する普遍的法則がある事。之を研究する生物學が精確科學として著々其根底を堅めて居る事。又之と同時に、生物學と物理化學の取材には夫々趣の異るものがあつて、一團の極端が他團の其に聯り全體が連續的推移を示し、二一天作の五とキッパリ割り切れぬ所に妙味ある事。門外漢には既知と思はれた極普通の生活現象(例、腹腔内の卵の行動、月經を生ずる諸要件等)で其眞相が未判明せぬものが可成多い事。從前朦朧曖昧であつた既知未知兩界の境を明確に限定する事(其時既知の領域が擴がると共に、未知の世界が其彼方に無限に聯る事がわかる)。低級婦人雜誌の出鱈目生理學や、新聞の賣藥廣告の片假名と肩書や、其他色々の似而非科學的事物を充分割引して觀察し得る丈の科學的精神と態度とを養成する事。

此樣に要求する所は可成多いものであつた。

第四章　講義の反應と青年心理

開講當時の感想

『(一)人間の偉大性を思ひ起させずに、唯々彼の動物的方面のみを力説するは危險である。(二)更に其よりも危險大なるは、偉大性高貴性のみ說いて賤劣性を隱蔽する事。(三)併し危險最大なのは、人の高貴性賤劣性もろ共に默殺に附する事にある。之に反し(四)楯の兩面を示し理解せしむるば頗るよい。』
BLAISE PASCAL, Pensées, IV, 7.

大正九年九月母校に招かれて上述の講義を始める時、予の思ふやう。予が前に基督教を信じて居た頃の經驗に徵しても、同志社の如く基督教主義に基づく精神教育には、上述第二の如き天使性高調の危險が無いでも無い、だから自ら進んで予が第一の所謂獸性力說の冒險を試みるのも徒らであるまいと思ふた。

由來我同志社は自由教育、自治教會の標語の上に建てられ、近くは海老名彈正師を迎へて總長と仰ぎ、毎週師の精神講話を學生に聽問せしむるの制がある。だから師の高遠なる理想、滔々たる雄辨に耳を傾ける傍、予の唯物的人性論を聞かば、論調の尊卑に雲泥の差はあるけれ共、結局楯の兩面の曝露兩極の對照、之も亦聽者の公平な結論を得るのに參考にならうと考へた次第である。

所でかく申す當人の識見は至つて平凡（つまり平凡だから割に廣く通用し共鳴を惹起す事が多いのか）、人格は決して高潔でない、又意志も强固でないといふ明らかな自覺を所有して居るのがまだしもの取り柄だらう。で唯自身が生物學の研究者として學び得た所を、率直に若き友の前に公けにした。遠からぬ前に自ら血を溅ぎ涙を流して戰ふた其跡を回顧し、又其時の傷なほ愈えやらず心中に充分の危險を藏して居る我、子を持つ親となつて始めて本能的に悟る社會連帶の感、之に關係して起る淺薄な功利主義的倫理觀、其を抱懷して居る一凡人としての我が、予の話の中に現れて居た事を否む事は出來ない。

反應を求むる方法

バンを求むるに石を與ふる多數の中學教師の覆轍に鑑み、予は短刀直入吾人人類の生殖現象を對象とし、直ちに未知の扉を開き好奇心の帷を撤廢しやうと試みた。

第一の反應は最初の約廿回の講義の後一九二一年三月唯漫然と學生の所感を徵したのに、予の期待要望は略充され、予の所信は愈々强められた。

其次に更に他の一團約百五十名を迎へ、越へて七月試驗の終了後餘力ある篤志家に限つて、次の數問を記した用紙を提出して答を求めた。

○過去約二十時間の聽講で受けた害。其が應答者一身の實生活の既往と將來に及ぼす直接間接の影響。

○過去約二十時間の聽講で受けた益。（以下同右）

○聽講中に性的興奮を生じた事があるか。あつたらば如何なる時に於てか。

○更に聞きたい事。

○山本が之迄の講義と略同一内容の著書を公刊したとすれば、其方を各自の讀むに任せ、そして斯樣な性教育講義を多數者の前に口演する事を見合はせるべきものであらうか。（一般に良書があれば、性學講義は青年學生に有害無益であるか）。

此時四級百三十四名の受驗者の中で、其答を進んで記す丈の好意を持つた人が百三十一名。記述が自由なやうに一々署名に及ばず、其を密封して差出す事にしたが、予を信頼し進んで記名された人も多い。署名其ものが卒直な回答の邪魔になるかと憂ひたのであつたが、集まつた答を見れば、記名者にも自由な告白があり、無記名のにも隨分外交的朦朧を極めたものがあつた。前述の通り予は治者被治者の間の如く或一種の教權を以て壓迫する事を日頃から嫌ふ者であり、聽講者諸子と友人として互に理解があると信じるのだから、之より後に錄さうと思ふ種々の答の中に、世の常の僞善壓迫教育の產物たる阿諛迎合虛僞等の混入はまづ無いと思はれる。猶又此文は科學的心的實驗の報告なのだから、何も都合惡い答を省略し體裁を繕らふ必要も無い。併し概して予の主張を肯定する反應が多い事は暫く續講の末であり、群衆示唆の影響を全然否定する事は出來ない。之丈は止むを得ないとお斷りをして置く。

更に突込んだ方法と其反對論

それから第三に其同じ級に三學期間續講の末、一九二二年春三月試驗の終つた後、別記の通りの（三六一頁參照）記入用紙を配布し、之に「京大動物學教室內著者宛名」を印刷した封筒には郵劵を貼付して添へておいた。此時のは應答者の自己分析の焦點がぼやけぬ樣に一々起り得べき場合を記し、順次に然り否を記入する樣に工夫してある。所が問題は最初の遺精、自慰性交等性的生活の極祕事項に就て、無關係者の見て可成辛辣と感じられる程熱心に其から其へと追究してあるそれで配布以前に其を窺き見た一ピューリタンの職員は、本校に學ぶ青年は皆良家の子弟であり、此純潔な青年に諸種の進んだ性的經驗の存在を豫想した斯樣な答を發する事其自身が既に重大な危險なのだ、殊に全級に配布して答を强ひるのは他日父兄の抗議を免れぬから、斯樣なものをくばるのはやめろと第三者を介して御注意を受けた。予の答はかうであつた、成程貴下がクラスに來られた時は一同が謹直に見えやう、併し予の直接耳にし又目にし又は相談を受けた事柄から見ても、彼等の多くの性的生活は貴下が教壇から見下された時の通りで無い事を思はせる、併し之は水掛論で端てしが無いから、自分の考へでは此樣な問を諸方面に及ぼし成べくは統計的に性的生活の實を調査し、對象の眞相を究めてから端的に對策を講じなければならぬと確信して居る、殊に應答を强制する如きは其結果の中に虛僞を混入する恐れがあるから、予自身も大に之を防がん爲に諸種の懸念をして居る、例へば其記入の如き學生銘々が校を出て後進んで予の研究に寄與せんとする決心の人に限り、之を認めて無記名で郵送せしめ、其問の追究に辟易する人は記入せず其まゝ返送されたき旨既に豫告を與へてあり、其還送率を以て又理解の徹底さの程度を數的に卜したいと思ふて居る、父兄の反對を慮るのも一理があるが、開拓に際し新計畫を何等の反對無しに實現させる事は出來ぬから是非も無い、但し之は予と學生各自との祕密な私的交渉であり、今述ぶる通り强迫力

を具へた要求でないが、今若し當面の學生の中から貴下の提出された樣な抗議が出たとすれば、予は之を重大な性質のものと見做して尙一應の自省を試みて見やう、併しそれでない限り遺憾乍ら此間の消息に通じない無用の干涉と見て拒否する外は無いと述べて斷つた。

尙此時間答を介した第三者たる恩師某文學士に對し、此抗議が若し予の企が同志社の校風に悖るといふ趣意で、學校當局も其抗議を裏書すると云ふ次第ならば予が學者として研究に對する所信と教育機關として存する團體の存立精神と相兩立しない事になる、さうならば當方でも母校の迷惑も顧みずに猛進するのは溫厚なる當局者に對して殘念であり又不穩當だし、學校の方でやめなければ引込めといふのなら、勝手に引込んで他の廣い世界で所信を實驗に附して眞僞を訊す機會も與へられて居るのだからと附言した。

併し斯樣な一時の論は事の行き違ひであり、自由教育の本山たる同志社は予の學問的所信を容れぬ程狹隘でなかつた、一ビューリタンの同僚も予の釋明を諒とせぬ程頑迷ではなかつた事を自他共に悅びとする次第である。近頃に及んでは、性的啓蒙運動が學生間に徹底して、近代の諸問題に就て學生の方が其理解に就て壯年老年の教職員よりも却つて數日の長があると考へた人もあつたらしくて、最近教職員に對し數回連續の性學特別講演を求められる事となつたのは、短い間の事乍ら悅ばしい大變化である。

扨以上のいきさつは其まゝにして、一九二二年三月豫定の通り其クラス四級に計百三十餘通を配つたが、其還送率は約百分五十五であつた[93]此方の結果は統計的概括を試みるのに未だ不充分であるが、兩三年の後に少くも五百例を超過した後に發表し得る事であらう[94]、併し少いとはいへ正確嚴密な自己分析の事實が集り始めたのだから、其中で全景を多少推測せしめる樣な事は前に（五八及び六一頁參照）掲げておいた。

(1)　配布した記入用紙が有効に利用された時の最高還送率は百分六十であり、著者の鄕里たる京都府宇治町で開いて居る同攻會で行ふた二時間講演の反應であつた。會衆が著者の性向を充分理解して居る事、會衆の教育程度が高い事(專門學校及び大學並びに其以上)が還送率を大ならしめた因子であらう。一般に云へば、講演の連續が長い程、又聽衆の教養が高い程、其に正比例して還送率は大となる。他に求めに應じて配布した場合や地方青年團の例などを參照すると、此同志社での百分五十五は可成高率である。

(2)　此人生生物學研究資料の記入用紙型Bに記入されて還送されたものが、唯今の所(一九二三年春)約二百五十通予の手元に集まつて居り、一部の結果豫報を京大夏季講習會で發表する予定。

第五章　性學講義無用論に對して

教室で性智識口述は是非必要か

我々が種々の事を行ふに當つて、始め熟考の上充分理由を探しておいた揚句、故に……と實行に出るといふ樣な場合は案外稀である。卽何かなしに癪にさわるからいきなりぶんなぐるとかいふ風に、感情が吾人行爲の動機となる事が多い現に予の性教育の試みにしても始めから此所に述べる樣な七六ケしい理由は更に無く、唯必要の樣な氣がするからやつて見やう、やつて見て豫想外重大な困難なる又興味有る事業である事がわかり、其存在理由の確信を得たといふ事實を告白しておきたい。頗る無責任の樣だが、自然的發達の無理からぬ所、最初に實行があり其中から哲學が生じるとSOREL一流のこだわりの無い打明け話である。最初は予自身も

『性智識は必要でも、特に教室で講ずる程でもありますまい』理學士岡田要氏私信。

『或は對個人の方宜しからむ』理學士阿部余四男氏私信。

と考へて居た程である。

尙其以上性教育講義は無用といふ人でも、語を改めて書物によればよいと云ふ論者の方は、更に云ひ方を替へると、性教育のみと云はず、一般に學校教育の必要有無如何といふ點に歸する樣だ。例へば

『小生は性智識の必要を十分認めて居ますが、青年に對する性教育の必要不必要に就ては實に疑ふて居ます。一體性教育の必要を高唱する目的が何であるかゞ必要論者の說を聞いても小生には呑込めないので

す。或は自慰の害を知らせるとか、或は性的疾病の恐るべきを會得せしめ羅生を守らしめる爲とか、色々申しますが、其位の事を學校なり或は其他なりで「教育」といふ形式の下に教へなければならないでせうか、小生はFOREL & BLOCH & KRAFT-EBING や、此種の書籍も十數册位は一通り覗きましたが、矢張「教育」といふ形式で教へなければならないといふ必要を少しも發見致しません』内田魯庵氏私信。

併し乍ら、予の尊敬する Self-made man 魯庵大人よ、貴下は生れ乍ら何の苦も無く智識の Parnassus に登つて其所に悠遊されて居る。そして近世的學校（しかも此日本の國の）の資本主義的大規模作業の内幕と申す下情に通じて居られないのは、予として大に遺憾でもあり又羨むべき次第である。此所に予の聽講者は予に代つて答へるであらう、曰く

『教室講義が良書ある時無用といふならば、今日我等學校に遊びて何ぞ其冗費をなしつゝあるか』

『書物は默つて居るから、良書があつても完全だと云ひ得ない』

『良書を百聞とし講義を一見とせば、百聞は一見に如かず。讀書に於ては不明な其まゝに葬り去る事多し』

之等の答は一般學校教育に汎く適用される事だが、性教育には更に他の因子が入つて來る、卽

『我等の現狀にありては、書籍に就て各自學ばんより、教室内の講義可ならむ。孤獨机に向ふ時、未性的安定を得ざる青年なば、興奮によりて自慰に至らしむ機會を多からしむるに非ずや』

『科學的性教育講演は、唯獨り性的著書（たとひ其が良書なり共）を耽讀するより興奮の危險少し』

『同一内容でも本では惡影響も起り得る、矢張一人をリーダーとして性問題を考へた方がよい』。

高所より達觀して必要だといふ理由

少く共予の說いた性學講演の聽講者で、之が無益だと答へた人は皆無であつた性智識なる商品は斯く正當の理由を以て需要者側から切に求められて居る。今此小乘的學校觀を超越して更に高踏的態度をとつて見やう。

『學校も亦必要不可缺の任務あり、卽階梯を敎ふる事之也。されど學校の大いに我等を利するは、其目的が人を型に入れんとするにはあらで、創造せんとする間にのみ、廣く種々雜多なる天才の光線を其講堂に歡迎し、其集中せる熱火を以て其青年の心情を燃え立たしむる間にのみあり。思想と智識とは、設備並びに體裁は、之に何等の益無き性質のもの也。教授の制服や、黃金に餘れる町が寄附せし基本金等は、天才者の一短句一シラブルにだも匹敵せざる也』R. WALDO EMERSON: American Scholar.

斯かる意味で見れば、性學講義は學生自身が他人の間に於ける自己の位置に就て明確なる自覺を得せしめる一の機緣となるものである。更に具體的に云へば、授けられた學問上の術語を用ふれば、卑猥な聯想を避ける事が出來て、互に自由に其經驗を語り合ひ、眞の人間的なるものを相互の中に見出し得る所に其利益がある。卽瘠馬から重荷は下される、又弱者なるかの如く固定觀念に惱まされて居た强者は、此所に解放されて更に新たなる向上の一路に踏出す事が出來る、卽吾人の人間的本性の發見と解放にある。

所が所謂硬敎育の主唱者や道學者は云ふであらう、曰く奴隷が解放されると放埒淫靡に流れて墮落する、そして誰でも皆君主だとは限らないのだと。現に一聽講者は憂ひて曰く

『餘りに赤裸々の人となりて、友人間に於ても云ふべからざる事を露骨に云ふに至る。若し子供に性的現象を語らば家庭は、自ら下品なるものとなるに非ずや』

御說の通りである、併し之は各自の趣味の問題で、『趣味は論議を超越す』るのであり、露骨になるとしても其なり方は人樣々で、何も予が啓蒙を力說しても晩餐の卓に就て茶目公とオチンコの話をしながら飯を食ふて居る樣な御心配は無用であらう。尙又此種の誤解があり。

『人類の人類たる所以は本能と理性との葛藤にある。若し此講話を聞いて本能の發露を重視する人あらば、人生の將來頗る危ふし』小學敎師某氏私信。

此人の如き解放といふ語の誤解は、短い講義に得た速斷であり、予は各所に斷つておいた通り、決して此非難者の考へた樣な意味で、解放を力說して居るのでない。

兎に角予は、軛に繫いだ犬の鼻先に鞭で肉をぶらさげて走らせる樣な倫理、こま鼠を針金製の輪籠に追ひ込んで晝は日ねもす夜は夜もすがら廻させる樣な敎育これらのものからの解放を述べて居る。卽自由な進化と努力の前提として、解放を求めて居るのである。

解放による自重と安心の實證

今上の說の理解を求める爲に、聽講者の答の代表的なのを錄して見やう。

『友人の勸めと自分の好奇心の爲、娼婦に赴かんと欲せる矢先聽講し、斷然罷める。但し道德的觀念によるに非ず、科學的方面より之を壓迫せし也』

『恰も今學期始め迄再三花柳の巷に往來せし事ありしが、聽講後斷然行かざるに至る。』

『之を學ぶ前には異性に强く刺戟されたが、年のせいか學んだ爲か、異性を嫌ふ樣になつたのは不思議である。但し自慰の頻繁度週に一回增し、平均一週二・五乃至三・〇位になる。』

『他の學者は自慰の有害を說く。予は多年の經驗によりて其有害を認めずと雖も、因襲と固陋とはなほ其有害を强ふ、今其大害無きを聞いて安堵す、されど安堵せし故頻繁度增す事無し、益々減退に赴くのみ。』

『過去の自慰の結果、夢精なるものが病的ならざるかを懸念し、精神上多大の恐怖と不安とを抱きしが聽講の結果頭腦に光明を覺え安堵の思をなし、時同に性病の恐るべき事を聞き、正しき結婚以外斷じて猥らなる地に踏込まざる事を決心せり。』

『不純だと思ふて居た自分が、既往に於て潔白であつた事がわかつた。』

人樣々の反應は必ずしも全部樂觀を許さないにしても、數的に云へば、釋放により自重の念を生じた例は著しく多い。なほ之以外に、公表を許さぬ性的生活の葛藤の詳細迄も予に信賴して委ねられた人も少くない。

元來他律的の風紀維持や威嚇的廓淸とかは予の大嫌ひな物であり、校內でも陸軍少佐某氏の體操敎師としての威力は充分に認めたが、學生監として人格的感化力を承認しなかつた。予の斯樣な態度は學生公知の事實であり、其故此應答が探偵監視政策に利用されたり、忌憚無い告白の爲に他の人のお說法や異見を開かされる心配は無い筈で、殊に答を求むる前に此點に注意を促しておいた。

一體斯樣な集團的啓蒙は、惡くすると智識が釋放因子として遊蕩活動を促し之に群集心理が加はつて、例へば村の若衆の團體登樓の如き結果を生ぜぬ共限らない。若し予の講義が斯樣な影響を惹起したならば、それこそ非常な反省を必要とするのだから、事實があつたら遠慮無く告げて貰ひたいと賴んでおいた。併し唯今の所團體的にも個人的にも左樣な報告は無い、但し後に殘す結果もあり、足元から鳥の飛び立つ事もあり得るのだから、今報告が無いからとて、必ずしも樂觀

するに當らないのは勿論の事である。

予の側で口述を必要とする積極的理由

聞く側の聽講必要の理由は大抵前に盡きた。其以外に二次的であるが、當方講師として予が特に口演を必要とするのは、青年の性的生活の研究資料蒐集の問題である。此論文は僅二年間の實驗觀察の報告であるが、多少共机上の空論たる事を免れ、起り得べき場合の比較的多くを網羅し得た事は、此短時日の接觸で若き友達から敎へられた結果である。之迄予の說く所が當分主として舶來種のみを根據として居る事を非常に遺憾とする、併し斯樣に無暗にだゞ廣くて纏まりのつかぬ問題でしかも金儲けに緣遠い研究には、之迄賢明な人が著手しなかつた事も不思議でない。だから日本で得た資料で我等日本人に特に適切なといふ特殊研究は今後に俟たねばならぬ、今我々二人(山本と安田)は微力と僭越とを顧みず一指を染め始めた(三五〇頁人生々物學研究資料蒐集に就て、參照)、希くは此研究の意義ある事を自得された諸兄姉が科學の爲に又來らんとする時代の爲に貴重なる資料を寄與されん事を希望して止まない。

今其蒐集に際して醫師の手を經て得たものは、病有る者のみ醫師の助けを求むる次第だから、病的實例に偏せざるを得ない。ELLISの如く著書で讀者の理解を求め其共力で得たものでは、有識者中特に聰明な人卽强ひられずに讀書し進んで科學的貢献を助けやうとする人の經驗に許り局限され易い。たとひ其經驗が順當であつても、之から結論を造り出すと、智識階級の中でも特に傑出した人々の感情や趣味を、多數民衆に無理强ひする事になりはしまいか。

猶今日書店の店頭に講談倶樂部と同列に毒々しい色の表紙を曝して居る性雜誌を見れば其所にも告白や報告があるが、其は蕩兒の手放しのゝろけであるか、それ共無理解な警官の得々たる功名話に過ぎない。

所で科學研究には歸納する前統計的に、卽成心無しに、材料の大數を一纒めに

採集しなければならぬ。此意味に於て學校の講義で青年と交渉を繼續する事は比較的理想に近いと云ひ得られる。卽性研究に對する興味の多少に係らず、一團の者が或期間話を聞けば、誰でも多少は科學的研究其者に理解が出來る、斯く理解を得てから反應を徵すれば、割に眞面目に近く變化の多い結果を得られる。殊に高等學校二年生位の年配では所謂法科根性や文科氣分もまださう〳〵發達して居ないから、比較的偏しない反應を呈する次第である。

學生々活の內容を知らない人や盆栽的教育に馴らされた人々は、兎角青年學生と無雜作に一括し易いが、實際學生の中にも石部金吉と丹次郎と、さてはハムレツトとドンフワンとは雜然と入り亂れて居る譯、此狀態を見れば、予が教へられたい爲に講義を續行する理由は自明のものとなる事と信じる。

第六章　大規模啓蒙の必要な理由

個人を通しての性教育

扨前述の通り性學講演の存在理由が全く成立した譯だが、それでも矢張心の底では家庭の中で長者から個人的に聞く方が理想的らしい氣持がする。例へば

『理解有る父か兄が弟を、母親か姉が妹を教育する場合には、場合によつては性教育が非常によく行はれる事ありと信ず、但し此場合には、お互に性質をよく理解しあつて居る其上に、互の間に愛とか信とかゞ缺けて居たらダメだらう。』小野俊一氏私信。

所で今日の日本の文化の大局から見て、斯樣な期待を充し得る親や兄姉が幾何あるか、考へてほしい。殊に今の婦人雜誌の大多數から推察出來る通り、母姉の大多數は此點に於て無能力者といふも極言ではあるまい。吾人の努力は今の親達と今後親となるべき人達に此期待に背かぬ能力を先づ具へしめる事にある。

此過渡期に於ける青年及び壯年者に對する性教育は、格段な場合に於ける格段

な唯一の解決法であり、新天新地に入る邪魔物たる無知の荊棘を切り開く爲に揮ふ大斧である。此荒つぽい大規模作業に微妙な調整が多少欠けて居ても、其は是非も無いと云はねばならぬ、兎にも角にも大海を杓でかい乾すやうな事ではとても間に合はぬ現狀である。

併し予は遮二無二性教育講演を試みる者でないが、若し啓蒙が親や兄姉の中に完全に行はれた曉になつても、尙一つ殘存する一難關がある。

『予は自ら與へんと欲して與ふる力無かりし事を、君の教授により完うせられし事を感謝す』一聽講生の父で予の恩師たるM氏私信。

個人的性教育が、實行出來さうで其實出來ない相談であるのは、家族が互に餘りよく知り過ぎて居る事に原因する。卽却つて理解があり愛と信とがある爲に、又互に自重心を認め過ぎる爲に、性智識を傳へる事が普通の家庭で行はれないのも當然である。又不測に來る性病病理と其警戒の如きをば、其子を重んずる親が全部秩序的に語る事が到底不可能なのも、決して親を責むべき事でない、唯講義の如く個人間の交渉から超越した抽象的普通的形式を執つた時に、始めて虛心平氣に云ひもし聞きも出來るといふ此事情は、決して輕々しく看過すべき事柄でないのである。

大規模啓蒙の缺陷調整

『學校で同じ組に居たつて、性的の年級は同じだと見られない』小野俊一氏私信。

講義をやり放しにし、そして跡は野となれ山となれであつたら、至つて氣樂であるが、扨責任を重んじ一々反應を徵して見れば、講義の如何に六ケしいかがよくわかる。最初の年のクラスの一回答に曰く

『自分は十七歳の時迄子供は母の臍から產まるゝ者と信じて居た、故に一學期に亘る講義を非常な驚異を以て聞いた其話の始と全部は自分には新しい事實だつた、性智識の無い自分には全く判らない事もあつた。兎に角自分は自分の知らぬ新しい世界を見せつけられた、其爲に今迄の信仰と道德觀とに多大の動搖を感ずる(中略)。自分の如き無素養の者は例外としても、山本氏の如く、學生は多少性を了解しおれる者

と假定して進行されると、餘り專門的で理解に苦しむから、初學者を目標として講義せられたい』。

實際此最初の時は予も不馴れであり、學生諸子の心理狀態も少しもわかつて居なかつたから、二三極端な人の質問に釣込まれて、此應答者の指摘した通りの誤に陷つた事を告白せねばならぬ。併し此時の講義でさへ、一方の人々には

『何も別段新らしき性智識をも發見せず、希くは無用なる氣兼れをせず、徹底的にしかも猥褻に陷らぬ範圍にて、堂々續講せられたし』。

と六ケしい注文もあつた、之は既に性的戰場の千軍百馬の間に馳驅しつゝある勇士らしいから、其人の望にも應じ兼た次第である。其外秀才はあまり人を馬鹿にした通俗講話と云ふて怒る、一方では專門的だから更に平易にと云ふ、げに忠ならんと欲すれば孝ならずとは予の立場であつた。

一體いつでも末世澆季と云ふのは年をとりかけて居る人のおきまり文句、之に新聞一流の輕卒な速斷が加はつて「滿都の女學生一人として童貞を保つ者ある事無し」などゝ咄々怪事式に大聲疾呼する。うそにしても餘り反復されるから、うそ製造の張本人の所へ逆戻りして來る頃には、立派な事實として信じられる事になる。由來此京都の地は山紫水明の境にあつてしかも脂粉の香たゝならぬ微風にみち〳〵て居る。青年學生の風紀も亦推して知るべしと早合點され易い。併し乍ら予が最初の級から回答や其後に集め得た材料から假に(3)綜合推測を試みると、大學豫科二年生の一團(4)に於ては、百分の約六十は性交經驗の無い事を明答し、百分の二十は何等明答を與へない、餘す百分二十は其經驗を有するとの明答を與へる實狀である。

(1) 最初性交の年齢に就て、順當な發達を遂げた青年の一般狀態は如何であるか。又如何なる條件の下に此現象が起るを常とするか、之に就て具體的統計的報告は今から三四年の後に發表する事が出來やう

(2) 此頃、即大學豫科二年生位の時は、憧憬に富み浪漫的氣分にみち〳〵した頃である。此時を越へて大學に入つた後、斯樣な數的比例に俄然變化が生ずるものと期待する事が出來る。

だから一九二一年四月新學期に入るに當つて、此大多數者に適した講義と予の陣容を改めた。之で春畵を見る如き興奮と期待を以て予の講義を待設けた人々を

失望させた事であらうが、其は當然の結果である。

善惡共に均一化は大規模作業に免れる事は出來ない、それで最も普遍的の點丈を話しすれば、惡く促進する事は避けられる。其で物足りない人又は更に特殊の問題を抱いて居る人には、毎週時を定めて圖書館の一室で會見應問の事に定め、其時から此制を利用し得る人も數多あつた。應問も教室で講義の直後にもやるが此時は餘り公開に過ぎて、臆病な人は到底デリケートな問題を其席で聞く勇氣を持たぬのだから、斯樣な私的會見の制に出でたのである。

東京府立第一高等女學校の校長市川源三氏の試みでは、該校の上級では種々時事問題や修身の話の序でに質問に應じ性智識や結婚問題を話して性教育の一部に宛てるとの事を聞いた。其實況を見ずして云々するは、市川氏に對して失禮ではあるが、よし一方に於て米國渡來のフイルムによつて生物學的智識を與へるにせよ、此問はれたもの丈を時々答へて性教育にするといふ事は不充分であるまいか。何となれば青年男女の最も羞恥心に富んだ頃に、最も知りたい事を人の中で公けに質問する事は非常な度胸が必要だ、度胸がいらぬ位の質問なら始めから問ふ必要も無いにきまつて居る。つまり咽喉から手が出る程知りたい事や自已の性生活に最も適切な事は、自分の現今の實生活と密接な交渉があり過ぎる爲に却つて公言を躊躇するといふのが青年心理である。如何なる問答が繰返されたか、無さんが校長に對してゞあるから、決して温良貞淑の境を脱却した問もなからう。すつと年の若い下級なら却つて奇想天外より落ちる式の問が出て、恐らく教師をして目を白黑させる程の基礎的質問が出やうか、上級となつてはさうも『非常識』な問を發して恩師を苦しめ又自身も赤面する程の問は一寸起りさうにはない。即『顏をあからめる必要の無い』範圍内の性教育は安全第一で頗る結構だが、併し其樣なものなら別段啓蒙でも無く聞かず共世の中が滯り無く過して行けそうだ。併し女子教育界の論客たる市川氏の事だから、決して斯樣な不徹底な事をおやりになる筈はあるまいと思ふが、一寸序に湧き來つた不審の點丈を書いて置く。

第七章　教材の急進的配列

扨當代は性的隱蔽主義の爲に起る諸弊に惱まされて居るから、殊に其を當面の問題として居る青年達には一刻も早く眞の性智識を正しく授けて、以て各自の難關に處する途を工夫させねばならぬ。性智識の要不要は最早くど〳〵と論ずべき時ではない。唯授くる法の攻究が問題なのであるが、之は今予が論じやうとする

對青年の性教育、卽此過渡期に際して焦眉の急に接し難關を突破せんとする人々の特殊問題に於ては、特殊の考慮を拂ふ事を必要とする。

間接諷諭の性教育

扨今性智識を述べるに當つても、殊更に人類の性的現象を避けて、花の雌蕊雄蕊花粉子房から受精に說き及ぼし、或は蛙卵や鷄胚を採つて發生を述べるのは、成程「春の眼ざめ」の前にある少年少女には適當な方法に相違無い。

併し乍ら今吾人の對象とする者は、殆ど其多數は既に丁年を越へた心身共に略成熟した青年である。之等を相手にして前述の如き思はせ振の話を遠廻しにして見た所が、決して彼等の不健全な好奇心と熱烈なる焦燥とを驅逐する事は出來ない。危險は彼の隱蔽主義と五十步百步といひたいが、なまじつか一寸見せる眞似をやつて見せる所が却つて宜しくない。いかさま間接諷諭法によるならば、第一に首を切られる心配が無い、(首を切られるのが恐ろしかつたら、性教育なんか始めから默殺するに限る)。第二には、話す人も聞く人も共に『お上品な有識者』たる人格も保ち得、又潔癖な高雅な趣味に反する事は無い。如何にも一見無難ではあるが、其實の所は病的好奇心を保留し乍ら永久に入口で低徊しつゝ、怪しげな微笑の蔭に精神的自慰を續行する餘裕と不徹底とをいつ迄も殘して置く譯である。

又其外に此間接諷諭の程度が過ぎると、極素直な青年は何が扨先生のおつしやる事であるといふ次第で、少しも眼光を紙背に徹させないから、現に

『之迄私は精子はシダの胞子が水を傳はる樣に、或は風媒花の花粉の樣に運搬されて、人間の兒が宿るものと思ふて居ました』。

といふ今の世に有難い人さへ、現に聽講者の中にあつた。

動物生活の擬人的解釋

此所に又かの間接諷諭法によりて生ずる更に重大なる危險がある、其迄今迄餘り人の注意を惹いて居ない樣であるから、特に詳述を必要とする。

佛蘭西の昆虫學者 FABRE は精密なる觀察を續けて昆虫の生態に注意し、其結果をばガリア人特殊の豐富な想像を加へて縱横に擬人的解釋を加へて、世人の注意を惹いた（大杉榮氏譯書參照）。又白耳義の文人 MATERLINCK は同じく奔放なる想像を馳せて、蜜蜂の生活を鮮明に畫き出した。之等の擬人的解釋は我々の感情に對して頗る愉快であり、從ふて諸種の生物學上の智識の記臆を容易ならしめる。併し乍らHUXLEYも云ふた通り、蝦になつて見なければ蝦の生理がわからないといふのが僞りの無い事實なので、此際科學上の事實と、我々人間の心理から割出した臆測とは嚴に區別しておかねばならぬ。

所が理屈はさういふても、矢張我々は「花笑ひ鳥歌ふ」といふ風な擬人的考へ方を中々脫却する事が出來ない。其で生物學者が花は植物の生殖器官であると述べると、今迄生殖といふ事は何かなしに汚らはしいものと思込んで居た世人は、之迄うるはしく我眼に映じて居た花も汚らはしいものと見なければならぬかと當惑する、卽誤つた因襲に頑はされた知性が感情と衝突する樣になる。此事は我等人間の精神生活に於て永らくやり來つた思考上の習慣であるから、合理的或は不合理と今更論らふて見ても、矢張本能的惰性を以て一般に現れて來る。

扨性智識に於ても此傾向の發現を見よ、花で花粉と子房をとり其によつて人類の卵と精虫との間の消息をほのめかす間はまだいゝ。蝦や蜘蛛の交尾で人間の性交にあてつけるのも、まだ人間と緣が遠いからまづ無難だ、併し乍ら諷諭も進んで行く內此所等で切場げといふ譯に行かぬから、取材が高等なる哺乳動物に及んではどう致したものでござろう。抽象的客觀的思索に頭を馴らした科學者の冷靜はおいて論せず、唯素直な一般人の心理から推すならば、動物學上我々に近い猿又は家畜の性的活動と我等の其とを比較する時、必ずや一種の惡感が勃然として起つて來るのを常とする。之は感じであつて無論超理性的のものだから、前述の如く今更事新しく其合理不合理を論じて見た所が、其感じは消滅する譯でない。併し

其惡感を分析して見ると、其等動物の性的現象と我々の其との類似點が餘りにまざ〳〵と我等の眼前に寫し出された爲に、吾人人間の尊嚴は地に落ち我等は禽獸の世界に引摺り落されたといふ悲哀がある、自然主義者に云はせれば『人類の獸性の現實曝露の悲哀』と云ふ所だ。

所で此感じの生ずるのは之迄あらゆる動物の生活に擬人的解釋を下して居た習慣の惰性から、之等動物學上近縁の生物の性生活に矢張擬人的解釋を下す、すると先づ相同點がパッと目に寫るから主要な相異點（本能を統御せんと努力する理性の存在、換言すれば腦の自律性）を忘れて、人卽獸、獸卽人と不當な混同が始まる。換言すれば從來動物の生活に擬人的解釋を加ふるを習はしとして居た惰性上、此所に解釋の主客が顚倒して、理知を具へた人間の理想生活に迄擬獸的解釋を下す事になる。

此時に當つて諸種の愚痴と不合理と其に基づく悲劇が生じる、例へば結婚に始まる家庭生活をひたすら生殖產兒を目的とする一種の合名會社と見なし、生殖性交のみを是認し「子無きは去る」など〻臆面も無く云ふ事は、性慾の昇華（Sublimation）たる「物の哀れをわまへる心」の存在を無視し、以て人間の家庭を直ちに種馬種牛の牧舍と見做さんと試みる冒瀆である。

なほ此擬獸的思索法のもたらす一の結果として、往年の自然主義文藝勃興の折當時の文學青年が浸りつゝあつた一種の雰圍氣、卽本能と衝動とにこづき廻された揚句の厭人的厭生的氣分がある。フローベール・モーパッサン・ゾラ以來花袋・秋聲・白鳥に迄筋を引いて來て居る此基調は、進化論の啓蒙期に從來の基督敎の盲目的尊人傾向を打破せんが爲に、動物生活の中に含まるゝ人間的要素を高調した餘波とも見る事が出來る。併し乍ら斯樣な態度は、反動期にやむを得ない荒療治の一策で、諸種の副作用を免れる事が出來ない、明治末期に於ける文學青年の多數を支配した本能至上主義と、又其或者の實生活に迄現はれ而して現今に迄餘果

を及ぼして居る耽溺低徊は、蓋し下等動物から順次高等のものへ考へ及ぼして一知半解の生物學的智識に基礎を置いた一の誤解の結果である。

動物心理學上もはや擬人的解釋法は一の時代錯誤となり終つた。雖然として行く所を一にせざる諸種の本能に引摺り廻される外のない『獸的生活』を脱せんとして『理性の自律』を力説するならば、之は人と獸とを差別する偉大なる特徴の發見である、相同點のみを力説して居た十九世紀の生物學が更に進化して、如上の重大な相異點を共に顧みて、『人間の品位』Würde der Menschheitを認むる我二十世紀の生物學となつた。リアリズムの文藝が感情と同時に理知の上に建設さるべきものならば、其人生觀に影響した生物觀其ものは時代の進歩に相應したものでなければならぬ。

扨文藝論は暫くおいて、此樣な擬獸的思索法が、體制簡單な生物から順次高等のものに考を及ぼさんと求むる求心的叙述と、簡單を記述して複雜を暗示せんとする間接的諷諭法との、必然の結果とは極言は出來ないけれど、十中八九迄隨伴して起る平行現象である事は、目前諸種の文化現象の實狀に徴して明白である。而して人類と動物との重大なる相異點に多大の注意を拂ふ事なく、或は又全然其を無視した場合に於て、人間生活全部の擬獸的解釋は、誤つた厭人的厭生的傾向を誘發し易く、又從つて廢頽的耽溺生活に至らしめる危險が多い。

人間性と所謂獸性とを混同する危險

然るに一方予の唱ふる所の人生生物學は、第一に下に引照するが如く、腦力經濟の問題から來て居る。

人生生物學（山本宣治（一九二二年四月）人生生物學講義大要△三―四頁）

純正科學に於て森羅萬象を見るに、其か『何の爲に何を目的として』存在するかと詮索もせず、唯其があるがまゝに『何物が、如何にして』種々の形を呈し種々なる變化をなすかを調べる丈である。

然るに此『人生生物學』では、此在るがまゝの宇宙をば、我々人類自身の欲望と便宜の上から、人類の爲にあり、人類によつて、人類を中心として（Universe for Man, by Man, & of Man）と見做して考へて見

やうとする。併し純客觀的に考へて見れば、決して宇宙は斯樣な存在形式を執つて居ない。其事は勿論だが、科學と雖も人類頭腦の所產たる以上、人生の內容を豐富ならしめる爲、其業蹟を我々の特殊要求に應じて適當に撰み出して利用する事は當然である。自然科學の發達は日が猶淺いけれ共、近頃の專門化と進步があり、到底其業蹟を全部一般人の前に提供し理解を求むる事は出來ない、だから此場合各紹介者は、聽衆に應じ夫々適切と認める重要な材料を採り、之に連絡統一ある順序形式を具へしめて傳へなければならぬ。此時腦力經濟時間經濟を無論顧みなければならぬから、其所で我々自身の生活に直接に緣の薄い智識は、よし純正科學上因襲的に(其實は無意味に)重んじられたものでも遠慮無く省いて、吾人の人生觀と實生活とに密接な交涉を有する智識のみを傳へる事とする。之が予の所謂『人生生物學講義』であり、發表形式の命名の上の問題である。此故に、人生生物學とは、利用厚生に參與し金儲けの種となる應用生物學の同義語ではない。

但し學問上の大研究は、要不要を超越した眞理其ものゝ追究から生まれて來るのであり、始めから要不要を見越してボロそうな物のみを漁るのは末世小人のわざである。現に此講義に於て逃べんとする多くの重大な智識は、皆ひたすら眞理の爲に眞理を求めた先人今人の賜である事を思へば、今吾人の有する人生の爲の人間の科學の根本には、始め人間の要不要と沒交涉であつた純客觀的追究が存して居る事を忘れてはならぬ。

斯く腦力經濟を旨とした『人生生物學』に於て、特殊なる狀態に應ずる時間經濟の都合、人類の性現象をまづ考へて後に一般生物界の廣きに及ぼさんとした遠心的叙述を試みた次第であるが、之は前項に論じた所の思索上甚だ好もしからぬ副作用を有する擬獸的人生觀の發生を豫防し、以て聽者が從來の一知半解の生物學的智識に伴ふ時代錯誤に陷る事を少からしむる效果がある、卽「人間の尊嚴」が最も强い第一印象を作る譯になる。

講述に當つて執るべき二樣の態度

斯樣に間接諷諭法は青年にとつて、却つて廻りくどい思はせ振の爲不健全な好奇心を唆り又誤解を生ずる等、諸種の弊害をもたらす事になる。卽此見掛け許り親切高尙な見せびらかしは、青年に對する敎師の怯懦不徹底であり、寧ろ隱蔽主義より以上有害無益である。而して又間接諷諭法により生じ易い下等生物の生活に一種擬人的解釋を下す習慣は、思索上の惰性によつて逆に人間生活に擬獸的解釋を下し、理知の存在を忘れて唯一本能により縛らしめ、或は人間と人生との眞

意義を誤解せしめ之を不當に厭ひ不當に嫌はしめんとする危險を併發する事になる。

斯く考へて見ると、イヤが應でも人類其自身の性現象に驀進するより外に法は無い。所今之に端的に觸れるとしても、徐々帷を撤する漸進法、急激に未知の世界を學徒の眼前に一擧に展開せしむる急進法とがある。

研究を生命とする學者の歩調には漸も急も有得ない、だから本來學者としては

『說者に於て特に急とか漸とかの考を抱く要無きかと思はる。忠實に事實ありのまゝを語りて足らん歟』

稻葉昌丸師私信。

である筈だ。併し乍ら教師として青年に對し、刺戟性を有する各種の性智識を按配する際に、青年心理の中に立入つて一應其反應を慮つて見る事は是非共必要でなからうか。

所謂常識論を以てすれば、漸進的態度は安全穩健であり、急進的態度によれば激動が起り之に伴ふ危險が頗る憂ふべきだと云ふのであるが、予自身は青年として其見解に同ずる事は出來なかつた。卽

『漸進的ならば幼年より始むべし。十九歳位となれば、もはや生ぬるき事にては承知出來かぬる丈に發達し居れり』。山中平治氏私信。

『普通教育を終りし者に對し、眞理を體得せしむるに、漸も急もあつたものに非ず。端的に眞理をつかむの外他に法無かるべし』。文學士横山俊平氏私信。

『之迄に受け居らざる故、既におそけれ共受けざるより遙によし』。理學博士谷津直秀氏私信。

だから青年心理を解する點に於て、予は老巧練達の教育專門家に勝ると自ら妄信し、此所信に從ふて前掲順序（一三九頁參照）により突進を試みた。

急進法の理論的根據

性教育に際して聽講者の受ける感動々搖は、例へば眼の樣な感覺器官に於ける感覺の如きものであらうか。今其器官に適切な刺戟で、其器官が感受し得る限界以內の或强さのものを撰み、適當の時を隔てゝ與へる時は、刺戟は時々中絕するにも係らず、其餘果（After-effect）が暫時殘存して、或種の感覺が繼續して其器官を通じて感受された樣な效果を生ぜしめる。彼の活動寫眞映寫の如きは、眼の網

膜上に造られた像の餘果を利用し、時を隔てゝ少し宛變化した像を作り、さながら連續して對象が流動する如き印象を受ける事が出來るのは、此原理を利用したものである。

扨今一定量の刺戟を感受せしめんとする場合に、其全量をば比較大量の數部分に分かち短兵急に與へるのと、同一量でも小出しにして惜み〳〵氣永く度々に與へる方法とがある。何にせよ刺戟の埒を明けるにしても、感覺器官其物の障害を來してはいかぬから、先づ其器官の堪へ得る範圍内に於て刺戟の全量をば適當の强さの數部分に分かつ事は無論必要である。斯く適宜に分割した刺戟を急激に反復して與ふる時は、其器官も感受應接に暇無いものだから、受けた印象（卽性教育を受くる際の心的動搖に相當するもの）は比較的朦朧(1)として短時間内に終結する。之に反して同一量の刺戟でも或適度の間隔を隔てゝ與ふる時は、其生ずる印象は明瞭であり、しかも其繼續時間が永い。

(1) 一身の破滅を來す程の過度の動搖を蒙けたさの朦朧といふ意味である。一般に何か感じた奇に、感じに至る迄の經路や論理は直に忘れられてしまふが、終りの感じ丈が深刻に刻み込まれるのを例とする。種々其當時丈は合理的に見えた理由に基づいて造られた戰時の敵愾心が、戰終つて其理由も跡形無い偽と判明した後に及んでも、唯譯もない憎惡として殘存して居るなぞは其一例である。數へる以上朦朧を期待して事に從ふと一の矛盾の如くであり、一部の教師側から

『餘り急行だと、特急の窓から景色を眺めた樣に、結局頭によく殘らぬかと恐れる』農學士三須英雄氏私信。

との抗議も出るが、一般青年の性教育に於て期待する所が、無知に基づく不安を一掃して安心を求むるのが主であり、斷片的性智識を一々詰め込む事は必ずしも必要でない。此點に着目すれば、予が動搖に就て態と朦朧と云ふた意味もよくわかつて來るだらう。

因みに斷片的性智識でも强ひずに案外よく記憶されて居て、性交時一回の射精量の中に存する精子の數は三億乃至六千萬（其平均數は二億）なぞの數字迄暗記して居る人もあるのには、話した予自身でも驚いた程である。

だから此比喩が不當でなかつたら、次の如き結論を得る事が出來る。卽刺戟性の性智識を或一定量を授くるに當つて、其に伴ふ伴ふ動搖を最少と（其繼續期間

を最短と）させる爲には、應接に暇無き程矢續ぎ早に順次刺戟を加へ、以て一擧に不健全なる好奇心の一掃を計るがよいと云ひ得る次第である。

漸進法に對する聽講者の非難

感覺に對するWEBERの法則に據れば、刺戟は等比級數的に增加する時感覺は等差級數的に增加する。眼に對しての明暗の感じや、舌に對して種々の濃度砂糖溶液の與ふる甘さやに就ても略此法則が適用される。其等の事實から類推で、漸進法では弱刺戟から漸次强刺戟に及んで行かうと志ざすのだらう。併し相手は多情多恨の青年の事だ。聽講者の答に曰く

『快刀亂麻を斷つ式でなければ、漸進的では低級性智識が頭をもたげやうとする」。

『凡そ性問題は其細目に亘れば無限に近きものならむ、されば悠々とやる內に時機を失する恐れあり』。

『啓蒙は急進たらざるべからず、但し山本氏のは急進と考へず、尋常なりと思ふ』。

だから、蛇の生殺し式に永く惱まされるのは寧ろ青年にとつて有難迷惑、犬の尾を切る獨逸の譬へ話の通り、憐愍の餘り少し宛尾を切るのは誤つた親切で、其お蔭で永く苦しまねばならぬ。眞の慈悲心を抱く人ならば、其迷ひの尾の一擧に根元から切り放つたに相違無い。

速成性教育と漕ぎ拔ける潮時

青年の性教育に於て、斯く急進的態度を採る事は無論

『やむを得ない、理想的では無いけれど』。理學士村上銳夫氏私信。

して又短時間に切り詰めた性教育に對して、次の樣な鋭い寸鐵がグサととどめを刺しに來る、曰く

『速製にロクなもの無し』小野俊一氏私信。

斯くしてよし理想的でない性教育でも、ロクでもない速成法でも、矢張やらねばならぬ。所で行ふとすれば、激動はどうして免られない。此際激動は少年の無邪氣から青年に分別に入る爲に行ふ一大飛躍に是非共伴ふて來るものであり、蛹が蛾に變ずる時のやうに、何人も此新天地に入る爲に早晩、驗せねばならぬ「產みの苦しみ」に外ならぬ。此時の戰ひ方が不徹底であれば、必ず禍は後迄殘ると

いふ一大事である。どうせ一度は通らねばならぬ瀬戸なら、精々危險を伴ふ事の少い時を見計らふて、渦を乘り起すより外は無い。

所で、いつが其安全な潮時であるか――。老教育者は恐らく憂ひ顔で云ふだらう、『中學生は無鐵砲だ、高等學校生は餘りに活動力があり過ぎる、大學生は社會で優待され過ぎるから危險、學校ホヤ〳〵の青年紳士は自由が利きすぎる』、以下おふてかくの如く、終に安全第一の憂慮と共に紅顔の美少年に遂に白頭翁となり終らざるを得ない。予の所見は其と大いに異なり、青春の此時をおいて他に解決の好機無しとする者である。

抑々大學豫科在學者の中大多數は、感激し易く豊かな憧憬に充ち〳〵て事々に詠嘆を恣にする感傷的傾向を有して居り、危險も多いが、同時に浪漫的空想を溢るゝ許り抱き又功名心滿々たるものがある。一方既に實社會の怒濤に揺弄され始めた壯年者を見れば、之に於て往年の雄心も一部阻喪し始め、幻滅と共に直接行動に入らんとする可能性が多い。是と彼とを比較すれば、青年の方がよし激動を受けるにせよ意馬心猿を制馭せんと努むる向上心が強い。又概して感傷的ながら理想の純潔高遠なる點に於ては、實際的な諦らめに安んずる壯年者に勝る事數等且又恥知らずの或一部の老年者とは到底比較する事も出來ぬ程勝れて居ると云はねばならぬ。重貞を維持する事が單に形式上の問題としても、又純潔が能動受動其孰れから來つたものか一概に云へぬとしても、兎に角大抵臆測する程に、しかく大多數の青年が放埒デカダンの不良少年でないのである。（前一六九頁參照）

人といふ背景がなければ危險も少い

どうあつてもいつかは知らねばならぬ異性の性的器官の構造をいつ教へてよいのか。男でも性交に月經に分娩に又一般婦人の心理に就て理解を有する事が、今の世の生活に是非共必要な事だ。構造を知らずに其生理がわかるか、生理もわからぬ癖に其よりも更に微妙な心理を會得する事が出來るか。此智識を授くる事を